

浅口市埋蔵文化財発掘調査報告 3

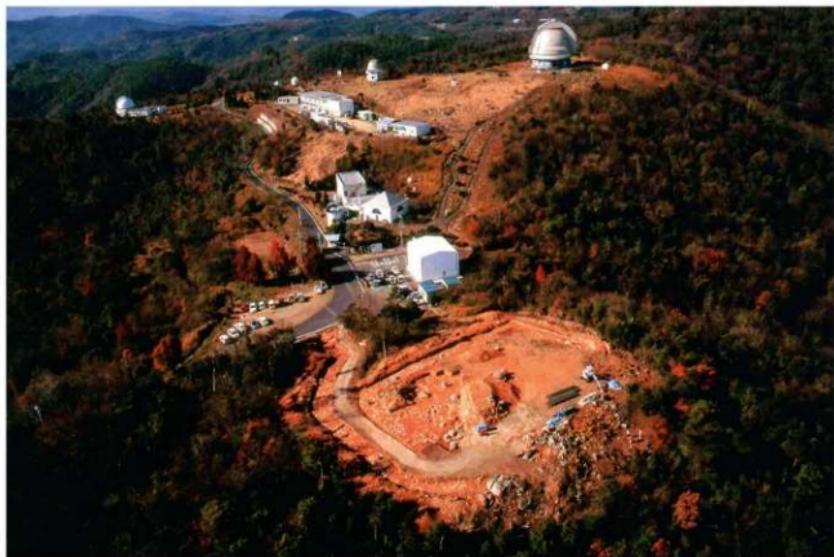
## 竹林寺天文台遺跡 2

国立大学法人京都大学  
(浅口) 高度天体観測研究施設建設に伴う発掘調査

2016

国立大学法人京都大学  
岡山県浅口市教育委員会





1 竹林寺天文台遺跡全景（東上空から）

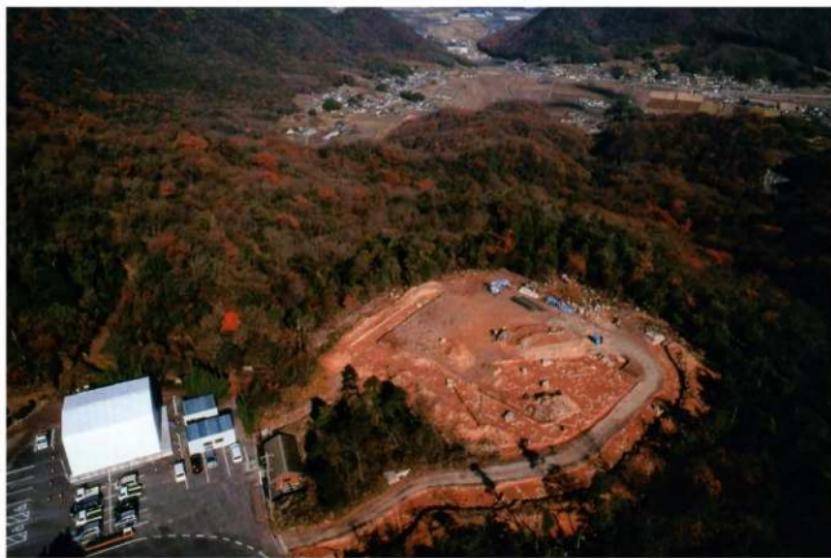


2 弥生時代の遺構全景（南上空から）

巻頭図版 2



1 瀬戸内海を望む（北上空から）



2 小田川を望む（南上空から）



1 壇穴住居 2 (北から)



2 壇穴住居 3 (東から)

巻頭図版 4



1 積穴住居 4 (南東から)



2 竹林寺天文台遺跡出土の土師器

# 序

本書は、平成27年度に実施した岡山県浅口市鶴方町本庄及び小田郡矢掛町南山田にかけて所在する竹林寺天文台遺跡の発掘調査成果を収載しています。

竹林寺天文台遺跡は、浅口市と矢掛町の境界をなす標高400m遙照山、峰続きに阿部山、その間に国立天文台岡山天体物理観測所のある竹林寺山の標高約340mの山頂一角に位置しています。

この度、平成20年度に調査した竹林寺天文台遺跡の調査区周辺において、国立大学法人京都大学による高度天体観測研究施設建設事業が計画されました。浅口市教育委員会では、当事業工事予定地に所在する埋蔵文化財包蔵地の取扱いについて、関係機関と協議を重ねてまいりましたが、現状のままでは保存することは困難なものについては、やむを得ず記録保存の措置を講じることになりました。

発掘調査の結果、弥生時代から中世にかけての集落跡を確認しました。特に弥生時代については、標高340mの地点で竪穴住居や掘立柱建物や多種多様な遺物が見つかり、集落跡の広がりを確認でき、瀬戸内海沿岸地域の高地性集落を考える上で貴重な資料となります。

この報告書が今後の埋蔵文化財の保護・保存とともに学術研究、郷土の歴史研究の資料、また地区住民の一助として活用されることを期待しています。

最後になりましたが、発掘調査から本報告書の作成まで、諸々のご指導・ご支援を賜りました岡山県教育庁文化財課・岡山県古代吉備文化財センターをはじめとする関係各位と誠心誠意発掘調査に従事してくださった皆様に、衷心より御礼申し上げます。

平成29年3月

浅口市教育委員会

教育長 中野留美



# 例　　言

- 1 本書は、国立大学法人京都大学（浅口）高度天体観測研究施設建設に伴い、国立大学法人京都大學と浅口市の委託契約に基づき、浅口市教育委員会が平成27年度に発掘調査を実施した竹林寺天文台遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 竹林寺天文台遺跡は、岡山県浅口市鶴方町本庄3037-5および小田郡矢掛町南山田2808-27に所在する。
- 3 確認調査は、平成26年8月18日～月26日に浅口市教育委員会事務局職員の水田貴士が行い、本発掘調査は、平成27年8月29日～12月25日に同教育委員会事務局職員の水田貴士・山口香織の2名が担当して実施した。本発掘調査面積は950m<sup>2</sup>である。
- 4 発掘調査および報告書作成にあたっては、各氏から終始有益な御指導と御助言をいただいた。記して感謝の意を表する次第である。

安東康宏 石田為晴 宇垣匡雅 大橋雅也 尾上元規 亀山行雄 河合 忍 定金司郎  
澤田秀実 白石 純 高田恭一郎 千葉 豊 西野 望 三浦孝章 光永真一 物部茂樹  
山口雄治 山本原也 岡山県教育庁文化財課 岡山県古代吉備文化財センター  
矢掛町教育委員会
- 5 本書の作成は、平成27年度に水田・山口、平成28年度に水田が担当した。
- 6 本書の執筆と編集は水田が行った。
- 7 石製品の石材鑑定については、国立大学法人岡山大学 鈴木茂之氏に依頼して有益な御教示を得た。記して御礼申し上げる。
- 8 木材の樹種同定および放射性炭素年代測定は、株式会社イビソクに委託して実施した。
- 9 本書に関連する出土遺物および図面・写真類は、浅口市教育委員会（岡山県浅口市鶴方町鶴方2244-2）に保管している。

## 凡　例

- 1 本書に用いた高度値は海拔高である。
- 2 遺構全体図・遺構図が示す北方位は、平面直角座標V系（世界測地系）の座標北である。
- 3 遺構全体図・報告書抄録に記載した経緯度は世界測地系に準拠している。
- 4 本書に掲載した遺構・遺物の縮尺は、個々に明記した。
- 5 遺構全体図に示した遺構略称は、次のとおりである。  
　　堅穴住居：住　　掘立柱建物：建　　土坑：土　　柱穴：柱
- 6 遺構番号は、遺跡ごとに通し番号とし、土器以外についてはその材質等により番号の前に次の略号を付して別番号とした。  
　　石器・石製品：S　　金属製品：M　　土製品：C
- 7 土層断面および土器観察表における色調は、『新版標準土色帳』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財團法人日本色彩研究所色票監修）によっている。
- 8 本書に掲載した写真・地図のうち、第2図は国土交通省国土地理院発行の1/25,000地形図「笠岡」「矢掛」を複製し、加筆したものである。また、第8図は国立天文台岡山天体物理観測所の提供による。
- 9 本書で使用した時代区分は、一般的な政治史区分に準拠し、必要に応じて文化史区分や世紀などを併用した。
- 10 本書に掲載した遺構・遺物図においては、遺構断面図の基盤層・石器・土・金属器の断面等を次に示すトーンで表現している。



基盤層



石器の断面



土・金属器の断面

# 目 次

## 卷頭図版

序

例 言

凡 例

目 次

|                           |    |
|---------------------------|----|
| 第1章 地理的・歴史的環境 .....       | 1  |
| 第2章 発掘調査および報告書作成の経緯と経過    |    |
| 第1節 調査にいたる経緯 .....        | 6  |
| 1 発掘調査の契機 .....           | 6  |
| 2 確認調査 .....              | 8  |
| 第2節 発掘調査および報告書作成の経過 ..... | 12 |
| 1 発掘調査の経過 .....           | 12 |
| 2 報告書作成の経過 .....          | 13 |
| 第3節 日誌抄 .....             | 13 |
| 第4節 発掘調査及び報告書作成の体制 .....  | 14 |
| 第3章 発掘調査の概要               |    |
| 第1節 調査の概要 .....           | 15 |
| 1 調査前の状況 .....            | 15 |
| 2 調査の概要 .....             | 17 |
| 第2節 弥生時代の遺構と遺物 .....      | 19 |
| 1 概 要 .....               | 19 |
| 2 塚穴住居 .....              | 24 |
| 3 掘立柱建物 .....             | 36 |
| 4 段状遺構 .....              | 38 |
| 5 土 坑 .....               | 39 |
| 6 溝 .....                 | 70 |
| 7 柱 穴 .....               | 72 |
| 8 遺構に伴わない遺物 .....         | 73 |
| 第3節 古墳時代以降の遺構と遺物 .....    | 77 |
| 1 概 要 .....               | 77 |
| 2 土 坑 .....               | 82 |

|                                  |     |     |
|----------------------------------|-----|-----|
| 3 柱 穴                            | 90  |     |
| 4 露岩周辺の遺物                        | 91  |     |
| 5 遺構に伴わない遺物                      | 94  |     |
| <b>第4章 総括</b>                    |     |     |
| 第1節 弥生時代の集落構造                    | 95  |     |
| 第2節 弥生時代の石製品について                 | 96  |     |
| 第3節 古墳時代以降の調査成果について              | 97  |     |
| <b>付載</b>                        |     |     |
| 付載1 竹林寺天文台遺跡竪穴住居3出土炭化材の樹種同定      | 98  |     |
| 付載2 竹林寺天文台遺跡竪穴住居3出土炭化材の放射性炭素年代測定 | 100 |     |
| 遺構一覧表                            |     | 104 |
| 遺物観察表                            |     | 110 |
| 図版                               |     |     |
| 報告書抄録                            |     |     |
| 奥付                               |     |     |

## 図 目 次

|   |    |                                    |    |
|---|----|------------------------------------|----|
| 第1図 道路位置図                               | 1  | 第16図 弥生時代の遺構全体図③ (1/200)           | 22 |
| 第2図 調査地周辺の主要遺跡分布 (1/30,000)             | 2  | 第17図 弥生時代の遺構全体図④ (1/200)           | 23 |
| 第3図 竹林寺天文台遺跡過去の調査位置図 (1/3,000)          | 7  | 第18図 竪穴住居1 (1/60)・出土遺物 (1/3)       | 24 |
| 第4図 確認調査トレンド配置図 (1/800)                 | 8  | 第19図 竪穴住居2 出土遺物 (1/4, 1/2, 1/3)    | 25 |
| 第5図 T 1～T 4 平・断面図 (1/60)                | 9  | 第20図 竪穴住居2 (1/60)                  | 26 |
| 第6図 T 5 平・断面図 (1/100)                   | 10 | 第21図 竪穴住居3 (1/60)・竪穴住居3の変遷 (1/200) | 27 |
| 第7図 確認調査出土遺物 (1/4・1/2・1/3)              | 11 | 第22図 竪穴住居3 a (1/60)                | 28 |
| 第8図 国立天文台岡山天体物理観測所建設以前の地形<br>(1/10,000) | 15 | 第23図 竪穴住居3 b (1/60)                | 29 |
| 第9図 現在の地形と調査地点 (1/10,000)               | 16 | 第24図 竪穴住居3 出土遺物① (1/4)             | 30 |
| 第10図 調査区配置図 (1/800)                     | 16 | 第25図 竪穴住居3 出土遺物① (1/2, 1/3, 1/8)   | 31 |
| 第11図 遺構全体図 (1/500)                      | 17 | 第26図 竪穴住居4 (1/60)・竪穴住居4の変遷 (1/200) | 32 |
| 第12図 I 区西壁断面図 (1/60)                    | 18 | 第27図 竪穴住居4 a (1/60)                | 33 |
| 第13図 弥生時代の遺構全体図 (1/500)                 | 19 | 第28図 竪穴住居4 b (1/60)                | 34 |
| 第14図 弥生時代の遺構全体図① (1/200)                | 20 | 第29図 竪穴住居4 c (1/60)                | 35 |
| 第15図 弥生時代の遺構全体図② (1/200)                | 21 |                                    |    |

|                                     |    |   |    |
|-------------------------------------|----|---|----|
| 第30図 堪穴住居4出土遺物 (1/4・1/3・1/6).....   | 36 | 第53図 溝1~7 (1/30) .....                  | 71 |
| 第31図 掘立柱建物1 (1/60) .....            | 37 | 第54図 溝7出土遺物 (1/4).....                  | 71 |
| 第32図 掘立柱建物2 (1/60)・出土遺物 (1/3) ..... | 37 | 第55図 柱穴1~6 (1/30) .....                 | 72 |
| 第33図 掘立柱建物3 (1/60) .....            | 38 | 第56図 柱穴3出土遺物 (1/4).....                 | 73 |
| 第34図 掘立柱建物3出土遺物 (1/4).....          | 38 | 第57図 道構に伴わない遺物① (1/4).....              | 74 |
| 第35図 段状遺構1 (1/60) .....             | 38 | 第58図 道構に伴わない遺物② (1/4).....              | 75 |
| 第36図 土坑1~8 (1/30) .....             | 40 | 第59図 道構に伴わない遺物③ (1/4・1/2・1/3).....      | 76 |
| 第37図 土坑9~17 (1/30) .....            | 42 | 第60図 古墳時代以降の道構全体図① (1/200).....         | 78 |
| 第38図 土坑18~26 (1/30) .....           | 44 | 第61図 古墳時代以降の道構全体図② (1/200).....         | 79 |
| 第39図 土坑27~38 (1/30) .....           | 46 | 第62図 古墳時代以降の道構全体図③ (1/200).....         | 80 |
| 第40図 土坑39~46 (1/30) .....           | 48 | 第63図 古墳時代以降の道構全体図④ (1/200).....         | 81 |
| 第41図 土坑47~55 (1/30) .....           | 50 | 第64図 土坑143~151 (1/30) .....             | 83 |
| 第42図 土坑56~64 (1/30) .....           | 52 | 第65図 土坑152~158 (1/30) .....             | 85 |
| 第43図 土坑65~71 (1/30) .....           | 54 | 第66図 土坑159~167 (1/30) .....             | 87 |
| 第44図 土坑72~81 (1/30) .....           | 56 | 第67図 土坑168~174 (1/30) .....             | 89 |
| 第45図 土坑82~90 (1/30) .....           | 58 | 第68図 土坑175~180 (1/30) .....             | 90 |
| 第46図 土坑91~99 (1/30) .....           | 60 | 第69図 柱穴7~11 (1/30)・柱穴11出土遺物 (1/4) ..... | 91 |
| 第47図 土坑100~108 (1/30) .....         | 62 | 第70図 露岩周辺の出土遺物① (1/4).....              | 92 |
| 第48図 土坑109~117 (1/30) .....         | 64 | 第71図 露岩周辺の出土遺物② (1/4).....              | 93 |
| 第49図 土坑118~126 (1/30) .....         | 66 | 第72図 道構に伴わない遺物 (1/4).....               | 94 |
| 第50図 土坑127~135 (1/30) .....         | 68 | 第73図 衣採の高杯 (1/4).....                   | 95 |
| 第51図 土坑136~142 (1/30) .....         | 69 | 第74図 弥生時代後期の道構配置図.....                  | 95 |
| 第52図 土坑27・土坑138出土遺物 (1/4) .....     | 70 |   |    |

## 卷頭図版目次

|       |                      |
|-------|----------------------|
| 卷頭図版1 | 1 竹林寺天文台遺跡全景 (東上空から) |
|       | 2 弥生時代の道構全景 (南上空から)  |
| 卷頭図版2 | 1瀬戸内海を望む (北上空から)     |
|       | 2 小田川を望む (南上空から)     |

|       |                  |
|-------|------------------|
| 卷頭図版3 | 1 堪穴住居2 (北から)    |
|       | 2 堪穴住居3 (東から)    |
| 卷頭図版4 | 1 堪穴住居4 (南東から)   |
|       | 2 竹林寺天文台遺跡出土の土師器 |

## 図版目次

- |      |                        |                                |
|------|------------------------|--------------------------------|
| 国版1  | 1 天文台から蓬山を望む（西上空から）    | 3 土坑126（北西から）                  |
|      | 2 2区丘陵頂部全景（東から）        |                                |
| 国版2  | 1 2区丘陵頂部全景（西から）        | 国版13 1 土坑127（北から）              |
|      | 2 2区丘陵頂部全景（南から）        | 2 土坑136（西から）                   |
| 国版3  | 1 2区北側調査区全景（北東から）      | 3 土坑138（北東から）                  |
|      | 2 2区西側調査区全景（南から）       |                                |
| 国版4  | 1 1区全景（北東から）           | 国版14 1 土坑141（西から）              |
|      | 2 3区北側調査区全景（南から）       | 2 溝4（東から）                      |
| 国版5  | 1 壊穴住居1（南東から）          | 3 溝7（北西から）                     |
|      | 2 壊穴住居2（南東から）          | 国版15 1 柱穴3遺物出土状況（東から）          |
|      | 3 壊穴住居2中央穴周辺の岩盤（南から）   | 2 土坑148（南東から）                  |
| 国版6  | 1 壊穴住居3（北西から）          | 3 土坑156（南西から）                  |
|      | 2 壊穴住居3東側崩壊土塊検出状況（西から） | 国版16 1 土坑169（北東から）             |
|      | 3 壊穴住居3炭化材検出状況（北から）    | 2 土坑177（北から）                   |
| 国版7  | 1 壊穴住居4（北東から）          | 3 柱穴11遺物出土状況（南東から）             |
|      | 2 壊穴住居4a（南東から）         | 国版17 1 土器①（確認調査）               |
|      | 3 壊穴住居4土層断面（西から）       | 2 土器②（壊穴住居2）                   |
| 国版8  | 1 壊穴住居4屋内土坑（北から）       | 3 土器③（壊穴住居3）                   |
|      | 2 挖立柱建物1（西から）          | 国版18 1 土器④（壊穴住居4）              |
|      | 3 挖立柱建物2（東から）          | 2 土器⑤（掘立柱建物3、土坑27・138、溝7、柱穴3）  |
| 国版9  | 1 挖立柱建物3（南東から）         | 3 土器⑥（遺構に伴わない弥生土器）             |
|      | 2 段状遺構1（南東から）          | 国版19 1 土器⑦（遺構に伴わない弥生土器）        |
|      | 3 土坑5（南から）             | 国版20 1 土器⑧（遺構に伴わない弥生土器）        |
| 国版10 | 1 土坑23（南から）            | 2 土器⑨（土師器）                     |
|      | 2 土坑38（北から）            | 国版21 1 土器⑩（土師器）                |
|      | 3 土坑45（西から）            | 国版22 1 土器⑪（土師器）                |
| 国版11 | 1 土坑52（西から）            | 国版23 1 土器⑫（土師器、須恵器、龜山焼、備前焼、陶器） |
|      | 2 土坑60（南西から）           | 2 鉄器、土製品（壊穴住居3）                |
|      | 3 土坑65（東から）            | 国版24 1 石器・石製品①                 |
| 国版12 | 1 土坑67（南東から）           | 国版25 1 石器・石製品②                 |
|      | 2 土坑106（北から）           |                                |

## 写真目次

|                    |    |                        |    |
|--------------------|----|------------------------|----|
| 写真1 坪古墳出土乳孔鏡       | 3  | 写真9 発掘調査風景             | 18 |
| 写真2 市平1号墳石室        | 4  | 写真10 丘陵頂部の露岩           | 18 |
| 写真3 T5土坑の検出状況（北から） | 10 | 写真11 風化した流紋岩           | 18 |
| 写真4 T5完掘状況（南西から）   | 10 | 写真12 積穴住居3 作業風景        | 28 |
| 写真5 T4の掘り下げ作業（北から） | 11 | 写真13 積穴住居4 の検出状況（南東から） | 33 |
| 写真6 T3の遺構検出作業（南から） | 11 | 写真14 積穴住居4 挖削の深さ       | 33 |
| 写真7 中学生の職場体験       | 12 | 写真15 サヌカイト剥片           | 77 |
| 写真8 現地説明会の様子       | 12 | 写真16 2区西側調査区の露岩（西から）   | 92 |

## 表目次

|                      |     |           |     |
|----------------------|-----|-----------|-----|
| 第1表 文化財保護法に基づく提出書類一覧 | 14  | 土器観察表     | 110 |
| 第2表 土師器小皿の法量分布図      | 93  | 金属製品観察表   | 113 |
| 第3表 竹林寺天文台遺跡出土石製品一覧表 | 96  | 土製品観察表    | 113 |
| 遺構一覧表                | 104 | 石器・石製品観察表 | 114 |
| 新旧遺構名称対照表            | 108 |           |     |

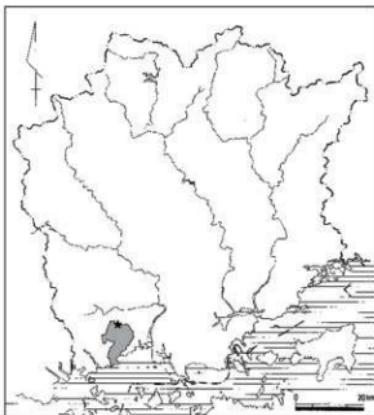


# 第1章 地理的・歴史的環境

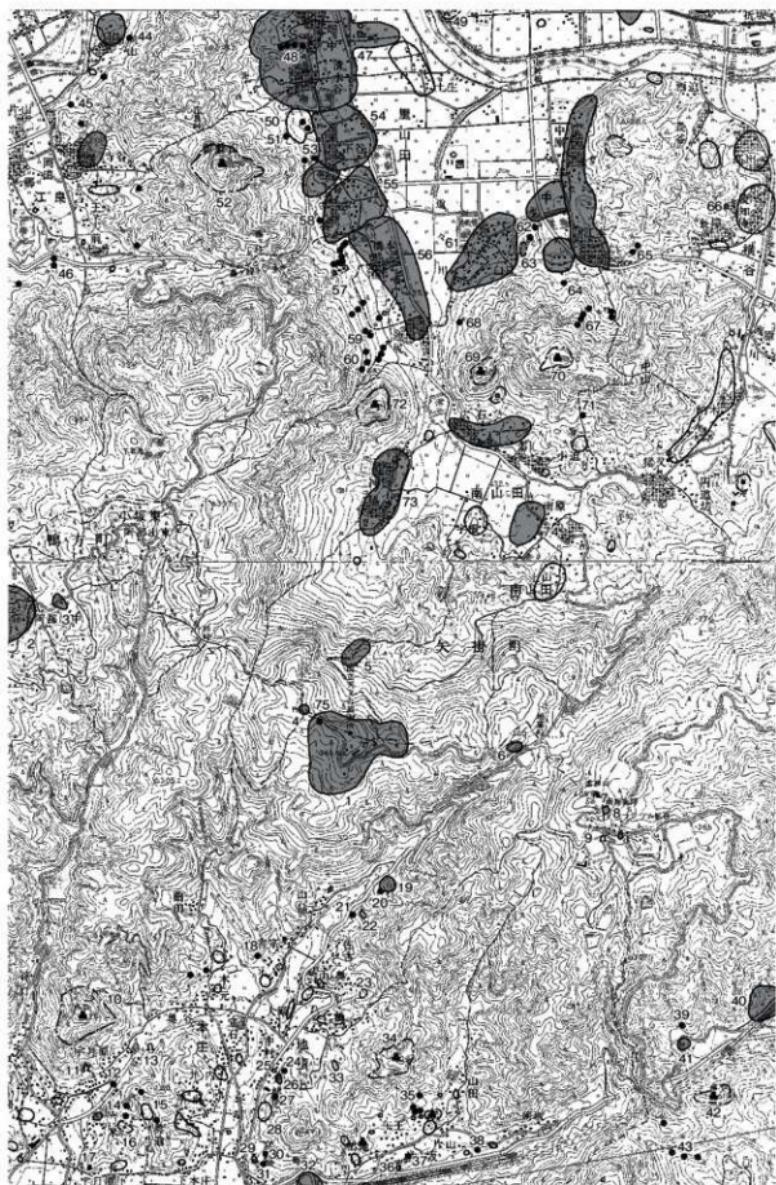
竹林寺天文台遺跡は、岡山県南西部の浅口市鴨方町本庄および小田郡矢掛町南山田に所在する。浅口市と小田郡矢掛町は、東側を倉敷市、北側を井原市と総社市、西側を笠岡市と浅口郡里庄町とに接している。竹林寺天文台遺跡は、標高384mの竹林寺山から東側へ派生する尾根上に位置する。竹林寺山は遙照山山系に属する山で、浅口市と矢掛町の境界に位置し、別名市平山とも呼ばれている。遙照山山系は遙照山、竹林寺山、阿部山が北東から南西へ連なる標高300~400mの山地で、標高250m以上の場所では白亜紀の火山活動によって堆積した流紋岩、それ以下の場所では白亜紀末に貫入した花崗岩を地質基盤とする。遙照山山系の中でも阿部山を水源とする河川は南側の浅口市域、北側の矢掛町域へ流出しており、鴨方町地頭や矢掛町里山田などの低地部で扇状地を形成している。浅口市の本庄川と曲田川は大殿で合流し鴨方川となって南流し、下名口で鴨方町の北西部を流れる杉谷川、地頭上で鴨方町の北東部を流れる益坂川と合流する。矢掛町の道々川は、南山田、里山田、中地区などの扇状地を形成し、土生で矢掛町を東西に流れる小田川に合流する。

竹林寺天文台遺跡周辺の遺跡は、古くは旧石器時代から存在する。阿部山ではサヌカイト製のナイフ形石器が採集され、鴨方町益坂の和田遺跡からはサヌカイト製の槍先形尖頭器が出土している。縄文時代には、鴨方町益坂の向原遺跡や地頭上の段林遺跡などで後期の土器が確認されている。矢掛町里山田の清水谷遺跡からも後・晩期の土器片が出土している。

弥生時代になると、遺跡が飛躍的に増加する。清水谷遺跡一本木地区では島状の微高地を利用した前期の環濠集落が確認されている。この環濠集落内からは、堅穴住居6軒や掘立柱建物30棟以上が検出された。環濠内の堅穴住居は、平面形態が円形で住居の中央に2つの柱穴に挟まれた中央穴をもつ松菊里型住居である。また環濠集落より西側の低位部から水田が検出されており、前期の集落形態を示す良好な資料となっている。弥生時代中期には鴨方町と矢掛町の境界に位置する地蔵峠南の地蔵峠遺跡や竹林寺山の中腹に位置する鴨方町地頭上の段林遺跡、遙照山の南東麓に位置する金光町の上竹西の坊遺跡などが知られている。地蔵峠遺跡では土器が採集され、段林遺跡では分銅形土製品や土器が出土している。上竹西の坊遺跡では堅穴住居6軒が検出され、土器、石鎌、石包丁、分銅形土製品が出土している。矢掛町南山田の神之脇遺跡・上山遺跡、里山田の清水谷遺跡や畑中散布地でも弥生時代中期の土器が確認されている。里山田下谷遺跡では向木見型の特殊壺・器台を含む中期の土器が出土している。遺跡の分布から、弥生時代中期には遙照山山系に集落が点在していたこと



第1図 遺跡位置図



第2図 調査地周辺の主要遺跡分布 (1/30,000)

| 弥生時代集落・散布地   | 古墳         | 古墓等        | 山城          |             |
|--------------|------------|------------|-------------|-------------|
| 1 竹林寺天文台遺跡   | 2 阿部山遺跡    | 3 阿部山遺跡    | 4 竹林寺遺跡     | 5 竹林寺・地蔵谷遺跡 |
| 6 地蔵峠遺跡      | 7 遙照山廃寺    | 8 遙照山山頂遺跡  | 9 遙照山瓦窯跡    | 10 桧山城跡     |
| 11 宇月原窯跡     | 12 宇月原塚古墳  | 13 杉谷窯窯跡   | 14 向山古墳群    | 15 奥古垣群跡    |
| 16 向山土器棺墓    | 17 米道跡     | 18 坪古墳     | 19 段林遺跡     | 20 段林古墳     |
| 21 墓地古墳      | 22 道面遺跡    | 23 金星遺跡    | 24 地頭上八幡坂古墳 | 25 八幡五輪塔    |
| 26 地頭上八幡神社遺跡 | 27 光林坊古墳   | 28 光林坊遺跡   | 29 日吉神社遺跡   | 30 日吉神社古墳   |
| 31 日吉塚古墳     | 32 和田遺跡    | 33 桶路遺跡    | 34 西知山城跡    | 35 片山塚古墳群   |
| 36 向原遺跡      | 37 向原古墳    | 38 阿坂古墳    | 39 大石古墳     | 40 上竹西の坊遺跡  |
| 41 カナクロ田遺跡   | 42 城山城跡    | 43 加賀谷古墳群  | 44 向山古墳     | 45 片山古墳群    |
| 46 塚上古墳群     | 47 清水谷遺跡   | 48 煙中古墳群   | 49 茶臼山城跡    | 50 四頭山古墳    |
| 51 下谷古墳      | 52 伽藍山城跡   | 53 三頭山古墳群  | 54 里山田下谷遺跡  | 55 里山田上谷遺跡  |
| 56 橋本遺跡      | 57 橋本古墳群   | 58 橋本荒神塚古墳 | 59 雷師神社古墳群  | 60 泊尻古墳群    |
| 61 白江遺跡      | 62 芸岡山古墳群  | 63 芸岡山遺跡   | 64 中池ノ内遺跡   | 65 江本祐安寺古墳群 |
| 66 妙泉寺境内古墓群  | 67 安居寺谷古墳群 | 68 王子の塚古墳  | 69 鶴が迫山城跡   | 70 中山城跡     |
| 71 小道大塚古墳    | 72 山田古城跡   | 73 神之脇遺跡   | 74 上山遺跡     | 75 市平古墳群    |

が想定される。後期になると、矢掛町里山田・中地区など、平地に面する丘陵上で遺跡が増加する。里山田地区では清水谷遺跡・里山上田谷遺跡・里山田下谷遺跡、中地区では中池ノ内遺跡・白江遺跡といった集落が形成された。清水谷遺跡一本木地区では前期の環濠集落より西側の低位部で後期の水田層が検出されている。里山田上谷遺跡では、竪穴住居内から後期後半の土器が出土している。中池ノ内遺跡では、竪穴住居が検出されており、住居廃絶後には住居域の南部に土器棺を開むように土坑墓を配置した墓域が形成されている。白江遺跡では、溝状の構造から土器がまとまって出土している。このほかに、南側の山塊中腹部でも遺跡が確認されている。鴨方町地頭上の道面遺跡では、竪穴住居と柱穴列・貯蔵穴が検出されている。段林遺跡では、竪穴住居が検出され、鉄鋤や鉄製刀子、玉類・土器などが出土している。また、標高370mの高地に立地する竹林寺天文台遺跡でも、この時期の構造が確認されている。鞍部を挟んで東西に連なる2つの丘陵頂部平坦地のうち、西側平坦地では焼失住居を含む竪穴住居2軒が検出されている。今回の調査地点にあたる東側平坦地では竪穴住居、掘立柱建物が検出されている。後期末になると、和田遺跡では土坑墓群が築かれ、向見型の特殊器台や玉類が出土している。また、矢掛町白江の芸岡山遺跡は尾根上に位置し、30基からなる土坑墓群が築かれた。土坑墓群周辺の土坑や溝からは土器が出土し、この中には立坂型の特殊壺・特殊器台が含まれている。

古墳時代になると、丘陵上に古墳が築かれるようになる。遙照山系南側では、古墳時代前期に、集落から離れた丘陵上に箱式石棺をもつ円墳が数多く築かれる。鴨方町小坂東の宇月原向山1号墳は盛土が消失しており墳形は不明であるが、組合せ箱式石棺の中から2体分の人骨と鉄剣・鉈・鎌が出土している。鴨方町地頭上の光林坊古墳は丘陵頂部に位置し、長さ2.0m、幅0.4mの箱式石棺をもつ。また鴨方町本庄の坪古墳からは、乳文鏡（市指定文化財・写真1）が出土している。なお、遙照山系南側はもとより浅口市全域で古墳時代を通じて前方後円墳は築かれておらず、明確な中期古墳も確認されていない。一方で、遙照山系北側では、矢掛町東三成地区で前方後円墳が築かれている。このうち、小田川東岸に位置する茶臼山山頂では、茶臼山古墳（全長23m）が確認されている。また、

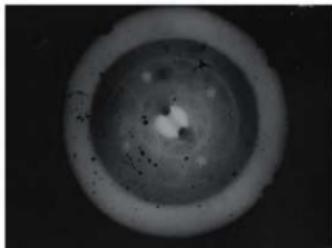


写真1 坪古墳出土乳文鏡

箱式石棺をもつ古墳も築かれており、矢掛町里山田土井の土井1号墳が知られている。中期古墳である白江の芋岡山1号墳からは、老年男性の人骨と堅櫛が出土している。

古墳時代後期になると、遙照山山系や丘陵上に横穴式石室をもつ古墳が数多く築かれる。鶴方町本庄の市平古墳群は、竹林寺山山頂南東斜面の標高約340mに位置する、2基からなる古墳群である。1号墳は直径7.5m前後の円墳と推定され、現存長3.5m、最大幅1.2mの両袖式の横穴式石室が露出している（写真2）。1号墳の東側に位置する2号墳は、南北5.7m、東西6.2mの不整形な墳丘で、付近には石室に用いられたとみられる石材が散乱している。鶴方町地頭上の段林古墳は、盛土の大半



写真2 市平1号墳石室

が消失していたものの調査により直径8~9mの円墳と推定されており、横穴式石室内から耳環・鉄鎌・農工具・土師器・須恵器が出土している。鶴方町地頭上の宮の脇古墳は、直径約14mの円墳と推定されており、横穴式石室内から耳環・銅鏡・大刀・鉄釘や須恵器が出土している。地頭上の塚地古墳は直径約11mの円墳と推定され、横穴式石室内から馬具・耳環・鉄刀・鉄製刀子・鉄鎌・鉄釘・須恵器が出土している。鶴方町益坂の阿坂古墳は、直径約12mの円墳と推定され、横穴式石室内から耳環・鉄鎌・須恵器が出土している。阿部山東麓には里山田の池尻古墳群・橋本古墳群といった群集墳が築かれる。橋本古墳群は15基の古墳からなり、古墳群内最大規模の橋本荒神塚古墳は、横穴式石室に岡山县内では類例の少ない石棚を有する。また古墳時代終末期には、矢掛町南山田に小追大坂古墳が築かれる。全長10.7m、奥壁幅2.4mに及ぶ大型の横穴式石室を内部主体にもつ古墳で、町内の後期古墳の中では最大規模の東西約27m、南北約25mの方墳とされている。

古代には、遙照山山系南側は浅口郡、北側は小田郡に分けられた。小田川沿いには旧山陽道が整備され、古代的主要交通路として機能した。清水谷遺跡楠木地区では、総柱建物や掘立柱建物が検出され、畿内産の土師器や円面鏡などが出土しており、官衙の可能性が指摘されている。この時代の生産に関連する遺跡として、上竹西の坊遺跡では7世紀頃の須恵器窯が検出され、灰原からは須恵器や円面鏡が出土している。和田遺跡では、8世紀前半の横口式製炭窯が検出されている。7世紀以降、地方にも仏教が広まると各地で仏教寺院が建立されるようになり、奈良時代から平安時代にかけて山上などの高地にも仏教聖地が求められるようになる。遙照山では蓮華文軒丸瓦や平瓦が採集されており、古代の瓦を焼いたとみられる遙照山瓦窯跡の存在とともに、山岳寺院の建立を示唆している。このほかに阿部山では土製相輪が採集されている。

中世以降にも周辺での信仰を示すものが散見される。遙照山山頂を下った金光町上竹では、室町時代のものとみられる経筒や密教法具が採集され、経塚が築かれていたと想定される。矢掛町南山田には、地蔵岩と呼ばれる高さ約45m、東西幅約50m、南北幅約120mの方状節理によって方形に割れたたる紋岩の露岩があり、矢掛町の重要な文化財に指定されている。地蔵岩の下にある岩窟には日限地蔵尊がまつられており、修驗道の靈場とされていた。鶴方町本庄木ノ元のゆるぎ堂にまつられるゆるぎ堂地蔵石仏は花崗岩一石を丸彫にしたもので、刻文から正慶元（1332）年の作と確認できる。この時代としては希少な円形の頭光を有する丸彫石仏であり、県重要文化財に指定されている。また、鎌倉時代には鶴方町小坂西に藤原氏を領家とする小坂荘が置かれていたとされる。後に預所職を譲与された

三聖寺の『三聖寺文書』には、室町時代初頭までの小坂荘の記録が残されている。

戦国時代になると、遙照山山麓や周辺の丘陵上に山城が多数築かれるようになる。鴨方町小坂東の杉山城（標高223m）や益坂の西知山城（標高183m）、矢掛町の茶臼山城（標高96m）・山田古城（標高210m）・船が迫山城（標高186m）・中山城（標高270m）などがあげられる。このうち杉山城は山全体に岩石が多く別名要害山城とも呼ばれる連郭式山城で、曲輪、堀切や石垣がみられる。茶臼山城は、堀や35以上の郭に囲まれた平山城で、柱穴や礎石などが検出されている。

江戸時代には、遙照山山頂に両面薬師と呼ばれる石仏をまつる薬師堂が置かれており、麓に暮らす人々の信仰を集めた。遙照山の山岳寺院の流れをくむこの薬師堂は、長らく鴨方町六条院の明王院と矢掛町南山田の觀蓮寺によって管理されていたが、昭和44年に遙照山観蓮寺薬師院として独立寺院となり現在に至る。一方で、竹林寺山山頂に立地していた竹林寺は、一帯に多数の院、坊、庵があったとされているが、寛文年間に岡山藩主池田光政の行った社寺整理により廃寺となった。明治16年に竹林寺の本堂があったとされる山頂部に金比羅堂が建立されているが、現在も周辺には竹林寺に伴うとみられる石組や古井戸などの遺構が残されている。

## 主要参考文献

- 平井徹治編『鴨方町誌』 鴨方町役場 1955  
 間壁忠彦「岡山県矢掛町白江遺跡」「倉敷考古館研究集報」第1号 倉敷考古館 1966  
 間壁忠彦「岡山県矢掛町李岡山遺跡調査報告」「倉敷考古館研究集報」第3号 倉敷考古館 1967  
 石田寛『岡山県の地理』 福書店 1978  
 伊藤晃ほか「山陽自動車道建設に伴う発掘調査2」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告42 岡山県教育委員会 1981  
 浅倉秀昭『里山下谷遺跡・上谷遺跡確認調査』岡山県埋蔵文化財報告12 岡山県教育委員会 1982  
 間壁忠彦ほか「矢掛町史」本編 矢掛町 1982  
 高畠知功「茶臼山城跡」「岡山県埋蔵文化財報告」16 岡山県教育委員会 1986  
 井上弘『上竹西の坊遺跡ほか』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告69 岡山県教育委員会 1988  
 間壁忠彦「第二章 郷土のあけぼの」「鴨方町史」本編 鴨方町 1990  
 桑田俊明「白江遺跡ほか」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告80 岡山県教育委員会 1992  
 尾上元規ほか「中池ノ内遺跡」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告108 岡山県教育委員会 1996  
 平井勝「岡山県矢掛町橋本荒神塚古墳（橋本15号墳）の測量調査」「古代吉備」第19集 古代吉備研究会 1997  
 小林利晴ほか「段林遺跡・段林古墳」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告132 岡山県教育委員会 1998  
 岡本寛久「道面遺跡・塚地古墳」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告147 岡山県教育委員会 1999  
 直原伸二ほか「清水谷遺跡〈一本木地区〉」矢掛町埋蔵文化財発掘調査報告1 矢掛町教育委員会 2001  
 矢掛町教育委員会「矢掛の文化財」 2001  
 小林利晴「神之脇遺跡ほか」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告169 岡山県教育委員会 2002  
 金光町史編纂委員会編「金光町史」本編 金光町 2003  
 藤江望ほか「清水谷遺跡〈袖木地区〉」矢掛町埋蔵文化財発掘調査報告2 矢掛町教育委員会 2003  
 小林利晴「竹林寺天文台遺跡」岡山県埋蔵文化財報告34 岡山県教育委員会 2004  
 水田貴士「森山遺跡」浅口市埋蔵文化財発掘調査報告1 浅口市教育委員会 2008  
 定金司郎「浅口市の地質時代を考える」浅口市教育委員会 2009  
 水田貴士ほか「竹林寺天文台遺跡」浅口市埋蔵文化財発掘調査報告2 浅口市教育委員会 2009

## 第2章 発掘調査および報告書作成の経緯と経過

### 第1節 調査にいたる経緯

#### 1 発掘調査の契機

竹林寺天文台遺跡は、浅口市と小田郡矢掛町にまたがる弥生時代を中心とした高地性の遺跡である。竹林寺天文台遺跡における新望遠鏡建設に係る協議は、平成20年度に大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台岡山天体物理観測所（以下、岡山天体物理観測所という。）と浅口市教育委員会（以下、市教委という。）との契約に基づき、当該地の約700m<sup>2</sup>の発掘調査を実施した。

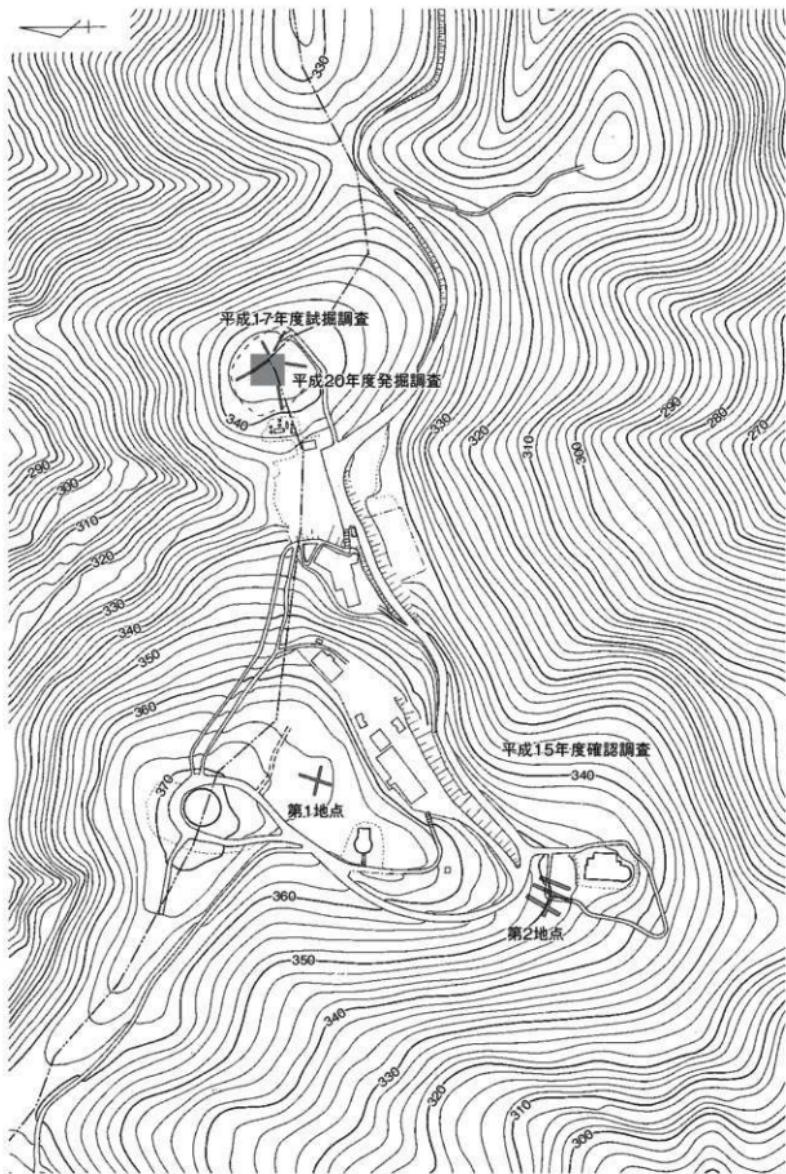
平成25年に入り、新望遠鏡施設は、国立大学法人京都大学（以下、京都大学という。）が建設することとなり、事業主体者が岡山天体物理観測所から京都大学に変更となったことが明らかとなった。

京都大学による具体的な事業が計画され、平成26年2月から事業予定地内の埋蔵文化財の取扱いについて協議を開始した。開発事業地内の観測棟の一部と擁壁部分は、平成17年度の岡山県教育委員会（以下、県教委という。）の試掘調査結果と平成20年度の発掘調査結果から、丘陵頂部の調査区外にも遺構が広がることが確認できた。また、丘陵南西斜面での既存進入路拡幅による掘削の及ぶ範囲に事前に確認調査を行い、遺跡の内容や範囲を把握したうえで、その対応について協議することとした。

平成26年8月の確認調査の対象地は、開発事業地内への進入路の拡張による掘削の及び範囲であり、調査内容の詳細は次項に述べるとおりである。この確認調査により、対象地の丘陵南から南西斜面に遺構の広がりが認められたことから、竹林寺天文台遺跡の当該箇所の対応について京都大学と協議を重ねた。現状保存について協議を行った結果、計画変更が困難である結論となった。

その後、平成27年4月に京都大学から市教委へ発掘調査の打診がなされたため、5月に京都大学、県教委、矢掛町教育委員会、市教委の4者が協議し、平成27年度中に市教委が発掘調査による記録保存を実施し、その費用を京都大学が負担することが了解された。平成27年7月1日に、上記の4者で国立大学法人京都大学（浅口）高度天体観測研究施設建設のための土地整備に伴う文化財保護に関する覚書を締結した。また、同日、京都大学と浅口市は埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結した。

平成27年8月に、京都大学から文化財保護法第93条に基づく「埋蔵文化財の発掘の届出」が提出され、岡山県教育委員会教育長から工事着手前に発掘調査を実施する旨の通知がなされた。市教委が平成27年8月末日から発掘調査を実施することとなった。



第3図 竹林寺天文台遺跡過去の調査位置図 (1/3,000)

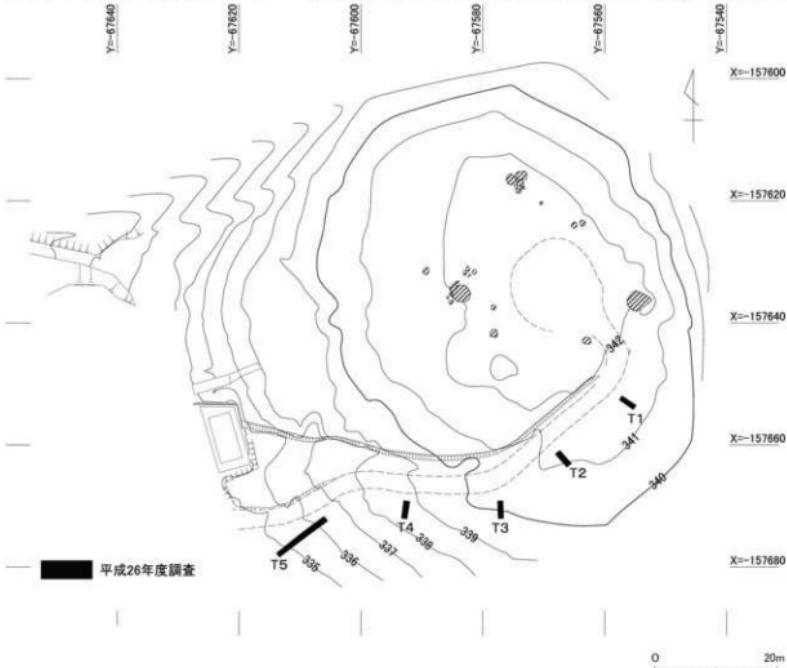
## 2 確認調査

事業予定地は、標高342mを最高所とする東西70m、南北90mの丘陵頂部に位置している。平成20年度の発掘調査により、竪穴住居2軒を含む弥生時代後期の集落が確認されている。確認調査は、既存進入路の拡幅部分の丘陵南側及び南西斜面上における遺跡の広がりとその残存状況を確認する目的で、平成26年8月19日から8月26日までの間実施した。トレンチは、丘陵頂部付近に2箇所、南西斜面に3箇所設置した。

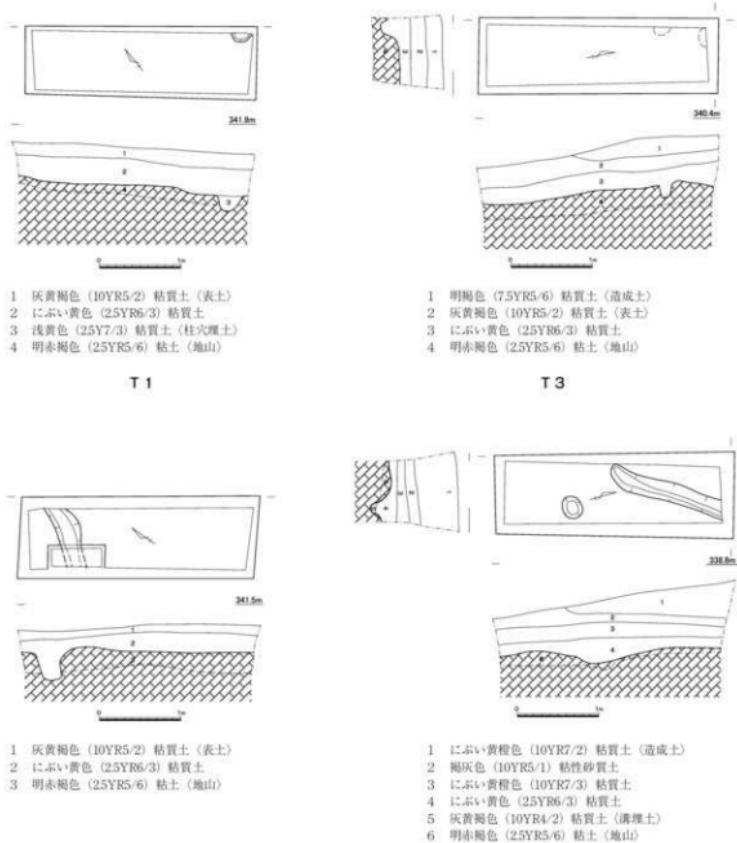
調査の結果、竹林寺天文台遺跡は、丘陵の南側及び南西斜面に遺構が広がっていることが判明した。遺構は、全てのトレンチで確認された。

T1は、計画地東側の標高341m付近に設定した。表土とにびい黄色粘性砂質土の弥生時代後期包含層を約50cm掘り下げるに赤褐色粘土の地山となる。地山を切り込む柱穴1基が確認された。柱穴からは遺物は出土していない。本発掘調査における再検出により土坑100であることが判明した。遺物は、弥生土器の壺の口縁部1と高杯の脚部2が出土している。壺と高杯の外面は、赤色顔料が塗布されている。

T2は、T1から15m南西側の標高341m付近に設定した。T1と同様の堆積状況を示し、約30cm掘り下げるに地山を検出した。トレンチ内北側で地山を切り込む溝1条が確認された。溝は上幅30cm、



第4図 確認調査トレンチ配置図 (1/800)



第5図 T 1～T 4平・断面図 (1/60)

下幅20cm、深さ20cmを測る。溝からは弥生土器片の他に、表土から須恵器の小皿7が出土している。

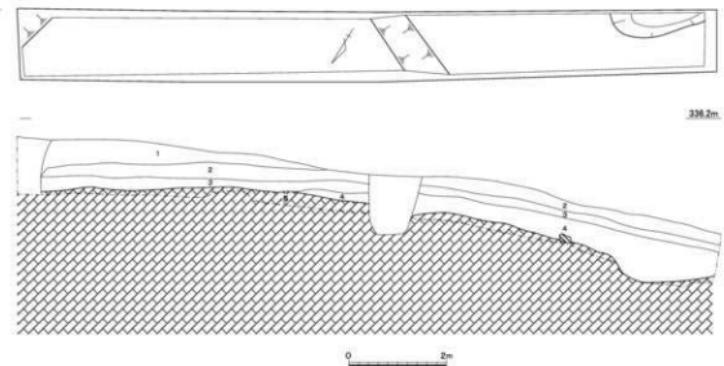
T 3は、T 2から15m南西側の標高340m付近に設定した。造成土を掘り下げるとT 1とT 2と同様の堆積を示し、約60cm掘り下げると地山を検出した。トレンチ北側と西側の壁面で地山を切り込む柱穴2基が確認された。柱穴からの出土遺物はない。その他の遺物は、弥生土器の小片や土師器の小皿片が出土している。

T 4は、T 3の20m西側の標高338m付近に設定した。造成土を掘り下げると他のトレンチと同様の堆積を示し、約80cm掘り下げると地山を検出した。地山を切り込む溝1条と柱穴1基が確認された。溝は上幅20cm、下幅10cm、深さ15cmを測る。溝からは弥生土器片と泥岩製の砥石S 2が出土している。

柱穴は径約30cm、深さ50cmを測る。柱穴からは弥生土器片が出土している。その他の遺物は、サスカイトイ片が出土している。これらの遺構は、本発掘調査における再検出により竪穴住居3の中央穴から延びる溝と柱穴であることが判明した。

T5は、T4の12m西側の標高336m付近に設定した。トレーナー東端では水道管敷設、中央部では電気配線の搅乱が確認された。地山はトレーナー東側では深さ約80cm、西側では深さ約70cmで検出した。トレーナー西側では地山を切り込む土坑1基が確認された。土坑はトレーナー南側に続き全体を把握できていないが、長軸150cm、深さ20~30cmを測る。土坑からの出土遺物はない。遺物は、弥生土器の壺3~5、器台6、サスカイトイ製の石鎌S1、泥岩製の砥石S3が出土している。弥生土器の多くは、第5層のトレーナー東側から出土している。

以上の調査結果から、丘陵南側から南西斜面にかけての遺構や遺物の出土状況から弥生時代後期の集落が丘陵南側に広がることが判明し、今回の事業予定地内で全ての遺構を検出したため、工事の際に保存措置を講じる必要があるとの結論に至った。



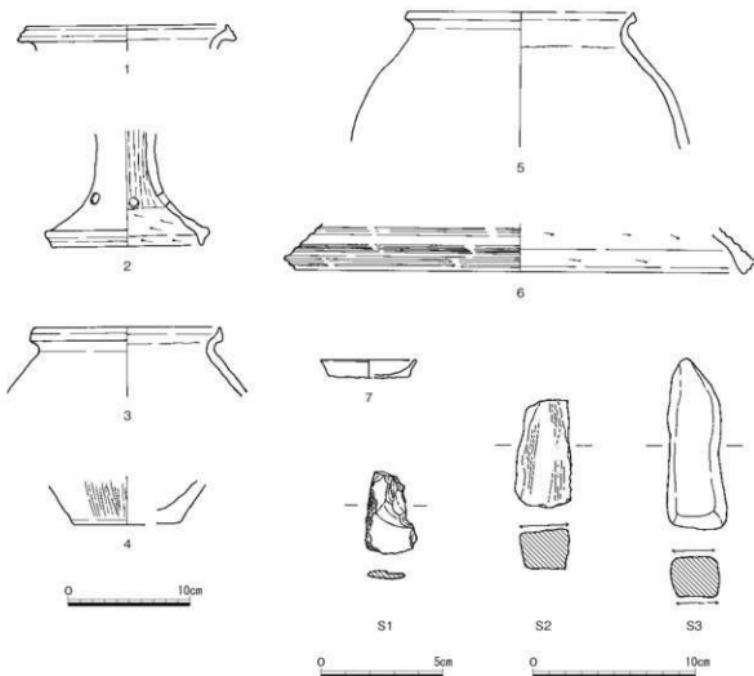
第6図 T5平・断面図 (1/100)



写真3 T5土坑の検出状況（北から）



写真4 T5完掘状況（南西から）



第7図 確認調査出土遺物 (1/4・1/2・1/3)



写真5 T4の掘り下げ作業（北から）



写真6 T3の遺構検出作業（南から）

## 第2節 発掘調査および報告書作成の経緯と経過

### 1 発掘調査の経緯

発掘調査は、平成27年8月29日付で文化財保護法第99条に基づく「埋蔵文化財発掘調査の報告」を提出し、平成28年8月29日から本市教育委員会事務局文化振興課職員2名が調査にあたった。

調査区は、丘陵頂部及び西向きの緩斜面で一部造成されている山林に該当する。調査は丘陵頂部から開始し、造成土と表土を重機で除去した後に、遺構検出面まで人力で掘り下げを行い、随時、遺構の写真撮影と実測を行った。調査区は、丘陵頂部は昭和30年代の造成による切り下げの影響で遺構の残存状況は良好ではなかったが、丘陵周囲の斜面地においては上方からの堆積土により保護され、保存状態が良好であった。そのため、調査区内の遺構は当初の想定よりも多い結果となった。調査開始直後の9月中は、悪天候や山特有の天気の変化が続き、発掘現場での作業が中断することとなった。調査地点の地山が粘土質であることから、降雨後の作業は労力を要した。調査機材には、最新の自動追尾型のトータルステーションを導入し、効率的な調査に努めた。弥生時代の調査がほぼ終了した時点で、ラジコンヘリコプターによる遺構の遠景や全景の空撮を行った。12月25日には発掘調査を終了し、1月中旬に調査区の埋め戻しを行い、調査事業を終了した。平成28年1月5日付で井原警察署長及び玉島警察署長宛てに文化財保護法第100条に基づく「埋蔵文化財発見届」を提出した。

調査の結果、竹林寺天文台遺跡は堅穴住居4軒、掘立柱建物3棟を中心とする遺構が検出され、それに伴って多くの遺物が出土した。出土した遺物は、弥生土器や土師器を中心とするもので、コンテナ箱25箱を数えた。

また、発掘調査期間中に浅口市立鶴方中学校生徒3名による職場体験を受け入れた。担当職員と発掘作業員の方々の指導の下、掘り下げや弥生時代の遺構検出を体験し貴重な経験となった。発掘調査の成果は広く新聞で報道され、12月12日には現地説明会を開催し、遺構の説明や出土遺物の公開を行った。また、参加者約100名には、大学共同利用機関法人自然科学研究遺構国立天文台岡山天体物理観測所のご協力により、竹林寺天文台遺跡を回遊して観測所敷地内での過去の確認調査地点や今回の調査区を見下ろす貴重な体験ができた。今回の発掘調査の様子は、浅口市ホームページに「竹林寺天文台遺跡発掘調査速報」を掲載し、随時情報更新を行い、発掘調査現場の情報を発信した。



写真7 中学生の職場体験



写真8 現地説明会の様子

## 2 報告書作成の経過

報告書作成は、平成28年1月から3月まで調査員2名、4月から3月まで調査員1名が従事し、浅口市教育委員会事務局（浅口市中央公民館）において行った。

発掘調査は平成27年12月25日に終了していたが、調査の最終段階まで遺構及び遺物の検出作業を継続して行っていたことから、発掘調査期間中に全て出土遺物の洗浄及び注記、遺物整理、遺構図面整理、写真整理といった整理作業を終了することができなかった。そのため、報告書作成業務は、これらの未整理の遺物、図面、写真等の整理作業から開始することとなった。

遺物整理は、コンテナ25箱分の遺物洗浄と注記に続き、土器の復元と遺物の抽出を行った。その後、遺物の実測や浄作業を進め、遺構あるいは包含層ごとにレイアウトを行った。また、重要で残存状況が良好な遺物は適宜写真撮影を行った。遺構と遺物の理解を深めるために必要な石材鑑定、樹種同定や放射性炭素年代測定などの自然科学的分析は専門機関や諸氏へ依頼して貴重な成果を得た。

遺構の整理は、全体図・遺構図・断面図などの実測図を基に下図を作成して浄写を行った。また、発掘調査で撮影した遺構写真については、選別して現像を行った。本書の掲載遺構は、堅穴住居4軒、掘立柱建物3棟、段状遺構1基、土坑180基、溝7条、柱穴11基等である。

こうして作成した資料や写真などを用いて割付作業を行い、その後、遺構と遺物の検討と評価を行い、原稿の執筆作業と編集業務を行った。

報告書入稿後は、報告書に掲載された内容にもとづき整理を行った。遺構図面、写真や出土遺物は浅口市教育委員会に保管している。

## 第3節 日誌抄

(確認調査)

平成26年

8月19日(火) 確認調査開始。

8月26日(火) 確認調査終了。

(本発掘調査)

平成27年

7月1日(水) 発掘調査準備開始。

8月27日(木) 発掘資材搬入。

8月29日(土) 発掘調査開始。

重機による表土掘削作業(～9月4日)。

10月20日(火) 重機による表土掘削作業(～21日)。

10月22日(木) 浅口市立鶴方中学校生徒の職場体験。

12月12日(土) 現地説明会開催。

12月17日(木) 航空写真撮影。

12月18日(金) 全景写真撮影。

12月25日(金) 発掘資材撤収。発掘調査終了。

平成28年

1月6日(水) 重機による埋め戻し作業(～12日)。

3月16日(水) 排水管等設置の工事立会調査。

(報告書作成)

平成28年

1月4日(月) 報告書作成開始。

2月19日(金) 岡山大学 鈴木茂之氏による石材鑑定  
実施。

3月31日(木) ライビソクへの委託業務完了。

金属器保存処理業務完了。

平成27年度報告書整理作業終了。

4月1日(金) 平成28年度報告書整理作業開始。

平成29年

3月31日(金) 平成28年度報告書整理作業終了。

## 第4節 発掘調査及び報告書作成の体制

### 平成26年度・平成27年度・平成28年度

浅口市教育委員会

教育長 中野 留美

教育委員会事務局

教育次長 櫛田 忠

文化振興課

課長 小山 朋子

主任 水田 貴士（確認調査・本発掘調査・報告書担当）

埋蔵文化財発掘調査員 山口 香織（本発掘調査・報告書担当）<平成27年度>

浅口市文化財保護委員会委員

山本敏夫（会長） 花房泰志（副会長） 秋田征矢雄 白井洋輔 貝畑正巳 金光英子 作田雅利  
佐藤賢次 西野良一 沢藤 雅 弓削 崇（～平成27年度）

**第1表 文化財保護法に基づく提出書類一覧**

#### 埋蔵文化財試掘・確認調査の報告

| 文書番号<br>日付              | 周知<br>周知外 | 道路の種類<br>及び名称   | 所在地            | 面積<br>(m <sup>2</sup> ) | 原因 | 道路の有無 | 報告者                  | 担当者  | 期間                   |
|-------------------------|-----------|-----------------|----------------|-------------------------|----|-------|----------------------|------|----------------------|
| 浅教文<br>第320号<br>H26.9.4 | 周知        | 集落跡<br>竹林寺天文台道路 | 浅口市鷹方町本庄3037-5 | 22                      | 道路 | 有     | 浅口市教育委員会<br>教育長 中野留美 | 水田貴士 | H26.8.19<br>H26.8.26 |

#### 埋蔵文化財発掘の通知（法第93条）

| 岡山県文書<br>番号 日付           | 道路の種類<br>及び名称   | 所在地                                | 面積<br>(m <sup>2</sup> ) | 目的                | 届出者 | 期間                        | 主な指示事項 |
|--------------------------|-----------------|------------------------------------|-------------------------|-------------------|-----|---------------------------|--------|
| 教文理<br>第689号<br>H27.8.21 | 集落跡<br>竹林寺天文台道路 | 浅口市鷹方町本庄3037-5<br>小田郡矢掛町南山田2808-27 | 950                     | 道路・その他建物<br>(天文台) | 事業者 | H27.12.1<br>～<br>H28.3.31 | 発掘調査   |

#### 発掘調査の報告（法第99条）

| 文書番号<br>日付               | 道路の種類<br>及び名称   | 所在地                                | 面積<br>(m <sup>2</sup> ) | 原因                     | 報告者                  | 担当者          | 期間                    |
|--------------------------|-----------------|------------------------------------|-------------------------|------------------------|----------------------|--------------|-----------------------|
| 浅教文<br>第441号<br>H27.8.29 | 集落跡<br>竹林寺天文台道路 | 浅口市鷹方町本庄3037-5<br>小田郡矢掛町南山田2808-27 | 950                     | 道路・その他建物<br>(天体観測研究施設) | 浅口市教育委員会<br>教育長 中野留美 | 水田貴士<br>山口香織 | H27.8.29<br>H27.11.30 |

#### 遺物発見通知・文化財認定（法第100条・法第102条）

| 岡山県文書<br>番号 日付           | 物件名                                    | 出土地                            | 出土年月日     | 発見者                  | 土地所有者                        | 現保有場所            |
|--------------------------|--|--------------------------------|-----------|----------------------|------------------------------|------------------|
| 教文理<br>第1290号<br>H28.1.8 | 弥生土器・須恵器・土師器<br>陶磁器・石標品・土製品<br>計 整理箱2箱 | 浅口市鷹方町本庄3037-5<br>(竹林寺天文台道路)   | H27.12.28 | 浅口市教育委員会<br>教育長 中野留美 | 浅口市鷹方町六条塙中3060<br>浅口市長 墓山廉彦  | 浅口市郷土歴史<br>資料収蔵庫 |
| 教文理<br>第1291号<br>H28.1.8 | 弥生土器・土師器・陶磁器<br>石標器<br>計 整理箱1箱         | 小田郡矢掛町南山田2808-27<br>(竹林寺天文台道路) | H27.12.28 | 浅口市教育委員会<br>教育長 中野留美 | 小田郡矢掛町矢掛3018<br>山野通彦<br>山野通彦 | 浅口市郷土歴史<br>資料収蔵庫 |

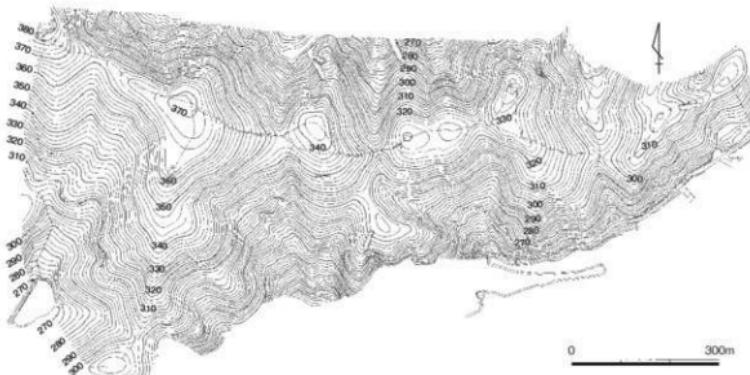
## 第3章 発掘調査の概要

### 第1節 調査の概要

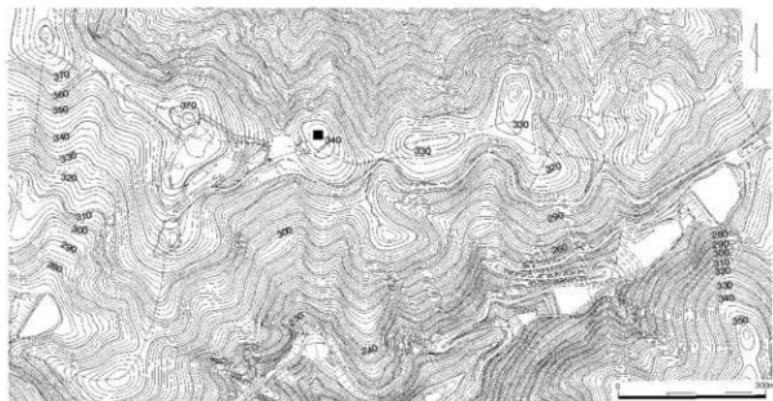
#### 1 調査前の状況

竹林寺天文台遺跡は、標高約380mの竹林寺山から東側へ派生する尾根上に立地する。天文台遺跡という名称のとおり遺跡の大部分が国立天文台岡山天体物理観測所の敷地内に位置する。竹林寺天文台遺跡は、今回の発掘調査により現在3基のドームが設置された標高360～370mの丘陵頂部平坦地（西側）と今回発掘調査を実施した標高約340mの丘陵頂部平坦地（東側）を中心に遺跡が広がるものと思われる。

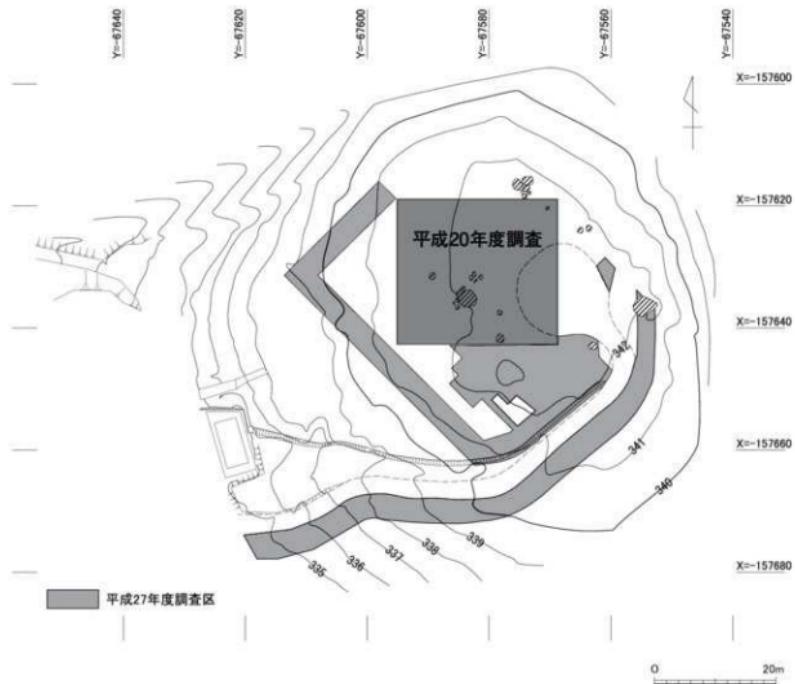
昭和30年代の天文台建設に伴う造成工事により大規模な地形改変を受けていると考えられる。昭和41年に西側の丘陵南端に位置する65cmクーデ型太陽望遠鏡ドームの建設工事中に弥生土器・石鎚・石庖丁等が出土している。また、箱式石棺も同時に不時発見されている。平成15年度に行われた確認調査では、この場所の北側隣接地で円形を呈する竪穴住居が検出されている。現在は西側と東側は駐車場建設により地形的に断続しているが、天文台建設以前の地図では西側頂部平坦地から東側へ急斜面となり鞍部を通じて東側頂部平坦地の西側緩斜面へ連なっている。また、当調査地点は昭和30年代の西側造成工事と同時期に頂部の造成工事が実施され、この段階で頂部は大部分が削平を受けているとみられる。頂部には巨大な岩が複数露出している状況である。頂部の円形を呈しているものは観測装置設置に伴うコンクリート造成である。進入路の拡張部分は山林となっている。平成20年に行われた発掘調査では、弥生時代後期を中心とする竪穴住居や掘立柱建物を検出し、高地性集落の存在が明らかとなっている。



第8図 国立天文台岡山天体物理観測所建設以前の地形 (1/10,000)



第9図 現在の地形と調査地点 (1/10,000)



第10図 調査区配置図 (1/800)

## 2 調査の概要

竹林寺天文台遺跡の当調査区は、標高343mを最高所とする東西70m、南北90mの丘陵に位置する。この丘陵頂部から南西斜面にかけての約950m<sup>2</sup>の全面調査を実施した。頂部は過去の造成工事時の削平により平坦面が広がりをみせる。周辺山麓の水田との比高差は、浅口市鴨方町本庄側で約290m、矢掛町南山田側で約300mを測る。平成17年度に実施された試掘調査では、75m<sup>2</sup>の調査面積で土坑6基と溝3条を確認した。遺物では弥生時代の土器やサヌカイト製の石器が出土し、竹林寺天文台遺跡がこの丘陵まで広がることが明らかとなった。平成20年度に実施した丘陵頂部の発掘調査により、堅穴住居や掘立柱建物等を確認し、弥生時代後期の集落跡が確認された。



第11図 遺構全体図 (1/500)

調査区は、平成20年度の調査区東側の進入路拡張部分が1区、平成20年度の調査区南側の建物等拡張部分から擁壁設置部分が2区、進入路拡張部分が3区とした。

調査区周辺は、白亜紀の流紋岩の岩盤や風化土が地山となる。遙照山、竹林寺山や阿部山にかけては、白亜紀の流紋岩が中腹部から頂部にかけて覆われている。そのため、竹林寺山周辺では、流紋岩の露岩が散見でき、調査区内も丘陵頂部付近に点在している。また、遺構検出面の地山まで掘り下げると、流紋岩がタマネギ状剥離を生じて、核部分周辺が残存した状態で検出される。

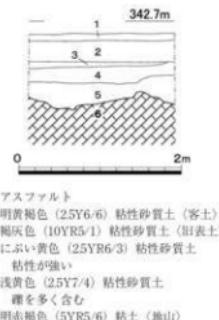
丘陵頂部東側の1区では、第1層のアスファルトと第2層の客土を除去すると、第3層の褐灰色土の旧表土となる。第3層を除去すると第4層のにぶい黄色土と第5層の浅黄色土を除去すると基盤層になり、その上面が遺構検出面となる。

発掘調査は、秋雨と山上の天候の変化に悩まされた。包含層掘削作業時には、硬質な覆土と樹根の除去に困難を極めた。また、遺構検出面が粘土であるため、晴天時にはひび割れを起こし、降雨後には泥漬が生じることで作業に支障を來した。

今回の調査で確認した遺構の種別は、弥生時代後期の集落跡、古墳時代以降の遺構を検出した。

弥生時代後期の遺構は、確認数が多く調査区の全体で認められた。丘陵頂部と西側の斜面では堅穴住居、丘陵頂部で掘立柱建物を検出している。その他の遺構では、土坑、溝や柱穴である。堅穴住居は、丘陵頂部の岩盤上には認められず、斜面に堆積した地山に集中している。他の遺構においても、相互の顕著な切り合い関係をもっておらず、丘陵上の地形利用に一定の規制が存在すると考えられる。古墳時代以降は、丘陵頂部周辺と西側の斜面で土坑と数基の柱穴を検出している。

特に弥生時代後期は、丘陵全体が集落遺跡であることが改めて確認できた。これまでの調査状況等から同丘陵全域に弥生時代の遺跡の広がりがみられる。



第12図 1区西壁断面図 (1/60)



写真9 発掘調査風景



写真10 丘陵頂部の露岩



写真11 風化した流紋岩

## 第2節 弥生時代の遺構と遺物

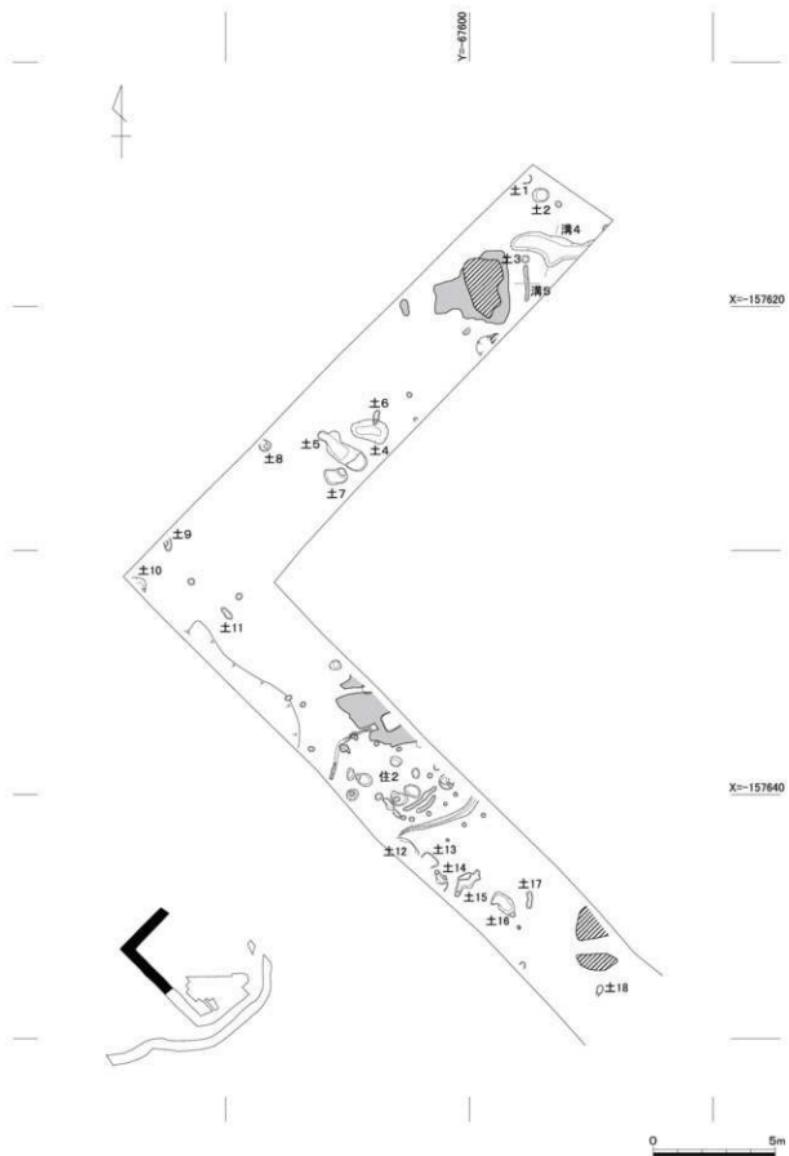
### 1 概要

弥生時代の遺構は、本遺跡において遺構数が最も多く、その配置は調査区全体にわたっている。今回の調査で確認した。遺構面の標高は、1区で標高341.7m、2区丘陵頂部で標高341.3~342.2m、2区北側と西側で標高340m、3区は丘陵頂部東側で341.2m、西側の斜面で334.3mである。堅穴住居4軒、掘立柱建物3棟、土坑142基、溝7条、柱穴である。

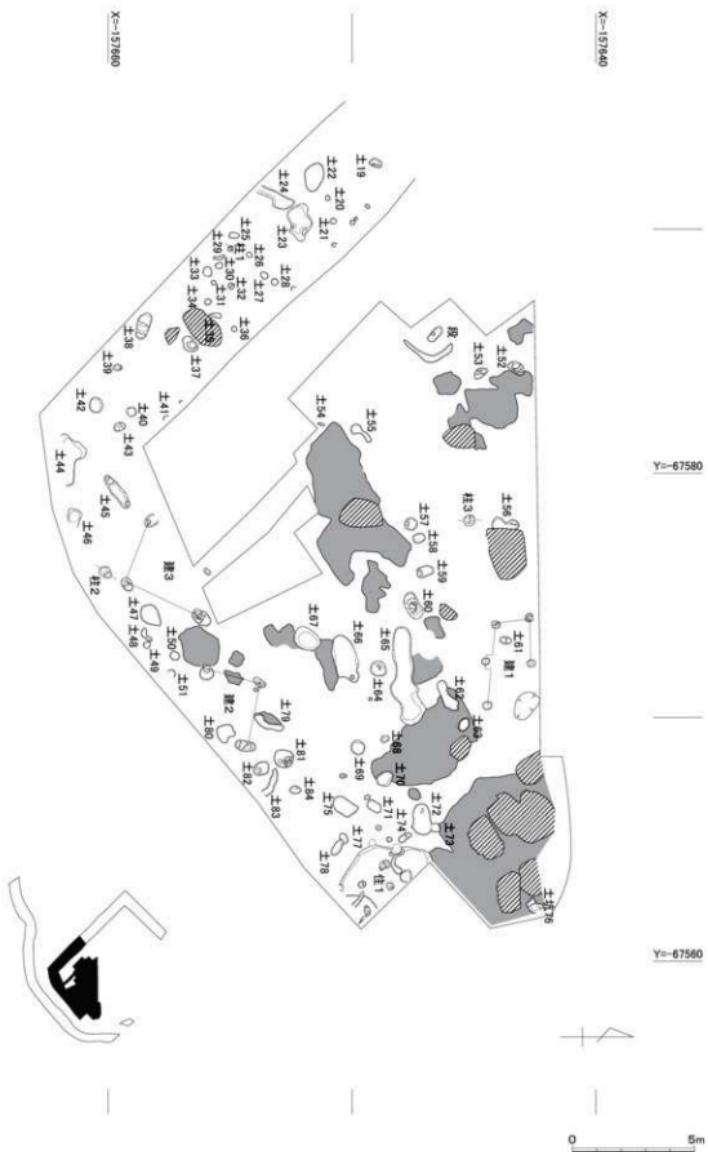
遺物は、弥生土器のほか土製勾玉、石包丁、石斧、石錐、石錐、砥石、台石等の石製品、鉈とみられる鉄器が出土している。弥生土器の多くは、外面を赤色顔料で塗布されたものが主体を占める。



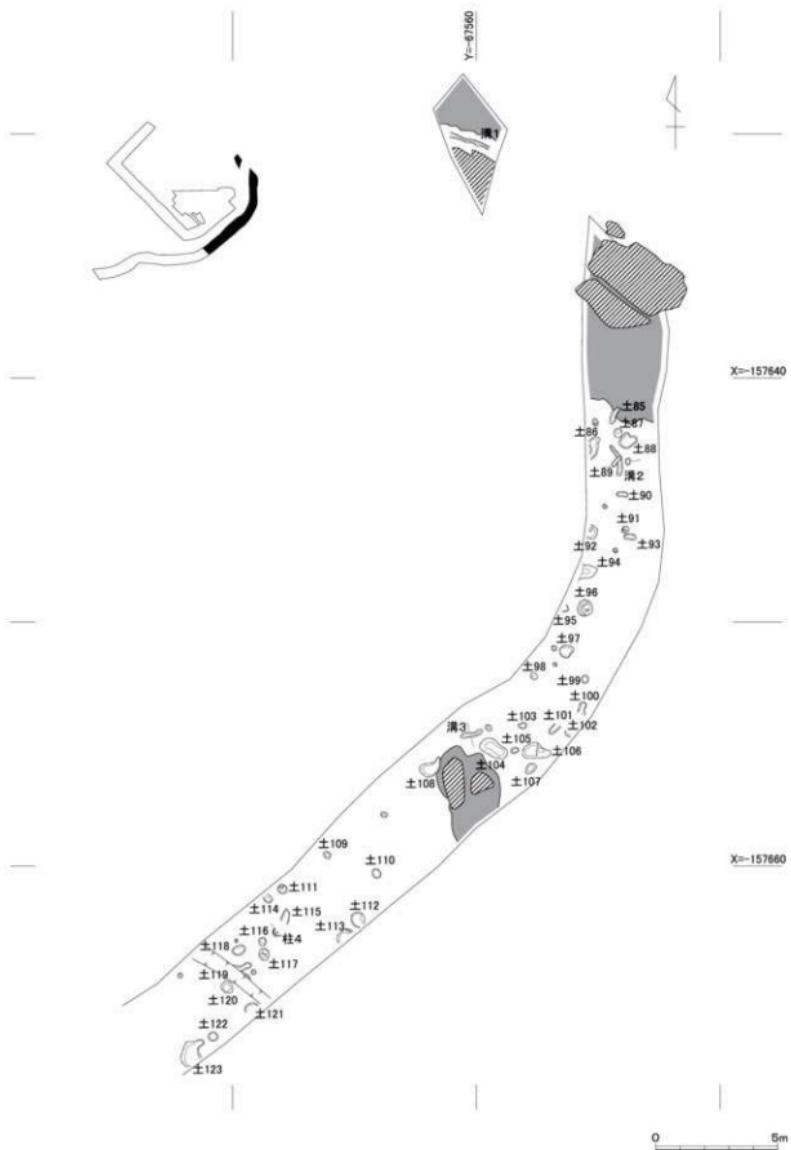
第13図 弥生時代の遺構全体図 (1/500)



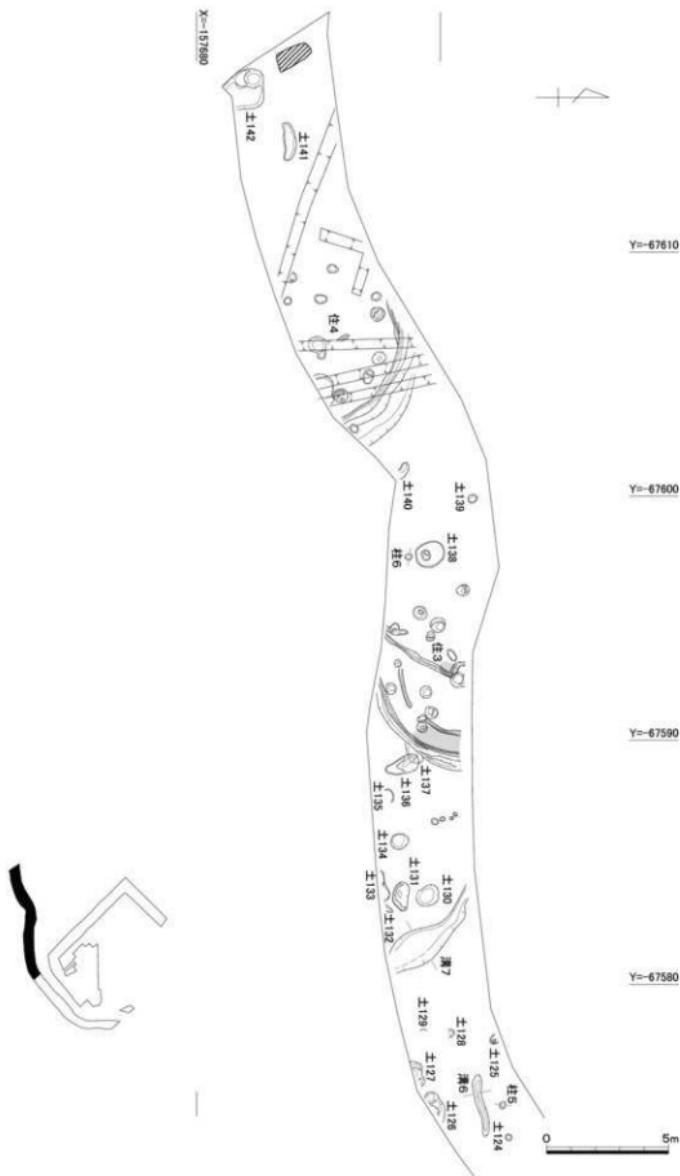
第14図 弥生時代の遺構全体図① (1/200)



第15図 弥生時代の遺構全体図② (1/200)



第16図 弥生時代の遺構全体図③ (1/200)



第17図 弥生時代の遺構全体図④ (1/200)

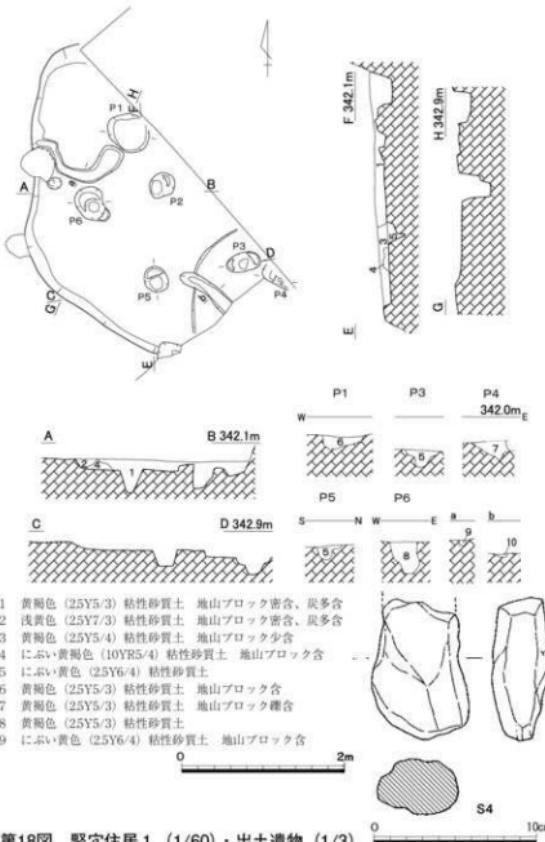
## 2 壁穴住居

### 壁穴住居1 (第15・18図、図版5・24)

壁穴住居1は確認された壁穴住居の中では最高所に位置し、2区東側の丘陵頂部から南向きの斜面に立地している。この壁穴住居は、西側の一部のみを検出しており、南側の一部は過去の進入路設置時に削平を受けている。平面形は、直径460cmの円形を呈すると推定される。床面の標高は341.8mで、検出面からの床面までの深さは約15cmを測る。埋土は、炭を含む黄褐色粘性砂質土である。断面形は比較的平坦な底面から斜め上方に立ち上がり、壁体溝は確認されなかった。柱穴の配置から同規模の建て替えが少なくとも1回行われている。また、南側の床面は7cm低くなっている、段差が認められる。柱穴はP1～P6の6本を検出した。柱穴の平面形は円形あるいは梢円形を呈し、直径30～50cm、検出面からの深さは15～40cmを測る。主柱穴の関係は、P1とP5、P3とP6が相当する。各柱穴の検出面からの深さは異なるが、P1とP5で底面の標高は約341.5m、P3とP6で底面の標高は約341.3mを測る。柱間は、P1とP5、P3とP6で190cmを測る。壁穴住居の西側しか調査を行っていないため、主柱穴は4本柱を想定することができる。P2は平面形が長軸35cmで短軸29cmの円形を呈し、検出面からの深さは32cmを測る。住居北西の壁体からは幅10～25cmで深さ7cm、全長1mの細長い溝が屈曲してP1まで伸びる。また、住居南側から幅15cmで深さ5cmの溝が直線的に伸びる。

遺物は、埋土中により流紋岩質凝灰岩製の石斧S4が出土したのみである。

詳細な時期は不明であるが、周囲の遺構と同じく弥生時代後期の可能性が高い。



第18図 壁穴住居1 (1/60)・出土遺物 (1/3)

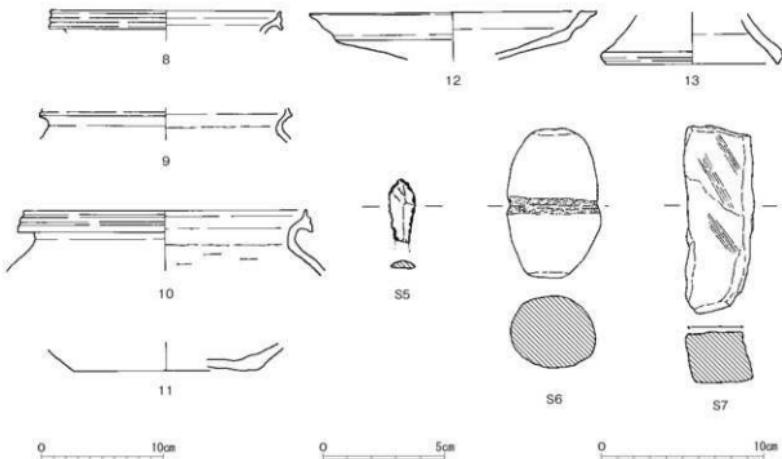
## 竪穴住居2（第14・19・20図、巻頭図版3-1、図版5・17・24）

竪穴住居2は2区の西側の緩斜面上に立地する。平成20年度調査区の竪穴住居2の南西約10mに位置する。竪穴住居の東半分と西側の一部は調査区外へと延びており、2分の1程度を確認できた。西側部分は、水道施設建設工事の削平によって失われている。今回の調査で確認できたのは、南東側は地山を掘削しており、壁と壁体溝が検出された。平面形は、直径約940cmの円形を呈すると推定される。床面の標高は339.6mであり、北東側土層断面から判断する深さは丘陵頂部側で約50cmを測る。溝内の床面積は約66.44m<sup>2</sup>と推定される。埋土は、炭を含むにぶい黄褐色粘質土である。壁体溝は上幅20～33cm、下幅5～10cm、検出面からの深さは14～26cmを測る。住居の中央には、長軸80cm、短軸70cmの隅丸方形を呈し、深さは40cmを測る中央穴P11がある。中央穴は硬質な岩盤を整形されており、中央穴周辺は床面よりも一段高くなっていることから周庭として機能していたと推定される。埋土は3層に分層でき、いずれも炭を多く含む。中央穴周辺のP7～P10は小規模で深さも浅いが構造的に補助的な支柱として使用された可能性がある。主柱穴はP1～P6の6本を検出した。掘り方はいずれも円形を呈し、直径50～70cm、検出面からの深さは20～55cmを測る。柱間は、P1～P2で205cm、P2～P3で190cm、P3～P4で250cm、P4～P5で190cm、P5～P6で210cmを測る。

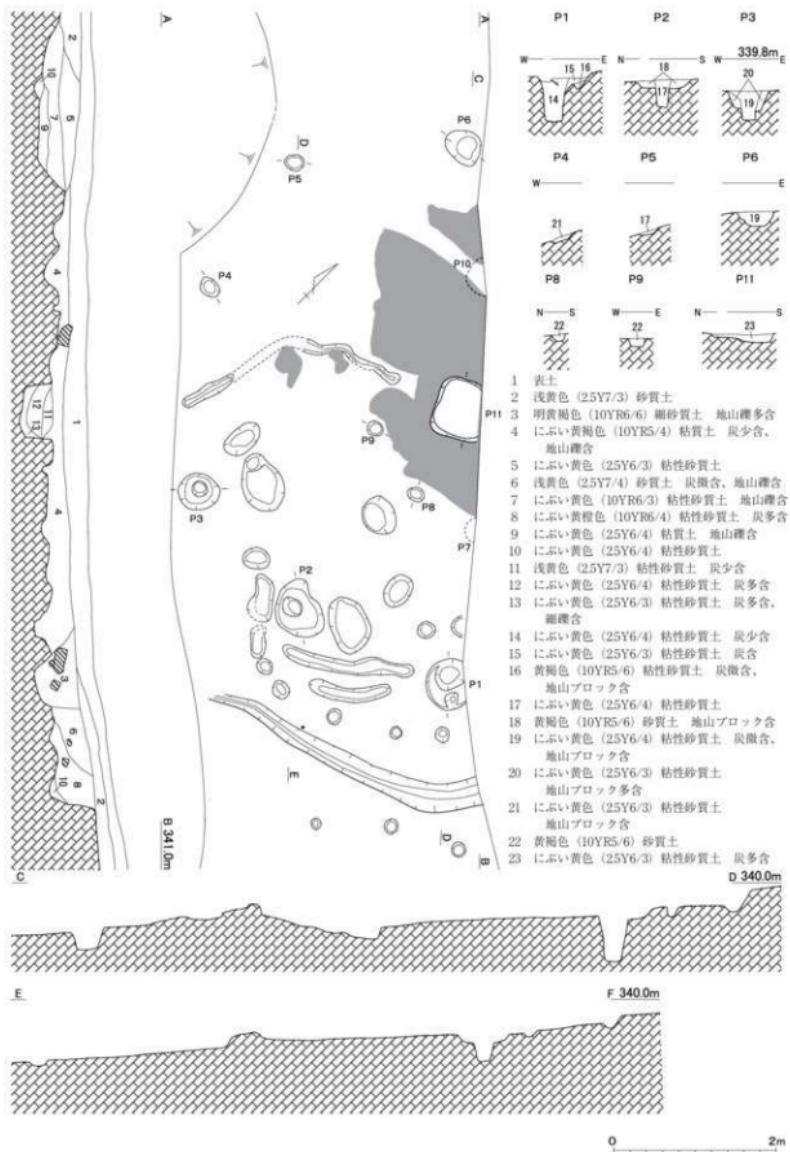
中央穴から屈曲して南側の壁体溝へ向けて延びる溝を断続的に確認した。検出した溝の長さは290cm、規模は上幅15cm、下幅5cm、検出面からの深さは5cmを測る。底面の高さを測ると南側に向かって多少傾斜している。埋土は、砂が多く含まれるにぶい黄色の粘性砂質土である。

遺物は、弥生土器の甕8～11、高杯12・13、サスカイト製の石錐S5、流紋岩製の石錐S6、流紋岩製の砥石S7が出土している。石錐S6の両端は、敲打痕が確認できることから敲石として転用の可能性がある。サスカイト片は、中央穴や柱穴等から出土しており、総重量は20gである。

遺構の時期は、弥生時代後期前葉に位置づけられる。



第19図 竪穴住居2出土遺物（1/4、1/2、1/3）

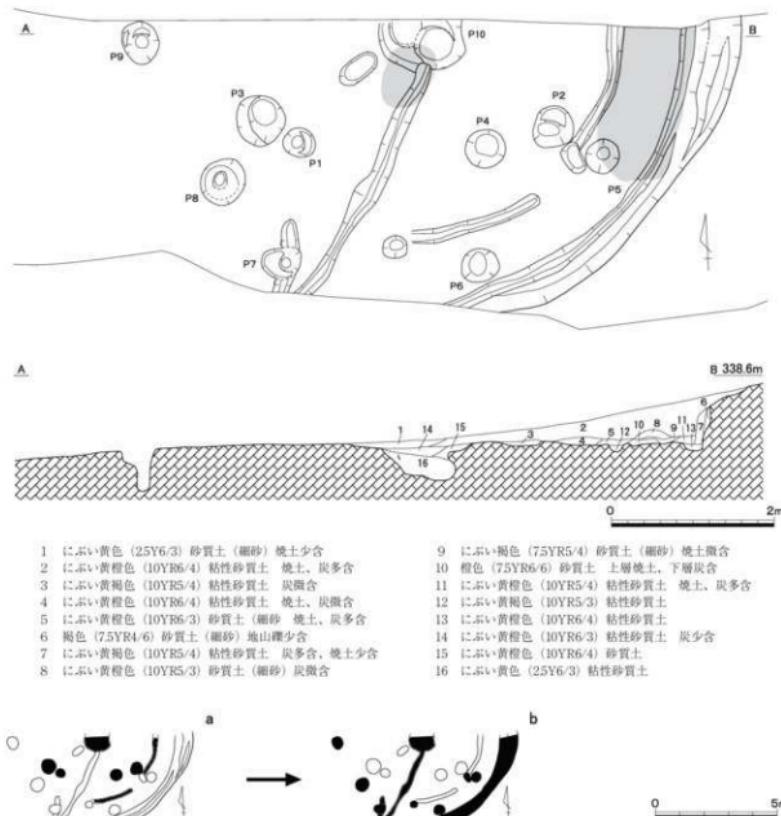


第20図 穫穴住居2 (1/60)

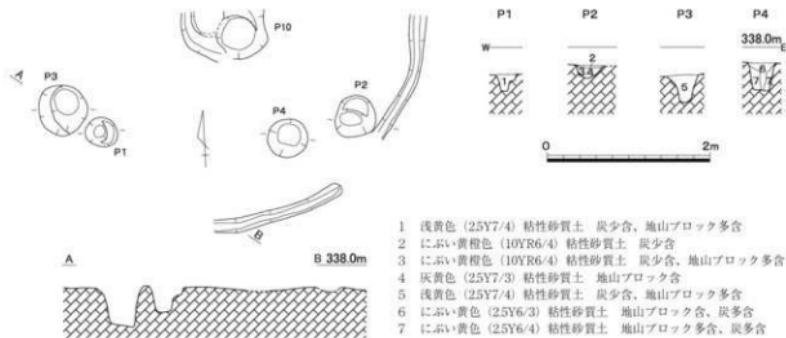
## 豊穴住居3 (第17・21~25図、巻頭図版3-2、図版6・17)

3区中央調査区の土坑136の西側に位置し、丘陵の西側緩斜面に立地する。住居の北側と南側は、調査区外となるため、全容は不明である。確認調査のT4で溝と柱穴で検出した遺構である。また、住居東側では、土坑137を切っている。豊穴住居3とは、約6mの距離を測る。住居の掘り下げの際に、床面からは2条の壁体溝と多数の柱穴が確認され、複数の住居が重複していることが想定された。検討の結果、位置関係と切り合いから、それぞれ古いものか新しいものへと順次拡張されていることが確認できた。住居の古いものを豊穴住居3a、3bとして報告する。

豊穴住居3aの規模は、最大径540cmを測り、円形を呈する。溝内の床面積は22.89m<sup>2</sup>を測り、床面の海拔高は337.15mである。断続的に検出している壁体溝は上幅12~16cm、下幅5~8cm、検出面か



第21図 豊穴住居3 (1/60)・豊穴住居3の変遷 (1/200)



第22図 竪穴住居3a (1/60)

らの深さ9cmを測る。主柱穴はP1～4が該当し、P1・3、P2・4が2か所に纏まっていること等から、4本柱か5本柱により屋根が支えられている構造で、少なくともこの規模で1回の改築が行われたことが分かる。主柱穴は、P1・2が直径40～55cm、検出面からの深さ23～30cm、柱間は310cmを測る。P3・4が直径50～60cm、検出面からの深さ23～30cm、柱間は80cmを測る。P4では柱痕が確認され、直径12cmを測る。住居中央には、長径110cm、検出面からの深さ40cmを測る中央穴P10が検出

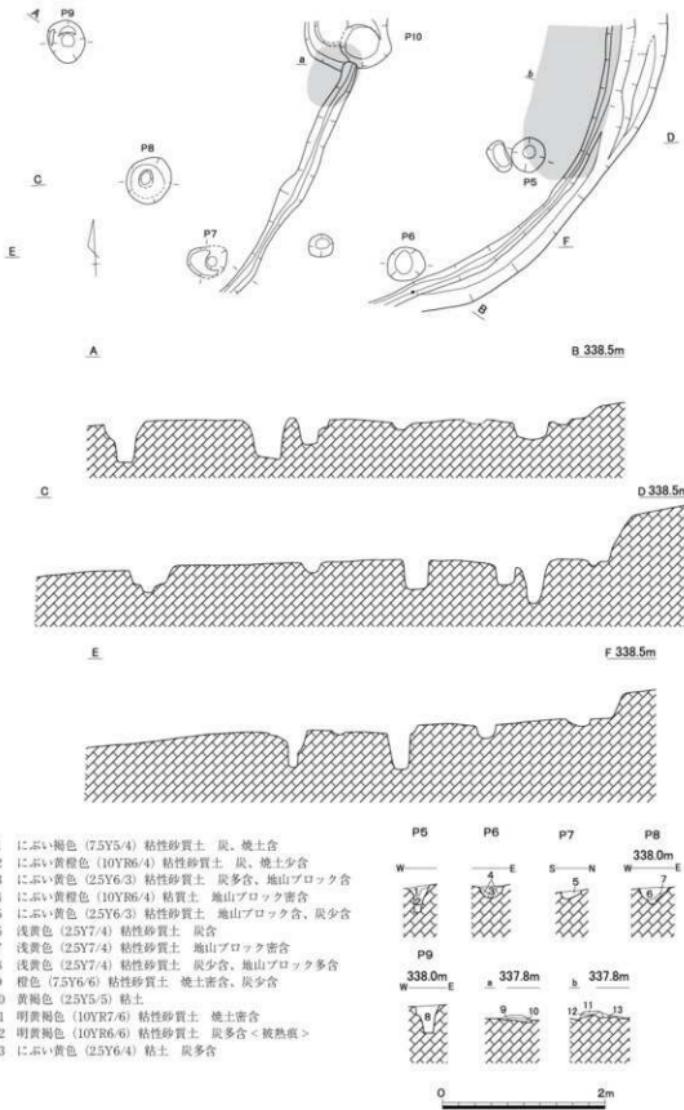
された。北側は調査区外となるため、全容は不明である。当初からこの平面形を呈したとは考えられず、1回の掘り直したとみられる。平面形は隅丸方形を呈し、底部の切り合いから西側の方がこの住居の中央穴と考えられる。埋土は3層で、上層に炭粒が散見された。

竪穴住居3bの規模は、最大径760cmを測り、円形を呈する。溝内の床面積は37.37m<sup>2</sup>を測り、床面の海拔高は337.15mである。検出面からの深さは、72cmを測る。床面には2箇所の被熱面が存在する。埋土は、第2層には炭と焼土が多く含まれ、第2層は焼土のみを含む。床面直上に堆積する第3・第4層は焼土や炭を微かに含み、第5・第11層は焼土ブロックと炭を多く含む。第12層は竪穴住居3aの壁体溝で、第13層は竪穴住居3bの壁体溝である。東壁の第6・第7層は、住居の壁と判断される。第8～第10層は被熱面の堆積である。中央穴の埋土は、第14～第16層である。埋土の堆積状況等から住居は廃棄時に焼却された可能性が考えられる。

壁体溝は、住居の東側から南東側で検出している。上幅15～20cm、下幅10～15cm、検出面からの深さ8cmを測る。主柱穴はP5～P9が該当し、直径43～60cm、検出面からの深さ21～50cmを測る。柱間は、方向の壁体溝へ延びる屋内溝1条を検出している。検出した長さは320cm、上幅15～32cm、下



写真12 竪穴住居3 作業風景



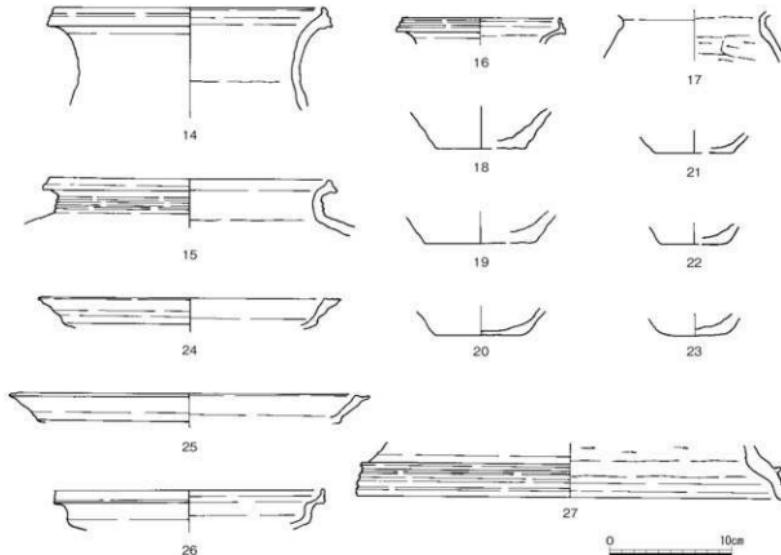
第23図 竪穴住居 3b (1/60)

幅5~9cm、検出面からの深さ5~11cmを測る。底面の高さは平坦で、中央穴から外側へ低くなっている。

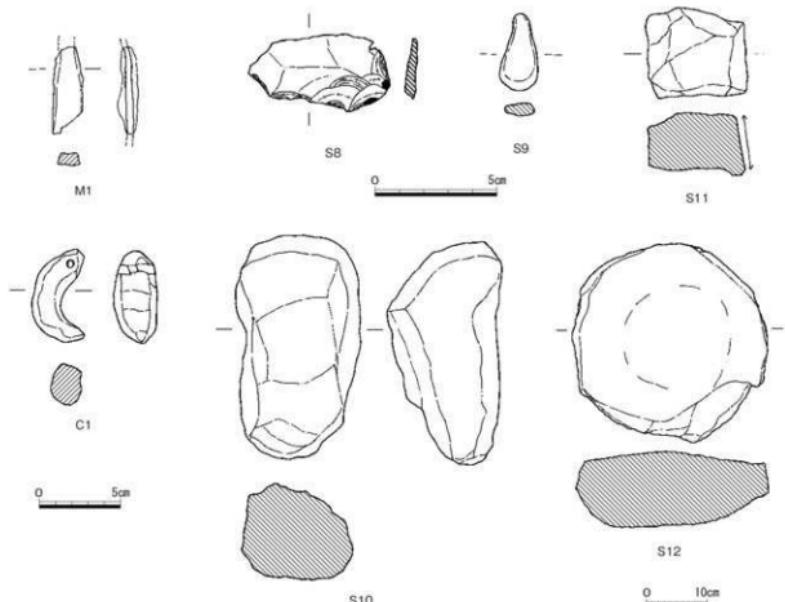
被熱面は、中央穴と東側の2箇所で検出された。中央穴側の平面形は、長軸80cm、短軸65cmの楕円形をする。焼土は厚さ6cmを測る。東側の平面形は、長軸170cm以上、短軸95cmの楕円形を呈し、厚さ12cmを測る。第11層は焼土塊、第12層は被熱面、第13層は粘土で炭粒が多く含む。この焼土塊の掘り下げを行ったところ、床面直上で炭化材2点が検出された。この炭化材は、放射性炭素年代測定では、 $1910 \pm 20$ 、 $1880 \pm 20$ という測定結果であった。樹種同定は、サカキという結果を得た。

遺物は、弥生土器の壺14・15、壺16~23、高杯24~26、器台27、金属器M1、土製の勾玉C1、サスカイト製のスクレイバーS8、泥岩製の石製品S9、流紋岩質凝灰岩製の石斧S10、流紋岩質凝灰岩製の砥石S11、流紋岩質凝灰岩の台石S12が出土している。壺15は頸部に3条の沈線を施す。高杯24・25は口縁部が外方に開き、端部を拡張させている。高杯26は杯部から外方に屈曲し、端部を拡張する小田川流域でみられる器種である。中央穴から出土している器台27の据部外面は、3条の凹線を施す。内面調整はヨコ方向のヘラケズリを施す。弥生土器の壺25・26、壺35、高杯24~26、器台27は、外面に赤色顔料が塗布されている。金属器M1は鍔とみられる。土製勾玉C1は完形で、重量は26.5gを測る。中央部の屈曲が大きく、上部に3mmの穿孔が施される。S9は用途不明であるが、四面が丁寧に研磨されている。砥石S11は柱穴P4から出土している。台石S12は東側被熱面の南側の床面直上から出土している。サスカイト片は柱穴P4等から出土しており、総重量は14.5gである。

遺構の時期は、弥生時代後期後葉に位置づけられる。



第24図 積穴住居3出土遺物① (1/4)



第25図 竪穴住居3出土遺物② (1/2、1/3、1/8)

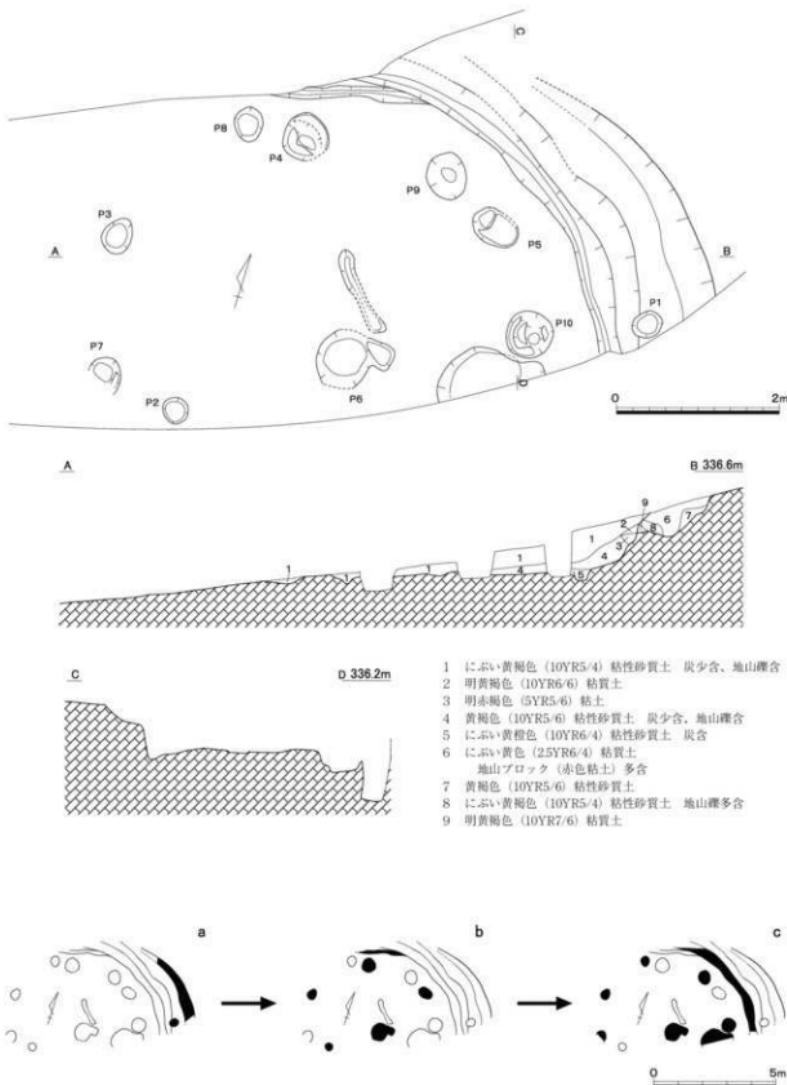
## 竪穴住居4 (第17・26~30図、巻頭図版4-1、写真13・14、図版7・8・18・25)

3区西側調査区の土坑140の西側2mに位置し、丘陵の西側斜面に立地する。住居の北側と南側は、調査区外となるため、全容は不明である。確認調査T5で多くの弥生土器が出土した地点となる。住居は、近現代の水道管や電気配管による搅乱を受けている。竪穴住居4は3軒重複しており、2回建て替えられているとみられる。竪穴住居4a~4cの新旧関係は、柱穴の配置、壁体溝の切り合いや埋土から判断している。4aが最も古く、4b・4cの順で住居の拡張が行われている。竪穴住居4の埋土については、4cで後述する。

竪穴住居4aは、直径560cmを測り、円形を呈すると考えられる。住居の西側は、竪穴住居4bの拡張の際に削平を受けている。東側は地山を掘削しており、壁と柱穴1本を検出した。床面は、検出面からの深さは38cmを測り、海拔高は335.8mである。柱穴は長軸38cm、短軸30cmの円形を呈し、検出面からの深さは12cmを測る。埋土は第6層~第9層であり、第6層は地山塊が多く含まれている。遺物は出土していない。

竪穴住居4bは、最大径760cmを測り、円形を呈すると考えられる。北側と東側は岩盤を掘削しておらず、壁体溝、中央穴と柱穴4本を検出した。床面の検出面からの深さは55cmを測り、海拔高は3345.34mである。北側で検出した壁体溝は上幅15~20cm、下幅5cm、検出面からの深さ4cmを測る。中央穴のP6は、長軸96cm、短軸67cmの不整形を呈し、検出面からの深さは29cmを測る。底は2段に

落ち込み、東側にはテラス状の段をもつ。西側の底面とは22cmの高低差がある。埋土は4層で、上層は地山の礫が混じり、下層は炭粒を含む。主柱穴はP 2～P 5が該当する。柱穴の掘り方は、円形や



第26図 竪穴住居4 (1/60)・竪穴住居4の変遷 (1/200)

梢円形を呈する。直径32~60cm、検出面からの深さ16~40cmを測るが、底面のレベルは同じ高さである。P2は柱痕跡が確認できた。柱間は、P2-P3で115cm、P3-P4で130cm、P4-P5で120cmを測る。住居の中央から北側に延びる屋内溝を1条検出している。検出した長さは110cm、上幅15~20cm、下幅5cm、検出面からの深さ5cmを測る。

竪穴住居4cは、竪穴住居4bと同規模最大径760cmを測り、円形を呈すると考えられる。竪穴住居4cの段階では、壁体溝の切り合いから床面の再掘削が行われたと考えられる。この住居では、壁体溝、中央穴、柱穴5本と土坑1基を検出した。埋土は第1層~第5層が該当する。第1層と第4には、地山塊と炭粒が含まれる。第5層は竪穴住居4cの壁体溝である。北側と東側の壁面は岩盤を掘削しており、上幅15~35cm、下幅7~12cm、検出面からの深さ10cmの壁体溝が巡る。主柱穴はP3・P7~P10が該当する。柱穴の掘り方は円形を呈する。直径40~60cm、検出面からの深さ16~55cmを測る。P8は柱痕跡が確認でき、直径15cm未満の材を使用していたとみられる。柱間は、P7-P3で170cm、P3-P8で205cm、P8-P9で250cm、P9-P10で230cmを測る。住居の南東側で土坑を検出した。土坑は、南側が調査区外となるため、全容は不明である。平面形は長軸70cm、短軸26cm以上の不整梢円形を呈し、検出面からの深さ28cmを測る。底は平坦で、北側の一部はオーバーハンジしている。埋土には、地山塊と炭粒が含まれる。土坑は柱穴P10をさけるように掘られており、屋内の貯蔵穴として考えられる。

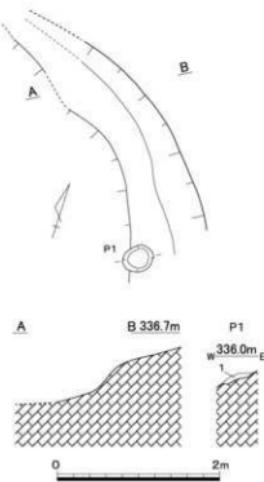
遺物は、弥生土器の壺28・29、高杯30~32、器台33、砥石S13~S15、台石S16~S18が出土している。高杯32は脚柱部であり、水漉し粘土を使用している。弥生土器の壺28・29、高杯30・31、器台33は、外面に赤色顔料が塗布されている。砥石S13は砂岩製であり、上面と側面には筋状の研磨溝が認められる。S206は流紋岩質凝灰岩製、S207は流紋岩製である。台石S17~S19は流紋岩質凝灰岩製であり、住居東側の壁沿いから出土した。遺構の時期は、弥生時代後期後葉に位置づけられる。



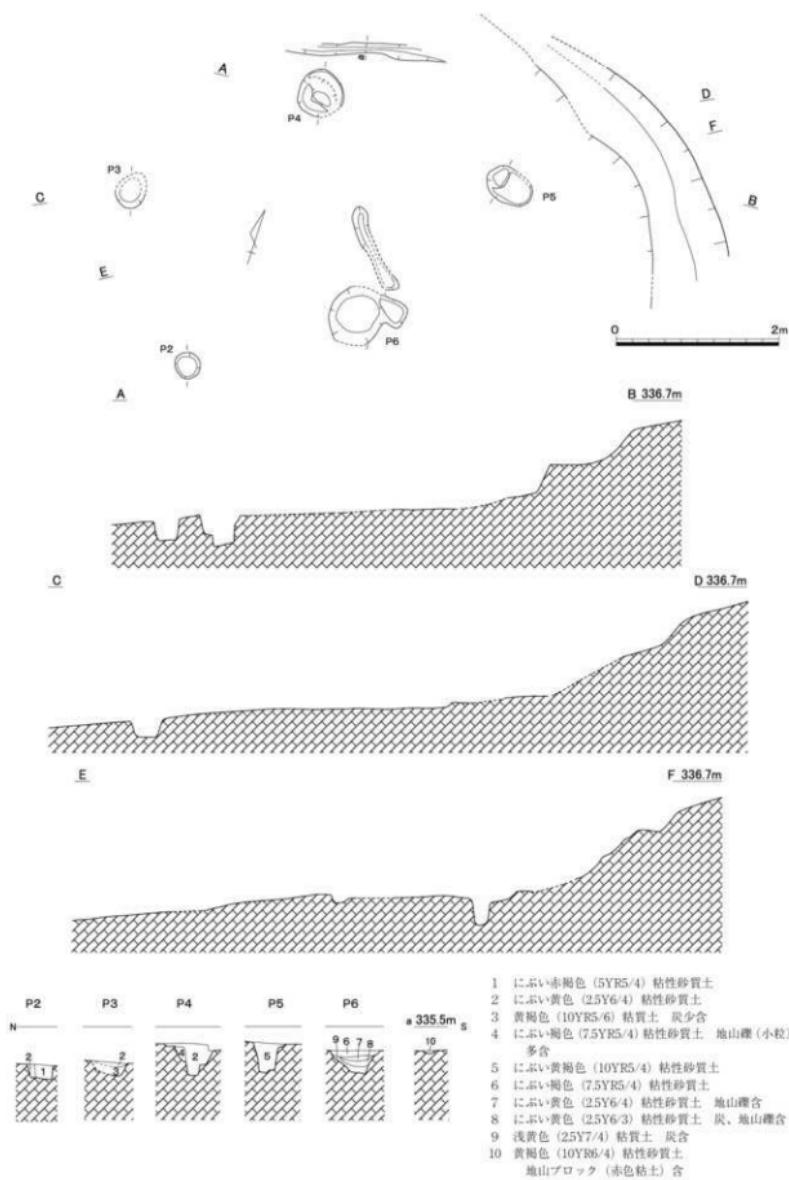
写真13 竪穴住居4の検出状況（南東から）



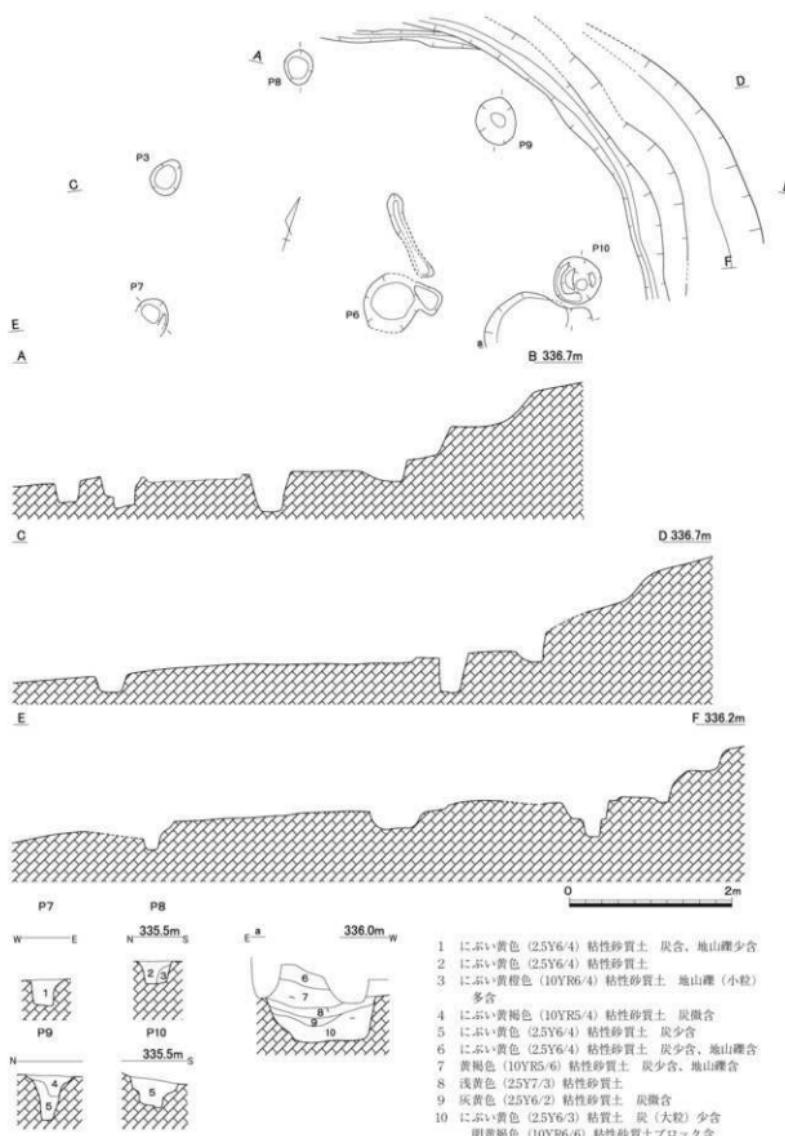
写真14 竪穴住居4 挖削の深さ



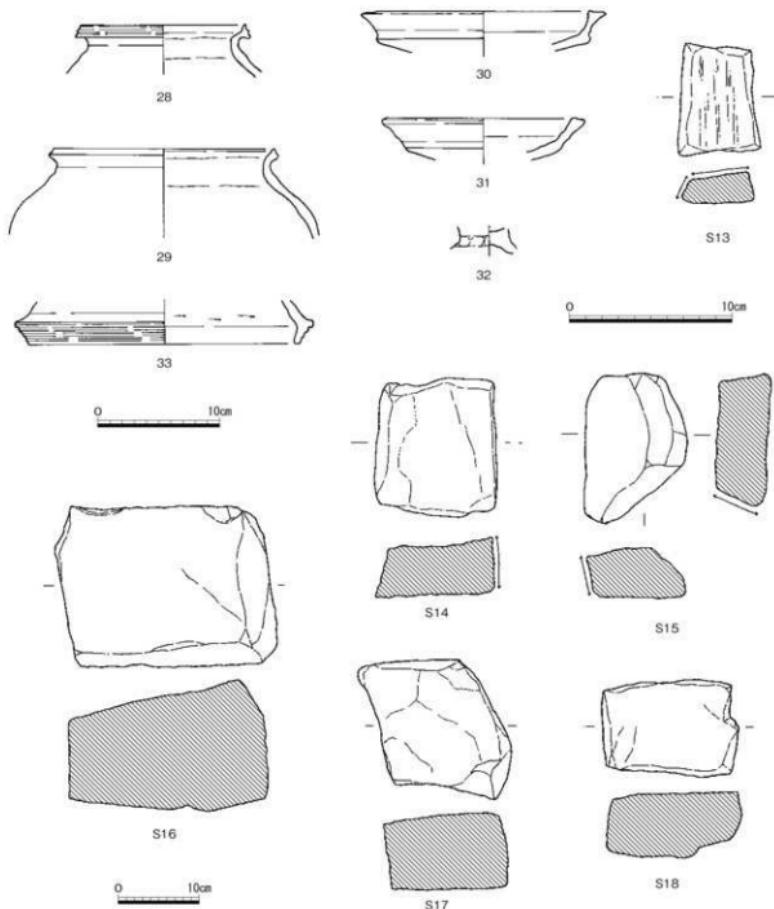
第27図 竪穴住居4a (1/60)



第28図 積穴住居 4 b (1/60)



第29図 穫穴住居 4c (1/60)



第30図 穫穴住居4出土遺物 (1/4・1/3・1/6)

### 3 掘立柱建物

#### 掘立柱建物1 (第15・31図、図版8)

2区丘陵部の最高所に位置する掘立柱建物である。北東部は近代の擾乱によって消失している。規模は、規模は、桁行345cm、梁行143cmで床面積は4.93m<sup>2</sup>を測る、2×1間の建物である。柱間距離は桁行が165～185cm、棟方向はN-84°-Wで、平成20年度発掘調査で確認した掘立柱建物2とほぼ同じ方向を示す。

柱穴の掘り方の平面形は長軸35~40cmの円形を呈し、検出面から底面までの深さは3~16cmを測る。埋土は、にぶい黄色粘性砂質土である。

遺物は、P1から弥生土器が出土しているが、小片のため図化できない。

時期は、出土遺物や埋土等から弥生時代後期の範疇に位置づけられる。

#### 掘立柱建物2

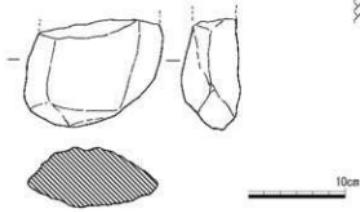
(第15・32図、図版8・25)

2区丘陵頂部南側で、掘

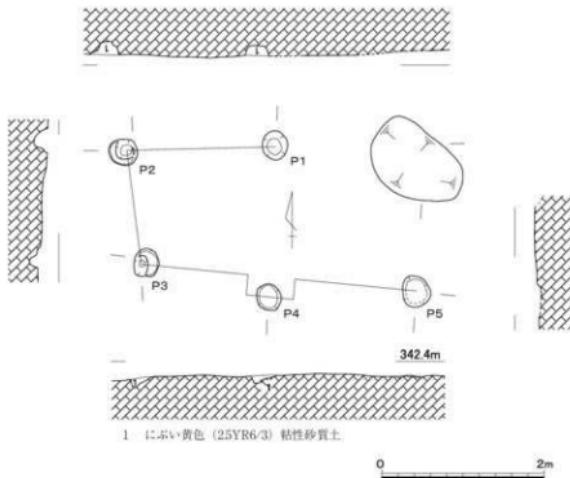
立柱建物1の南側10mに位置する。東側を道路により削平されており、正確な規模は不明である。現状で桁行1間、梁行1間以上が確認できる。柱間距離は桁行265cm、梁行230cmを測り、棟方向はN-79°-Wである。柱穴の掘り方の平面形は長軸56~85cmの楕円形を呈し、検出面からの底面までの深さは35~41cmを測る。柱穴P2の埋土には、直径約15cmの柱痕跡と考えられる部分が認められる。全ての柱穴の埋土に炭が含まれている。

遺物は、P3から丹塗りの弥生土器の小片、P1から流紋質凝灰岩製の石斧S19が出土している。

時期は、出土遺物や埋土等から弥生時代後期の範疇に位置づけられる。



第32図 掘立柱建物2 (1/60)・出土遺物 (1/3)



第31図 掘立柱建物1 (1/60)

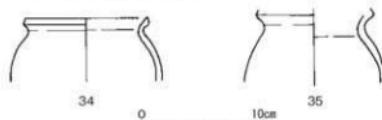
**掘立柱建物3**

(第15・33・34図、図版9・18)

2区丘陵南側の掘立柱建物2の西側約2mに位置する。建物の一部は、調査区の北側へ続くため、正確な規模は不明である。現状で桁行1間、梁行1間以上が確認できる。柱間距離は桁行335cm、梁行260cmを測る。柱穴の掘り方の平面形は長軸60~82cmの楕円形を呈し、検出面からの底面までの深さは43~50cmを測る。柱穴3基ともに柱痕跡が埋土あるいは柱穴底面の窪みとして残り、その直径は12~15cmを測る。埋土は、にぶい黄色粘性砂質土であり、炭が含まれている。

遺物はP2から弥生土器の壺34・35とサスカイト小片が出土している。34は外面に赤色顔料が塗布されている。35は外面に煤が付着している。

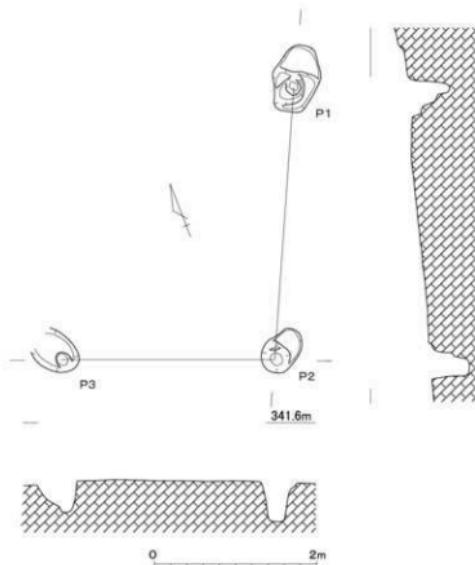
時期は、弥生時代後期に位置づけられる。



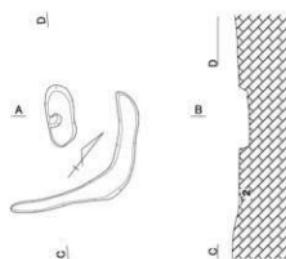
第34図 掘立柱建物3出土遺物 (1/4)

**4 段状遺構****段状遺構1** (第15・35図、図版9)

2区丘陵西側斜面の土坑53の西側約2mに位置する段状遺構の一部で、床面は流失しているものと考えられる。等高線に沿った壁体溝は、途中で屈曲する。溝の幅は15~25cm、検出面からの深さは4~8cmを測る。埋土は、にぶい黄色粘性砂質土である。壁体溝の北西側には長軸76cm、短軸35cm、検出面からの深さ18cmを測る楕円形を呈する浅い掘削面を確認した。埋土は、壁体溝と同じであり、最下層には炭が含まれる。遺物が出土していないため、詳細な時期は不明であるが、弥生時代後期に位置づけられる。



第33図 掘立柱建物3 (1/60)



- 1 浅黄色 (25Y7/4) 粘性砂質土
- 2 にぶい黄色 (25Y6/3) 粘性砂質土
- 3 にぶい黄色 (25Y5/6) 粘性砂質土

0 2m

第35図 段状遺構1 (1/60)

## 5 土坑

### 土坑1（第14・36図）

2区北側調査区の土坑2の北西側に位置する。土坑の西側が調査区外となるため、全容は明らかではない。平面形は長軸47cm、短軸22cmの円形を呈し、検出面からの深さ3cmを測る。埋土は、にぶい黄色粘性砂質土で、遺物は出土していない。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

### 土坑2（第14・36図）

2区北側調査区の溝4の北側1mに位置する。平面形は長軸67cm、短軸55cmの円形を呈し、検出面からの深さは11cmを測る。埋土は、にぶい黄色粘性砂質土の単層である。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

### 土坑3（第14・36図）

2区北側調査区の溝5の北側に位置する。平面形は長軸32cm、短軸32cmの円形を呈し、検出面からの深さ10cmを測る。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

### 土坑4（第14・36図）

2区北側調査区の土坑5の北側に位置する。平面形は長軸154cm、短軸88cmの楕円形を呈し、検出面からの深さは16cmを測る。土坑6に北側一部を切られている。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

### 土坑5（第14・36図、図版9）

2区北側調査区の土坑7の北側に位置する。平面形は長軸237cm、短軸84cmの不整長楕円形を呈し、検出面からの深さ18cmを測る。断面形は段状を呈しており、2段に掘り込まれている。埋土は、にぶい黄色粘性砂質土の単層である。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

### 土坑6（第14・36図）

2区北側調査区の中央に位置する。平面形は長軸61cm、短軸24cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ6cmを測る。土坑4の一部を切っている。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

### 土坑7（第14・36図）

2区北側調査区の土坑5の南側に位置する。平面形は長軸95cm、短軸61cmの不整方形を呈し、検出面からの深さ12cmを測る。断面形は段状を呈しており、2段に掘り込まれている。埋土には炭が含まれる。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

### 土坑8（第14・36図）

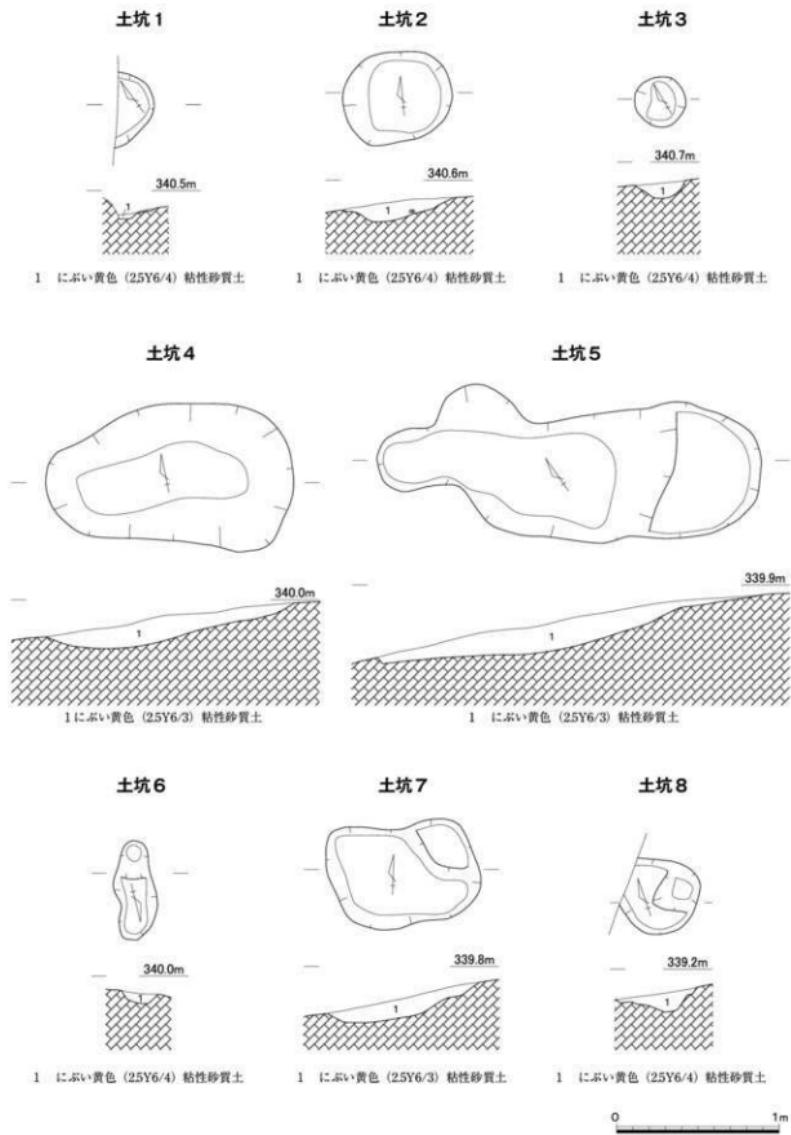
2区北側調査区の土坑7の北西側約3mに位置する。土坑の北側一部が調査区外となる。平面形は長軸47cm、短軸44cmの円形を呈し、検出面からの深さ12cmを測る。断面形は段状を呈しており、2段に掘り込まれている。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

### 土坑9（第14・37図）

2区北側調査区の土坑8の南西側5mに位置する。土坑の北側一部が調査区外となる。平面形は長軸47cm、短軸32cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ14cmを測る。断面形は段状を呈しており、2段に掘り込まれている。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

### 土坑10（第14・37図）

2区北側調査区の北西隅、土坑9の南西側1.5mに位置する。土坑の西側半分は調査区外となる。



第36図 土坑 1～8 (1/30)

平面形は長軸76cm、短軸31cmの円形を呈し、検出面からの深さ11cmを測る。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑11（第14・37図）**

2区北側調査区の竪穴住居2の北西側3mに位置する。平面形は長軸56cm、短軸27cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ5cmを測る。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑12（第14・37図）**

2区西側調査区の竪穴住居2に南側に接して位置する。土坑の西側半分は調査区外となる。平面形は長軸111cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ11cmを測る。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑13（第14・37図）**

2区西側調査区の土坑12の南側に接して位置する。土坑の西側半分は調査区外となる。平面形は長軸72cm、短軸41cmの隅丸方形を呈し、検出面からの深さ9cmを測る。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑14（第14・37図）**

2区西側調査区の土坑13の南側に接して位置する。土坑の南側一部が調査区外となる。平面形は長軸91cm、短軸55cmの不定形を呈し、検出面からの深さ11cmを測る。底は二段の落ち込みである。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑15（第14・37図）**

2区西側調査区の土坑14の東側に接して位置する。平面形は長軸142cm、短軸66cmの不定形を呈し、検出面からの深さ8cmを測る。北と西側の底は二段に落ち込み、北側の段は岩盤が露出している。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑16（第14・37図）**

2区西側調査区の土坑15の南東側1mに位置する、平面形は長軸125cm、短軸62cmの不定形を呈し、検出面からの深さ11cmを測る。埋土には、炭が含まれる。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑17（第14・37図）**

2区西側調査区の土坑16の東側1mに位置する。平面形は長軸70cm、短軸21cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ14cmを測る。断面形は箱形を呈し、壁が垂直近くに立ち上がる。埋土には、炭が含まれる。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑18（第14・38図）**

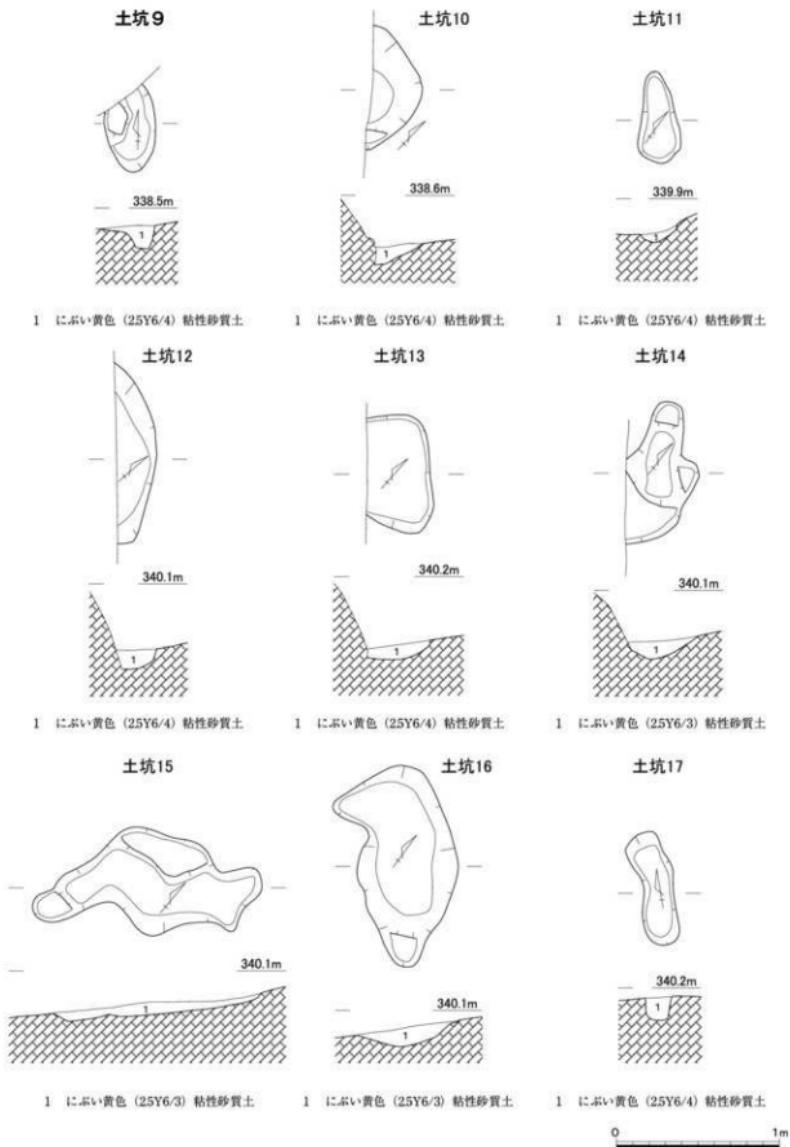
2区西側調査区の土坑17の南東側4mに位置する。平面形は長軸37cm、短軸25cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ6cmを測る。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑19（第15・38図）**

2区西側調査区の土坑18の南東側2mに位置する。平面形は長軸54cm、短軸34cmの不整円形を呈し、検出面からの深さ9cmを測る。底は二段の落ち込みである。埋土には、炭が含まれる。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑20（第15・38図）**

2区西側調査区の土坑19の南東側2mに位置する。平面形は長軸23cm、短軸20cmの円形を呈し、検



第37図 土坑9～17 (1/30)

検出面からの深さ4cmを測る。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑21（第15・38図）**

2区西側調査区の土坑20の東側2mに位置する。平面形は長軸26cm、短軸25cmの円形を呈し、検出面からの深さ6cmを測る。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑22（第15・38図）**

2区西側調査区の土坑19の南側2mに位置する。平面形は長軸121cm、短軸79cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ8cmを測る。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑23（第15・38図、図版10）**

2区西側調査区の土坑21の南側1mに位置する。平面形は長軸149cm、短軸87cmの不定形を呈し、検出面からの深さ14cmを測る。底は平坦で、東と南側に段をもつ。埋土は、全体に地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑24（第15・38図）**

2区西側調査区の土坑22の南側1mに位置する。土坑の南側一部が調査区外となるため、全容は不明である。平面形は長軸153cm、短軸58cmの不定形を呈し、検出面からの深さは10cmを測る。底面は、南側に向って傾斜している。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑25（第15・38図）**

2区西側調査区の土坑23の南側2mに位置する。平面形は長軸44cm、短軸25cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ11cmを測る。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑26（第15・38図）**

2区西側調査区の土坑25の北東側1mに位置する。平面形は長軸25cm、短軸21cmの円形を呈し、検出面からの深さ4cmを測る。埋土は、全体に地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑27（第15・39・52図、図版18）**

2区西側調査区の土坑26の北東側1mに位置する。平面形は長軸33cm、短軸25cmの円形を呈し、検出面からの深さ5cmを測る。埋土中から甕36が出土している。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑28（第15・39図）**

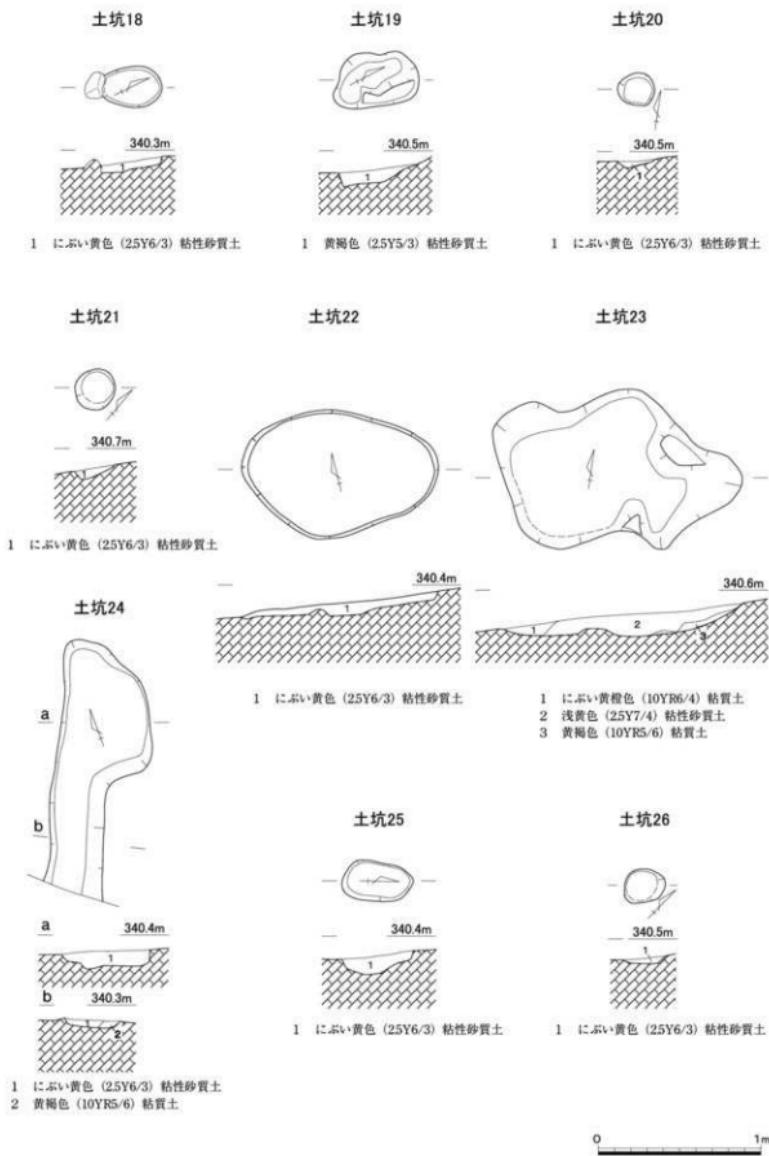
2区西側調査区の土坑27の北側に接して位置する。平面形は長軸29cm、短軸29cmの円形を呈し、検出面からの深さ5cmを測る。埋土は、全体に地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑29（第15・39図）**

2区西側調査区の土坑26の南側1mに位置する。平面形は長軸49cm、短軸13cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ3cmを測る。埋土は、全体に地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑30（第15・39図）**

2区西側調査区の土坑29の東側に接して位置する。平面形は長軸32cm、短軸26cmの円形を呈し、検出面からの深さ3cmを測る。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。



第38図 土坑18~26 (1/30)

**土坑31**（第15・39図）

2区西側調査区の土坑30の南東側1mに位置する。平面形は長軸19cm、短軸19cmの円形を呈し、検出面からの深さ6cmを測る。埋土は、全体に地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑32**（第15・39図）

2区西側調査区の土坑27の南側1mに位置する。平面形は長軸26cm、短軸26cmの円形を呈し、検出面からの深さ10cmを測る。底は東側にテラス状の段をもつ。埋土は、全体に地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑33**（第15・39図）

2区西側調査区の土坑31の南西側に接して位置する。平面形は長軸42cm、短軸34cmの円形を呈し、検出面からの深さ4cmを測る。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑34**（第15・39図）

2区西側調査区の土坑33の東側1mに位置する。平面形は長軸28cm、短軸26cmの円形を呈し、検出面からの深さ5cmを測る。埋土は、全体に地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑35**（第15・39図）

2区西側調査区の土坑34の東側に接して位置する。平面形は長軸51cm、短軸20cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ3cmを測る。埋土は、全体に地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑36**（第15・39図）

2区西側調査区の土坑35の北東側1mに位置する。平面形は長軸24cm、短軸22cmの円形を呈し、検出面からの深さ6cmを測る。埋土は、全体に地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑37**（第15・39図）

2区西側調査区の土坑36の南側2mに位置する。平面形は長軸70cm、短軸51cmの不整円形を呈し、検出面からの深さ20cmを測る。断面形は逆台形で、底面は三方にテラス状の段が認められる。埋土は、全体に地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑38**（第15・39図、図版10）

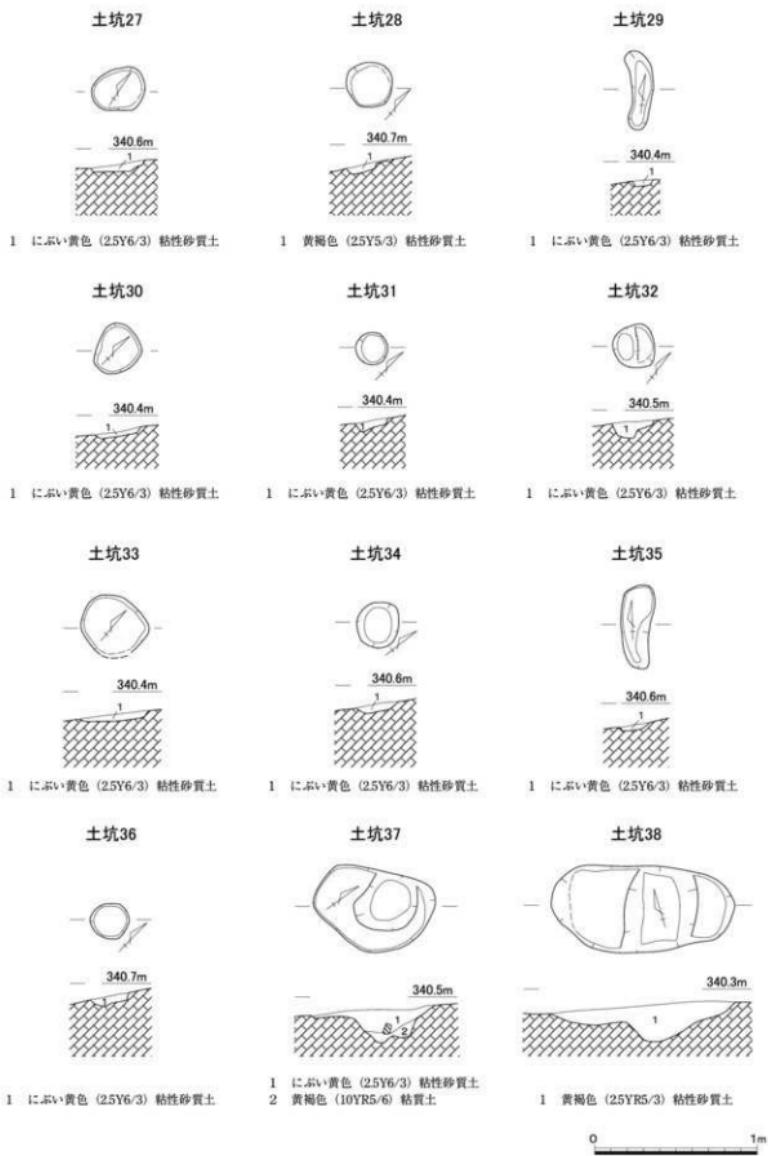
2区西側調査区の土坑37の南西側1.5mに位置する。平面形は長軸113cm、短軸53cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ22cmを測る。底は東西部分にテラス状の段をもつ。埋土は、全体に地山塊と炭を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑39**（第15・40図）

2区西側調査区の土坑38の南東側1mに位置する。平面形は長軸38cm、短軸27cmの円形を呈し、検出面からの深さ24cmを測る。断面形は逆台形で、北部分にテラス状の段をもつ。埋土は、全体に地山塊と炭を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑40**（第15・40図）

2区西側調査区の土坑39の東側2mに位置する。平面形は長軸41cm、短軸39cmの円形を呈し、検出面からの深さ11cmを測る。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。



第39図 土坑27~38 (1/30)

**土坑41** (第15・40図)

2区西側調査区の土坑40の北側1mに位置する。土坑の東側は調査区外となる。平面形は長軸28cm、短軸10cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ4cmを測る。埋土は、全体に地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑42** (第15・40図)

2区西側調査区の土坑40の南側1mに位置する。平面形は長軸63cm、短軸54cmの円形を呈し、検出面からの深さ15cmを測る。埋土は、全体に地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑43** (第15・40図)

2区西側調査区の土坑42の北東側1mに位置する。平面形は長軸48cm、短軸35cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ11cmを測る。底面は北部にテラス状の段が認められる。埋土は、全体に地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑44** (第15・40図)

2区西側調査区の土坑43の南東側2mに位置する。土坑の南側は、過去の進入路設置時に削平を受けている。平面形は、長軸215cm、短軸95cmの不定形を呈し、検出面からの深さ18cmを測る。断面形は椀形を呈し、底はほぼ平坦となる。埋土は、全体に地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑45** (第15・40図、図版10)

2区西側調査区の土坑44の北東側2mに位置する。平面形は長軸159cm、短軸45cmの長楕円形を呈し、検出面からの深さ13cmを測る。断面形は緩やかに立ち上がる椀形を呈し、底は東西部分にテラス状の段を有し、西部は一段の窪む箇所がある。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑46** (第15・40図)

2区南側調査区の土坑45の南側2mに位置する。土坑の南側は、過去の進入路設置時に削平を受けている。平面形は長軸46cm以上、短軸56cmの隅丸方形を呈し、検出面からの深さ47cmを測る。底は中央が一段落ち込み、北側壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋土は、第2層に地山塊を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑47** (第15・41図)

2区南側調査区の土坑46の北東側4mに位置する。平面形は長軸107cm、短軸75cmの不整円形を呈し、検出面からの深さ12cmを測る。埋土は第1層に炭、第2層に地山塊を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

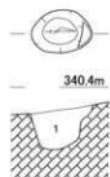
**土坑48** (第15・41図)

2区南側調査区の土坑47の東側に接して位置する。平面形は長軸60cm、短軸25cmの不定形を呈し、検出面からの深さ5cmを測る。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑49** (第15・41図)

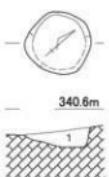
2区南側調査区の土坑48の東側に接して位置する。土坑の南側は、過去の進入路設置時に削平を受けている。平面形は長軸30cm、短軸27cmの円形を呈し、検出面からの深さ3cmを測る。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

土坑39



1 にぶい黄色 (25Y6/3) 粘性砂質土

土坑40



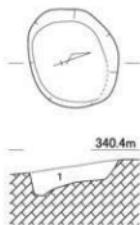
1 にぶい黄色 (25Y6/3) 粘性砂質土

土坑41



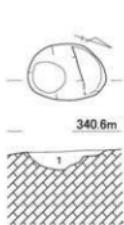
1 にぶい黄色 (25Y6/4) 粘性砂質土

土坑42



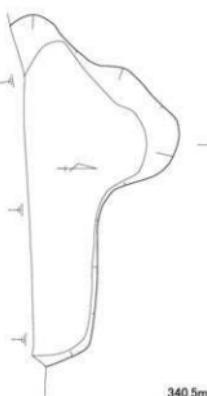
1 にぶい黄色 (25Y6/3) 粘性砂質土

土坑43



1 にぶい黄色 (25Y6/3) 粘性砂質土

土坑44



土坑45



1 にぶい黄色 (25Y6/3) 粘性砂質土

土坑46



1 にぶい黄色 (25Y6/3) 粘性砂質土

2 にぶい黄色 (25Y6/4) 粘性砂質土



第40図 土坑39～46 (1/30)

**土坑50（第15・41図）**

2区南側調査区の土坑49の北側1mに位置する。平面形は長軸41cm、短軸35cmの円形を呈し、検出面からの深さ3cmを測る。埋土は、全体に地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑51（第15・41図）**

2区南側調査区の土坑50の東側に接して位置する。土坑の東側は、過去の進入路設置時に削平を受けている。平面形は長軸20cm以上、短軸37cm以上の円形を呈し、検出面からの深さ5cmを測る。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑52（第15・41図、図版11）**

2区丘陵西側斜面の土坑53の北側1mに位置する。土坑は強固な岩盤上で検出した。平面形は長軸73cm、短軸46cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ45cmを測る。断面形は東部で10cm以上オーバーハングし袋状を呈する。底は四段に落ち込み、西部では壁が垂直近くに立ち上がる。埋土は、単層で地山塊と炭を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑53（第15・41図）**

2区丘陵西側斜面の土坑52の南側1mに位置する。平面形は長軸62cm、短軸37cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ26cmを測る。底は数段に落ち込みをみせる。埋土は3層からなり、全体に地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑54（第15・41図）**

2区丘陵西側斜面の土坑53の南東側6mに位置する。土坑の南側は調査区外となる。平面形は長軸29cm、短軸11cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ10cmを測る。埋土は、地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑55（第15・41図）**

2区丘陵西側斜面の土坑54の北側1mに位置する。平面形は長軸97cm、短軸45cmの不整楕円形を呈し、検出面からの深さ4cmを測る。埋土は、地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑56（第15・41図）**

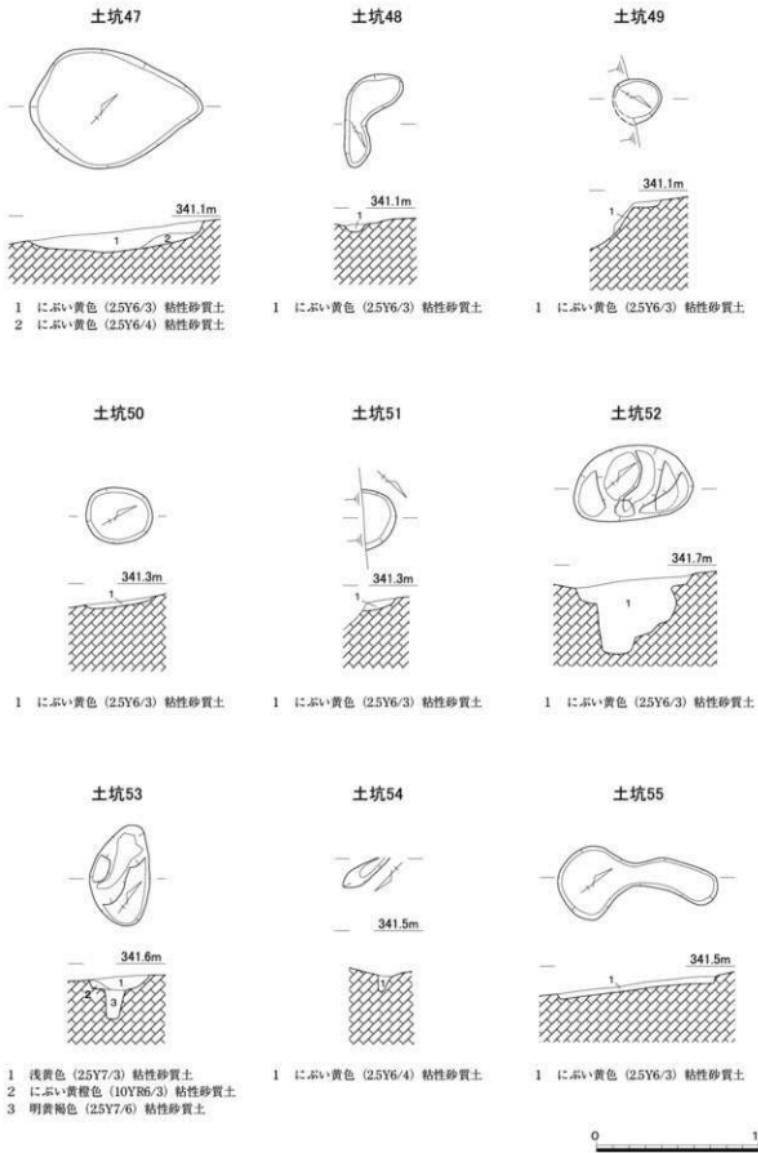
2区丘陵頂部の掘立柱建物1の西側3mに位置する。土坑は露岩の裾に掘られており、底は岩盤が認められた。平面形は長軸110cm、短軸38cmの不定形を呈し、検出面からの深さ5cmを測る。埋土は、地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑57（第15・42図）**

2区丘陵頂部の土坑56の南側3mに位置する。平面形は長軸54cm、短軸52cmの円形を呈し、検出面からの深さ22cmを測る。底は二段に落ち込み、北部に浅い平坦面をもつ。埋土は、単層で地山塊と炭を多く含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑58（第15・42図）**

2区丘陵頂部の土坑57の東側1mに位置する。平面形は長軸49cm、短軸39cmの円形を呈し、検出面からの深さ21cmを測る。埋土は、単層で地山塊と炭を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。



第41図 土坑47~55 (1/30)

**土坑59** (第15・42図)

2区丘陵頂部の土坑58の東側1mに位置する。平面形は長軸70cm、短軸44cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ21cmを測る。底は二段に落ち込み、南部の壁は垂直に立ち上がる。埋土は3層からなり、第1層に地山塊と炭を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑60** (第15・42図、図版11)

2区丘陵頂部の土坑59の南東側1mに位置する。平面形は長軸112cm、短軸60cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ15cmを測る。底は三段に落ち込み、西部にテラス状の段を有する。埋土中には流紋岩の礫3点が含まれていた。埋土は5層からなり、1層以外は地山塊と炭を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑61** (第15・42図)

2区丘陵頂部の土坑56の東側4mに位置する。また、掘立柱建物1とも重なるが、先後関係は不明である。平面形は長軸50cm、短軸30cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ15cmを測る。底は二段に落ち込み、北部にテラス状の段を有する。埋土は、単層で地山塊と炭を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑62** (第15・42図)

2区丘陵頂部の土坑60の東側3mに位置する。土坑は強固な岩盤上で検出した。平面形は長軸134cm、短軸48cmの不整楕円形を呈し、検出面からの深さ6cmを測る。埋土は、単層で地山塊を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑63** (第15・42図)

2区丘陵頂部の土坑62の北東側1mに位置する。土坑は、土坑63同様に強固な岩盤上で検出した。平面形は長軸59cm、短軸40cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ10cmを測る。埋土は、単層で地山塊と炭を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑64** (第15・42図)

2区丘陵頂部の土坑65の南側に位置する。平面形は長軸69cm、短軸63cmの円形を呈し、検出面からの深さ12cmを測る。埋土中には流紋岩の礫が含まれていた。埋土は、単層で地山塊と炭を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

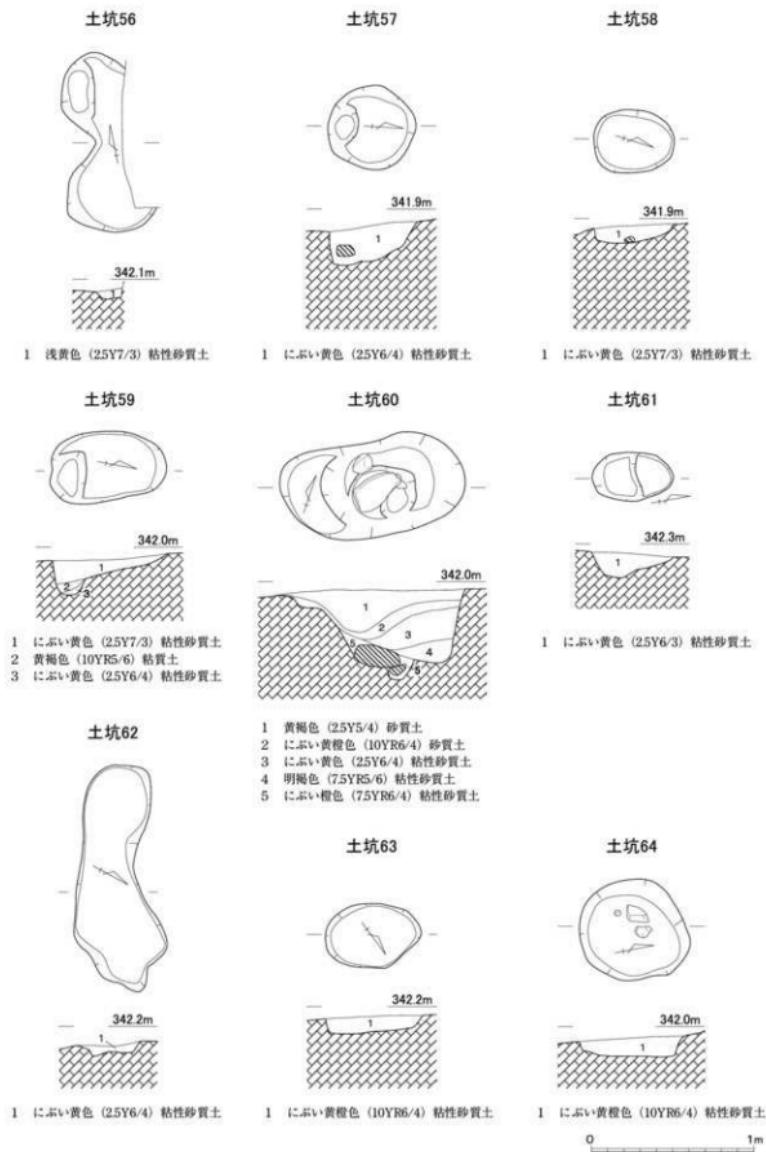
**土坑65** (第15・43図、図版11)

2区丘陵頂部の土坑64の北側に位置する。平面形は長軸403cm、短軸111cmの長楕円形を呈する東西に長大な遺構である。最も深いところで、検出面からの深さ20cmを測る。遺構検出時は、溝として認識していたが、長軸の両端が急に立ち上げることから土坑とした。底は平坦ではなく、中央部が一段高くなっている。埋土は、単層で地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑66** (第15・43図)

2区丘陵頂部の土坑64の南側15mに位置する。土坑の南側は、岩盤の一部を掘削している。平面形は長軸205cm、短軸98cmの不整楕円形を呈し、検出面からの深さ12cmを測る。土坑の東隅には、長軸20cm、短軸15cm、深さ7cmを測る小ピットをもつ。埋土は、単層で地山塊を顕著に含む。

遺物は、小ピットから少量の土器細片が出土している。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。



第42図 土坑56~64 (1/30)

**土坑67** (第15・43図、図版12)

2区丘陵頂部の土坑66の南側1mに位置する。土坑の東部は、平成17年度の試掘調査トレンチに切られている。平面形は長軸110cm、短軸81cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ14cmを測る。埋土は、単層で地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑68** (第15・43図)

2区丘陵頂部の土坑64の東側2.5mに位置する。平面形は長軸61cm、短軸57cmの円形を呈し、検出面からの深さ5cmを測る。埋土は、単層で地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑69** (第15・43図)

2区丘陵頂部の土坑68の南側1mに位置する。平面形は長軸61cm、短軸57cmの円形を呈し、検出面からの深さ5cmを測る。埋土は、単層で地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑70** (第15・43図)

2区丘陵頂部の土坑68の東側2mに位置する。土坑は、岩盤上で検出した。平面形は長軸74cm、短軸58cmの不整円形を呈し、検出面からの深さ13cmを測る。底は中央がやや深く、平坦ではない。埋土は、単層で地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑71** (第15・43図)

2区丘陵頂部の土坑69の東側2mに位置する。平面形は長軸63cm、短軸39cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ7cmを測る。埋土は、単層で地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑72** (第15・44図)

2区丘陵頂部の土坑71の北側1mに位置し、土坑73を切っている。平面形は長軸128cm、短軸74cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ7cmを測る。埋土中には流紋岩の礫が含まれていた。埋土は、単層で地山塊と炭を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑73** (第15・44図)

2区丘陵頂部の土坑72の北側に接して位置する。土坑の南側を土坑72に切られている。平面形は長軸41cm、短軸32cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ6cmを測る。埋土は、単層で地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑74** (第15・44図)

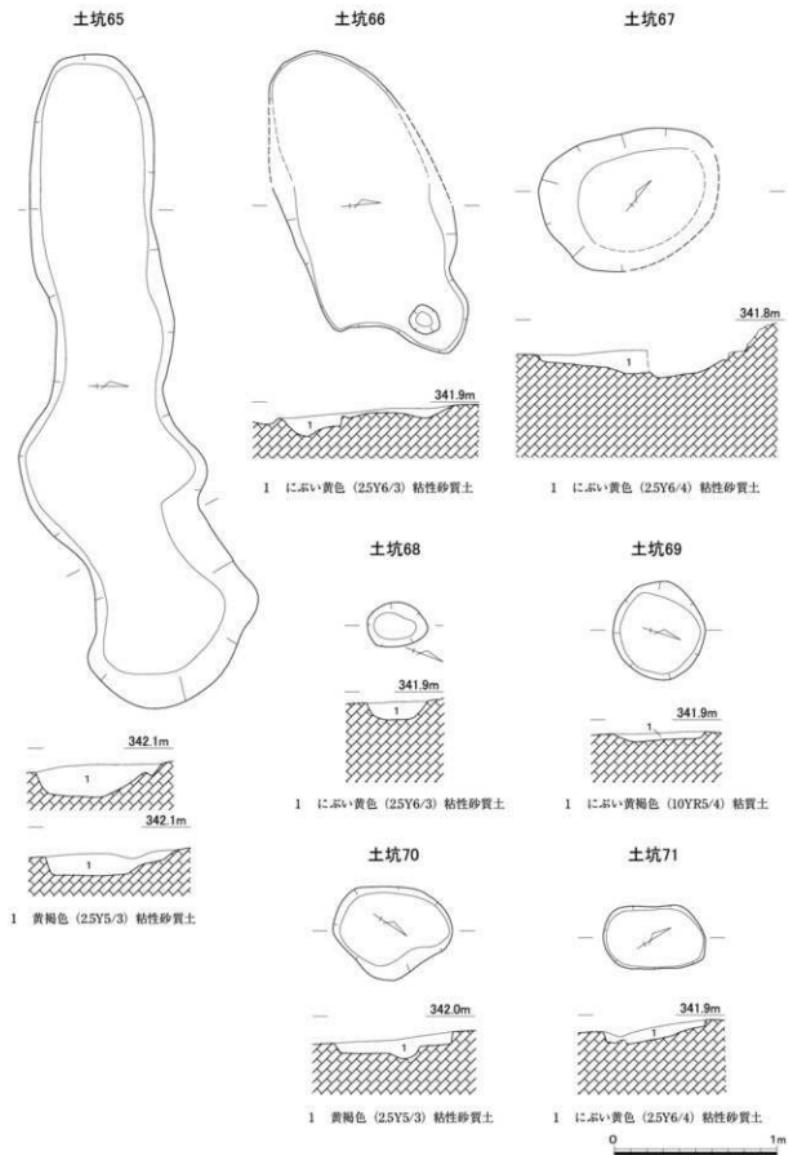
2区丘陵頂部の土坑71の北東側1.5mに位置する。平面形は長軸57cm、短軸26cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ8cmを測る。底は二段に落ち込み、北部にテラス状の段を有する。埋土は、単層で地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑75** (第15・44図)

2区丘陵頂部の土坑71の南側に位置する。平面形は長軸105cm、短軸62cmの不整円形を呈し、検出面からの深さ8cmを測る。断面形は中央部に若干の凹凸がみられる。埋土は、単層で地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑76** (第15・44図)

2区丘陵頂部北東隅に位置する。土坑は露岩の裾に掘られており、底は岩盤が認められた。土坑の



第43図 土坑65～71 (1/30)

北側一部が調査区外となるため、全容は不明である。平面形は長軸56cm、短軸55cmの不定形を呈し、検出面からの深さ25cmを測る。底は二段に落ち込み、北と西部にテラス状の段を有する。埋土は、単層で地山塊を顕著に含む。また、埋土中には流紋岩の礫が含まれていた。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑77（第15・44図）**

2区丘陵頂部の土坑75の東側1mに位置する。土坑の東側を土坑78に切られている。平面形は長軸47cm、短軸30cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ7cmを測る。埋土は2層で、上層に地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑78（第15・44図）**

2区丘陵頂部の土坑77の南側に接して位置し、土坑77を切っている。平面形は長軸75cm、短軸33cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ8cmを測る。断面形は皿形を呈し、底は平坦である。埋土は、単層で地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑79（第15・44図）**

2区丘陵頂部の土坑81の西側1mに位置し、強固な岩盤を掘削している。平面形は長軸123cm、短軸35cmの長楕円形を呈し、検出面からの深さ6cmを測る。底は二段に落ち込み、南部にテラス状の段を有する。埋土は、単層で地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑80（第15・44図）**

2区丘陵頂部の土坑79の南側1mに位置する。また、掘立柱建物2とも重なるが、先後関係は不明である。平面形は長軸79cm、短軸77cmの不定形を呈し、検出面からの深さ11cmを測る。埋土は2層で、地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑81（第15・44図）**

2区丘陵頂部の土坑79の東側1mに位置する。平面形は長軸81cm、短軸72cmの円形を呈し、検出面からの深さ22cmを測る。底は三段に落ち込み、三方にテラス状の段を有する。埋土は2層で、地山塊を顕著に含む。埋土中には、流紋岩の礫が含まれていた。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑82（第15・45図）**

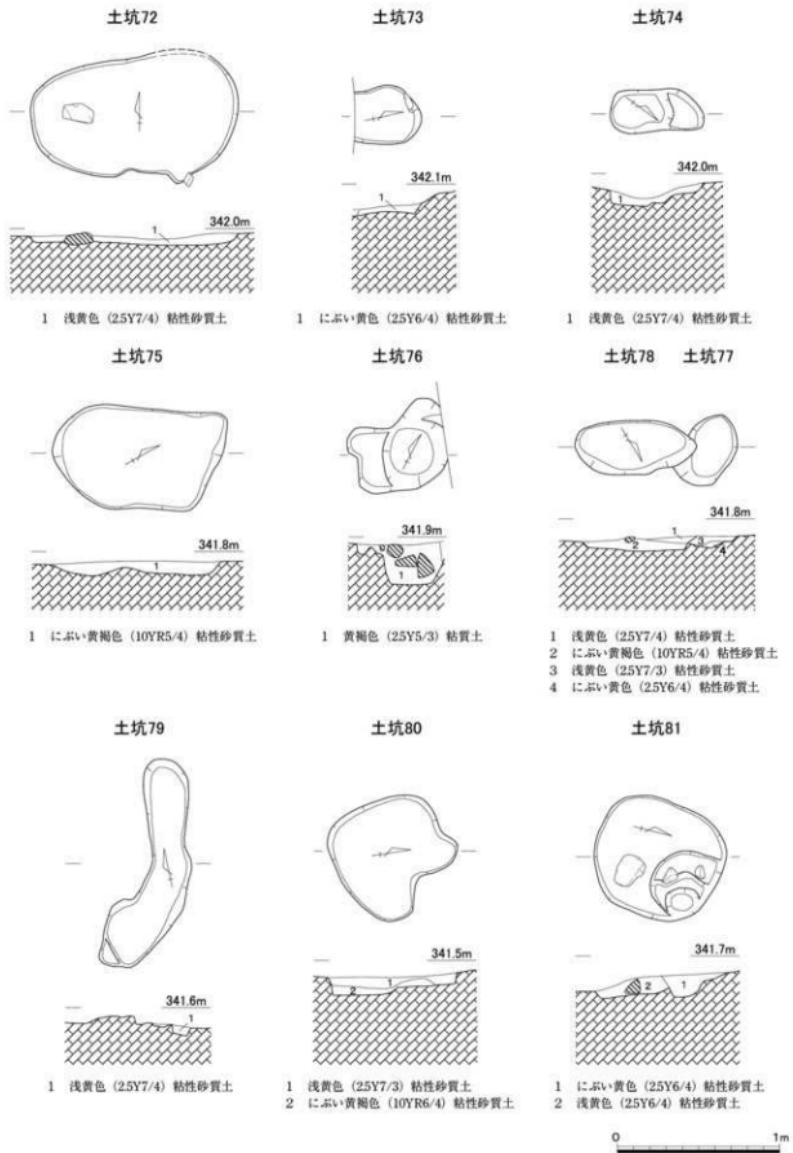
2区丘陵頂部の土坑79の東1.5mに位置する。平面形は長軸67cm、短軸54cmの円形を呈し、検出面からの深さ22cmを測る。底は二段に落ち込み、北部に浅いテラス状の段を有する。埋土は、単層で地山塊と炭を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑83（第15・45図）**

2区丘陵頂部の土坑82の東側に接して位置する。土坑の東側は、過去の進入路設置時の削平を受けている。平面形は長軸111cm以上、短軸30cmの長楕円形を呈し、検出面からの深さ13cmを測る。底は長軸方向が一定の深さで、短軸方向が丸みをもつ椀形の断面形となる。埋土は、単層で地山塊を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑84（第15・45図）**

2区丘陵頂部の土坑81の東側1mに位置する。平面形は長軸48cm、短軸32cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ8cmを測る。埋土は、単層で地山塊を顕著に含む。遺物は、少量の土器細片が出土している。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。



第44図 土坑72~81 (1/30)

**土坑85（第16・45図）**

3区北側調査区の土坑87の北側に位置する。平面形は長軸74cm、短軸24cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ6cmを測る。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑86（第16・45図）**

3区北側調査区の土坑85の南西側1mに位置する。土坑の西側一部が調査区外となるため、全容は不明である。平面形は長軸90cm以上、短軸42cmの不整長楕円形を呈し、検出面からの深さ4cmを測る。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑87（第16・45図）**

3区北側調査区の土坑85の南側に位置する。平面形は長軸26cm、短軸22cmの円形を呈し、検出面からの深さ7cmを測る。埋土は、単層で地山塊と炭を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑88（第16・45図）**

3区北側調査区の土坑87の南側に接して位置する。平面形は長軸75cm、短軸66cmの不定形を呈し、検出面からの深さ5cmを測る。埋土は、単層で地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑89（第16・45図）**

3区北側調査区の土坑86の南東側1mに位置する。土坑の北側は、溝2に切られている。平面形は長軸56cm、短軸16cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ3cmを測る。埋土は、単層で地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑90（第16・45図）**

3区北側長九の土坑89の南側1mに位置する。平面形は長軸48cm、短軸22cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ3cmを測る。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑91（第16・46図）**

3区北側調査区の土坑90の南側1mに位置する。平面形は長軸30cm、短軸28cmの円形を呈し、検出面からの深さ19cmを測る。底は二段に落ち込み、南と西部にテラス状の段を有する。埋土は、単層で地山塊を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑92（第16・46図）**

3区北側調査区の土坑91の西側1mに位置する。土坑の西側一部が調査区外となるため、全容は不明である。平面形は長軸56cm、短軸36cm以上の楕円形を呈し、検出面からの深さ8cmを測る。底は北部で二段に落ち込む。遺物は、土器細片が出土している。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

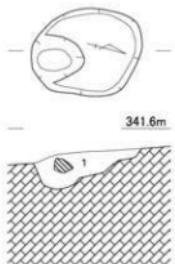
**土坑93（第16・46図）**

3区北側調査区の土坑91の南側に位置する。平面形は長軸50cm、短軸24cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ11cmを測る。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑94（第16・46図）**

3区北側調査区の土坑92の南側1mに位置する。土坑の西側一部が調査区外となるため、全容は不明である。平面形は長軸62cm以上、短軸53cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ12cmを測る。埋土は、単層で地山塊を顕著に含む。埋土中には、流紋岩の礫が含まれていた。遺構の時期は、弥生時代後期

土坑82



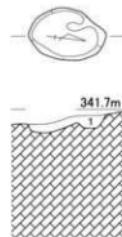
1 浅黄色 (25Y7/3) 粘性砂質土

土坑83



1 浅黄色 (25Y7/3) 粘性砂質土

土坑84



1 浅黄色 (25Y7/3) 粘性砂質土

土坑85



1 にぶい黄色 (25Y6/3) 粘性砂質土

土坑86



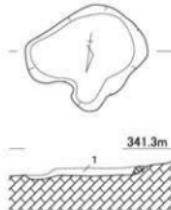
1 にぶい黄色 (25Y6/3) 粘性砂質土

土坑87



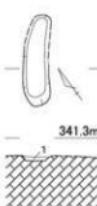
1 にぶい黄色 (25Y6/3) 粘性砂質土

土坑88



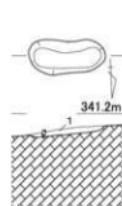
1 にぶい黄色 (25Y6/3) 粘性砂質土

土坑89



1 浅黄色 (25Y7/3) 粘性砂質土

土坑90



1 にぶい黄色 (25Y6/3) 粘性砂質土

0 1m

第45図 土坑82~90 (1/30)

に位置づけられる。

#### **土坑95（第16・46図）**

3区北側調査区の土坑94の南西1.5mに位置する。土坑の西側一部が調査区外となるため、全容は不明である。平面形は長軸33cm、短軸20cm以上の楕円形を呈し、検出面からの深さ5cmを測る。埋土は、単層で地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑96（第16・46図）**

3区北側調査区の土坑94の南側1mに位置する。平面形は長軸67cm、短軸61cmの円形を呈し、検出面からの深さ20cmを測る。底は二段に落ち込み、南と西部にテラス状の段をもつ。埋土は3層で、第1層は地山塊を含む。埋土中には、流紋岩の礫が含まれていた。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑97（第16・46図）**

3区北側調査区の土坑95の南側1mに位置する。平面形は長軸59cm、短軸50cmの不整円形を呈し、検出面からの深さは3cmを測る。埋土は、単層で地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑98（第16・46図）**

3区北側調査区の土坑95の南西側1.5mに位置する。平面形は長軸31cm、短軸27cmの円形を呈し、検出面からの深さは13cmを測る。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑99（第16・46図）**

3区北側調査区の土坑97の南東側1mに位置する。平面形は長軸34cm、短軸29cmの円形を呈し、検出面からの深さ14cmを測る。埋土は、単層で地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑100（第16・47図）**

3区北側調査区の土坑99の南側1mに位置する。土坑は、確認調査のT1で柱穴として検出した遺構である。平面形は長軸51cm以上、短軸33cmの楕円形を呈し、検出面からの深さは5cmを測る。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑101（第16・47図）**

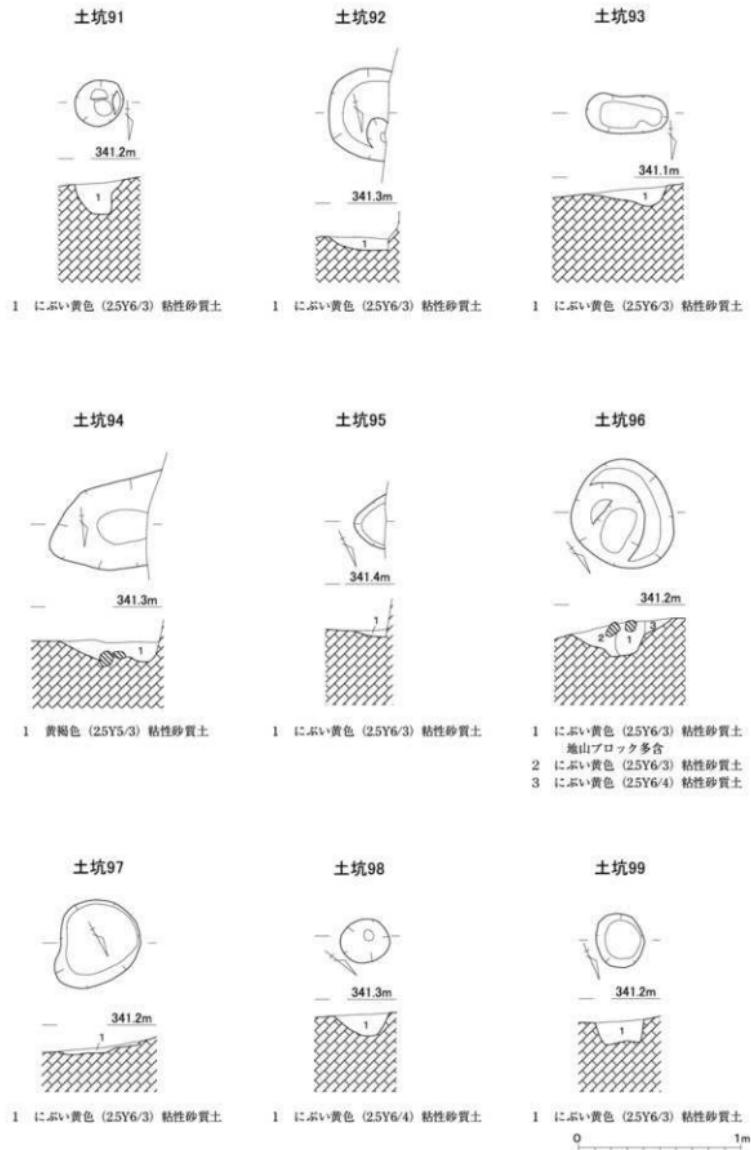
3区北側調査区の土坑98の南東側2mに位置する。土坑は、確認調査のT1で切られている。平面形は長軸50cm以上、短軸29cmの楕円形を呈し、検出面からの深さは7cmを測る。埋土は、単層で地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑102（第16・47図）**

3区北側調査区の土坑101の南東側に位置する。土坑は、確認調査のT1で切られている。平面形は長軸33cm以上、短軸15cm以上の楕円形を呈し、検出面からの深さは11cm以上を測る。埋土は、単層で地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑103（第16・47図）**

3区北側調査区の土坑101の西側1mに位置する。平面形は長軸35cm以上、短軸25cmの不整円形を呈し、検出面からの深さは9cmを測る。埋土は、単層で地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。



第46図 土坑91~99 (1/30)

**土坑104（第16・47図）**

3区中央調査区の土坑103の南西側1mに位置する。平面形は長軸118cm、短軸64cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ16cmを測る。断面形は楕形を呈し、底は平坦である。埋土中には、流紋岩の礫が含まれていた。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑105（第16・47図）**

3区中央調査区の土坑104の東側に位置する。平面形は長軸32cm、短軸23cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ6cmを測る。埋土は、単層で地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑106（第16・47図、図版12）**

3区中央調査区の土坑103の南側1mに位置する。平面形は長軸115cm、短軸65cmの不定形を呈し、検出面からの深さ22cmを測る。底は二段に落ち込み、西部にテラス状の段をもつ。埋土は、2層で地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑107（第16・47図）**

3区中央調査区の土坑106の南側に位置する。平面形は長軸51cm、短軸35cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ11cmを測る。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑108（第16・47図）**

3区中央調査区の土坑104の西側2mに位置する。土坑は露岩の裾で検出している。平面形は長軸97cm、短軸57cmの不定形を呈し、検出面からの深さ9cmを測る。断面形は皿形を呈し、底は凸凹である。埋土は、単層で地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑109（第16・48図）**

3区中央調査区の土坑111の北東側2mに位置する。平面形は長軸32cm、短軸26cmの円形を呈し、検出面からの深さ10cmを測る。埋土は、単層で地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑110（第16・48図）**

3区中央調査区の土坑109の南東側2mに位置する。平面形は長軸40cm、短軸37cmの円形を呈し、検出面からの深さ12cmを測る。埋土は、単層で地山塊と炭を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑111（第16・48図）**

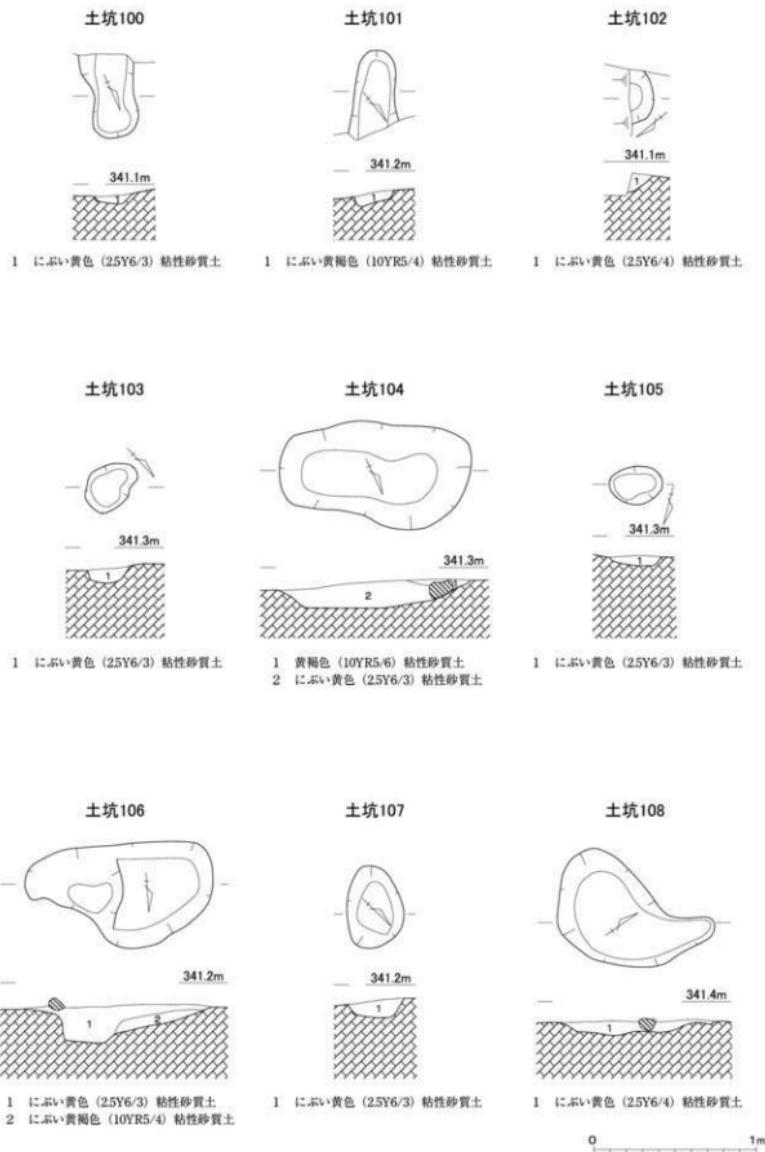
3区中央調査区の土坑109の南西側2mに位置する。平面形は長軸40cm、短軸37cm円形を呈し、検出面からの深さ12cmを測る。底は二段に落ち込み、三方にテラス状の段をもつ。埋土は2層で地山塊と炭を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑112（第16・48図）**

3区中央調査区の土坑110の南西側1.5mに位置する。土坑の南東側一部が調査区外となるため、全容は不明である。平面形は長軸62cm以上、短軸56cm以上の不整円形を呈し、検出面からの深さ7cmを測る。埋土は、単層で地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑113（第16・48図）**

3区中央調査区の土坑112の南西側に位置する。土坑の南東側一部が調査区外となるため、全容は不明である。平面形は長軸73cm以上、短軸30cm以上の隅丸方形を呈し、検出面からの深さ28cm以上を



第47図 土坑100~108 (1/30)

測る。埋土は、単層で地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑114（第16・48図）**

3区中央調査区の土坑111の南西側に位置する。土坑の西側一部が調査区外となるため、全容は不明である。平面形は長軸35cm以上、短軸30cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ8cmを測る。埋土は、単層で地山塊と炭を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑115（第16・48図）**

3区中央調査区の土坑113の北西側2mに位置する。土坑は、確認調査のT2で溝として検出した遺構である。土坑の南側はサブトレンチで切られている。平面形は長軸57cm以上、短軸33cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ13cmを測る。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑116（第16・48図）**

3区中央調査区の土坑114の南側1.5mに位置する。平面形は長軸34cm、短軸30cmの円形を呈し、検出面からの深さ17cmを測る。断面形は箱形で、底は平坦である。埋土は、単層で地山塊と炭を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑117（第16・48図）**

3区中央調査区の土坑116の南側に接して位置する。平面形は長軸49cm、短軸41cmの円形を呈し、検出面からの深さ26cmを測る。底は二段に落ち込み、南部にテラス状の段をもつ。埋土は、単層で地山塊と炭を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑118（第16・49図）**

3区中央調査区の土坑117の西側1mに位置する。平面形は長軸56cm、短軸40cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ24cmを測る。底は東部が一段深くなり、壁は垂直に立ち上がる。埋土は2層で上層は炭、下層は地山塊を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑119（第16・49図）**

3区中央調査区の土坑118の南側に位置する。土坑の西側は、近現代の配線工事時に削平を受けている。平面形は長軸60cm以上、短軸25cm以上の楕円形を呈し、検出面からの深さ6cmを測る。埋土は、単層で地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑120（第16・49図）**

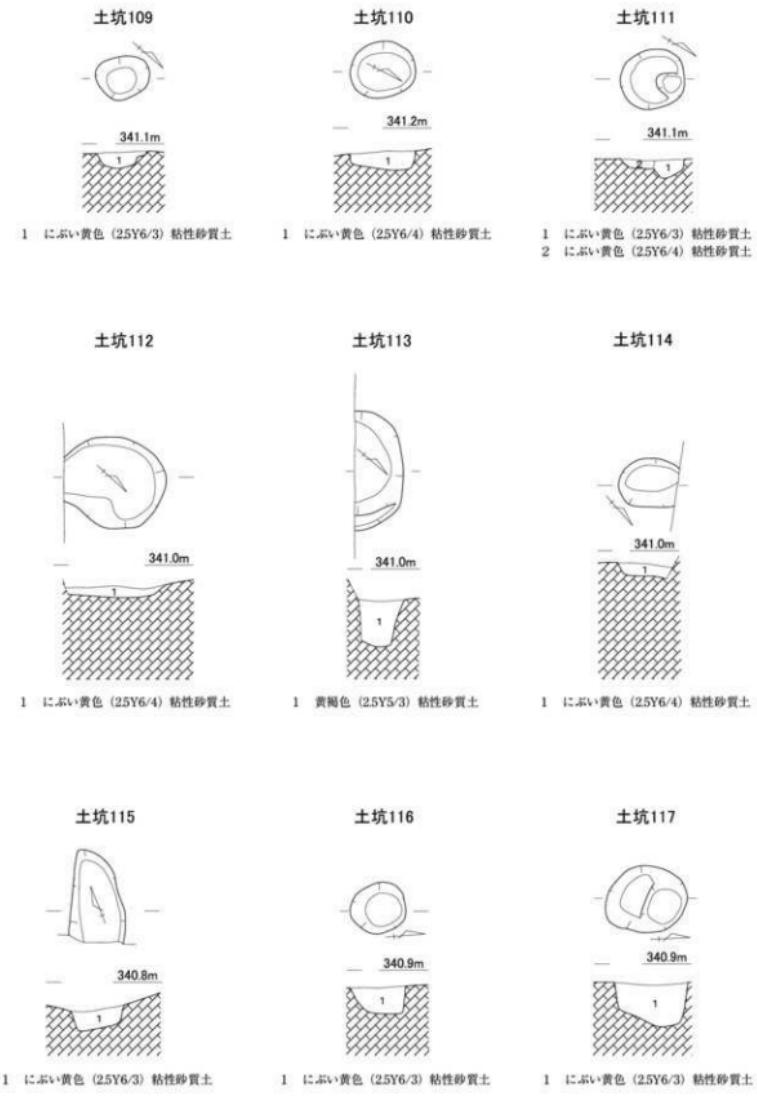
3区中央調査区の土坑121の北西側1mに位置する。平面形は長軸52cm、短軸45cmの円形を呈し、検出面からの深さ19cmを測る。埋土は2層で、炭を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑121（第16・49図）**

3区中央調査区の土坑122の北東側1.5mに位置する。土坑の南側一部が調査区外となるため、全容は不明である。平面形は長軸60cm以上、短軸24cm以上の円形を呈し、検出面からの深さ22cm以上を測る。埋土は、単層で地山塊と炭を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### **土坑122（第16・49図）**

3区中央調査区の土坑120の南側2mに位置する。平面形は長軸41cm、短軸37cmの円形を呈し、検出面からの深さ8cmを測る。埋土は、単層で炭を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。



第48図 土坑109~117 (1/30)

**土坑123** (第16・49図)

3区中央調査区の土坑122の西側に位置する。土坑の南側一部が調査区外となるため、全容は不明である。平面形は長軸92cm以上、短軸80cmの不定形を呈し、検出面からの深さ15cmを測る。埋土は2層で、地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑124** (第17・49図)

3区中央調査区の土坑123の西側1.5mに位置する。平面形は長軸28cm、短軸25cmの円形を呈し、検出面からの深さ15cmを測る。埋土は、単層で地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑125** (第17・49図)

3区中央調査区の土坑124の西側3.5mに位置する。土坑の西側一部が調査区外となるため、全容は不明である。平面形は長軸31cm以上、短軸37cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ10cmを測る。

底は一部が浅く落ち込む。埋土は2層で上層は炭、下層は地山塊を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑126** (第17・49図、図版12)

3区中央調査区の溝6の南側1mに位置する。土坑の東側一部が調査区外となるため、全容は不明である。平面形は長軸136cm以上、短軸45cm以上の不整楕円形を呈し、検出面からの深さ27cm以上を測る。底は二段に落ち込み、東部にテラス状の段をもつ。埋土は2層で、下層が地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑127** (第17・50図、図版13)

3区中央調査区の土坑126の西側に接して位置する。土坑の南側一部が調査区外となるため、全容は不明である。平面形は長軸113cm以上、短軸39cm以上の不定形を呈し、検出面からの深さ31cm以上を測る。底は二段に落ち込み、東と西部にテラス状の段をもつ。埋土は3層で、下2層が地山塊を顕著に含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑128** (第17・50図)

3区中央調査区の土坑125の南側1.5mに位置する。土坑は、確認調査のT3で柱穴として検出した遺構であり、南半分はトレンチで切られている。平面形は長軸25cm以上、短軸33cmの楕円形を呈し、検出面からの深さは17cmを測る。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑129** (第17・50図)

3区中央調査区の土坑128の南側1mに位置する。土坑は、確認調査のT3で柱穴として検出した遺構であり、東半分はトレンチで切られている。平面形は長軸28cm以上、短軸8cm以上、検出面からの深さは15cm以上を測る。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

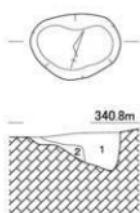
**土坑130** (第17・50図)

3区中央調査区の溝7の西側1mに位置する。平面形は長軸100cm、短軸79cmの不整円形を呈し、検出面からの深さ9cmを測る。埋土は、単層で地山塊と炭を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**土坑131** (第17・50図)

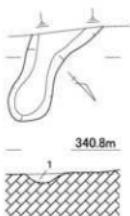
3区中央調査区の土坑130の南側に位置する。平面形は長軸118cm、短軸63cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ13cmを測る。底は二段に落ち込み、北部以外の三方にテラス状の段をもつ。埋土は2層

土坑118



- 1 にぶい黄色 (25Y6/3) 粘性砂質土  
2 にぶい黄色 (25Y6/3) 粘性砂質土

土坑119



- 1 にぶい黄色 (25Y6/3) 粘性砂質土

土坑120



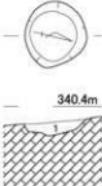
- 1 にぶい黄色 (25Y6/3) 粘性砂質土  
2 にぶい黄色 (25Y6/3) 粘性砂質土  
地山ブロック多含

土坑121



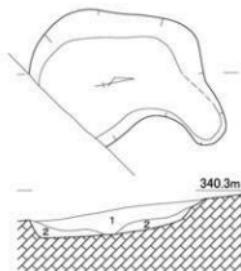
- 1 にぶい黄色 (25Y6/3) 粘性砂質土

土坑122



- 1 にぶい黄色 (25Y6/3) 粘性砂質土

土坑123



- 1 にぶい黄色 (25Y6/3) 粘性砂質土  
地山ブロック合  
2 にぶい黄色 (25Y6/3) 粘性砂質土

土坑124



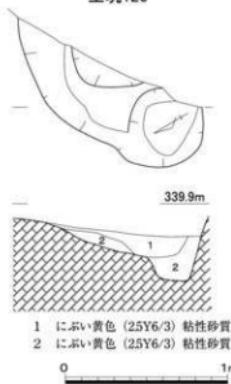
- 1 にぶい黄色 (25Y6/3) 粘性砂質土

土坑125



- 1 にぶい黄色 (25Y6/3) 粘性砂質土  
炭微合  
2 にぶい黄色 (25Y6/3) 粘性砂質土

土坑126



- 1 にぶい黄色 (25Y6/3) 粘性砂質土  
2 にぶい黄色 (25Y6/3) 粘性砂質土

0 1m

第49図 土坑118~126 (1/30)

で、上層は炭と地山塊、下層は地山塊を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### 土坑132（第17・50図）

3区中央調査区の土坑131の南側に位置する。土坑の南側一部が調査区外となるため、全容は不明である。平面形は長軸31cm以上、短軸20cm以上の楕円形を呈し、検出面からの深さ8cmを測る。断面形は逆台形を呈し、底は平坦である。埋土は単層で地山塊を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### 土坑133（第17・50図）

3区中央調査区の土坑131の南側に位置する。土坑の南側一部が調査区外となるため、全容は不明である。平面形は長軸129cm以上、短軸26cm以上の楕円形を呈し、検出面からの深さ14cmを測る。埋土は単層で地山塊を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### 土坑134（第17・50図）

3区中央調査区の土坑131の西側1.5mに位置する。平面形は長軸75cm、短軸64cmの円形を呈し、検出面からの深さ17cmを測る。断面形は逆台形を呈し、底は平坦である。埋土は、単層で地山塊と炭を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### 土坑135（第17・50図）

3区中央調査区の土坑134の西側1mに位置する。土坑の南側一部が調査区外となるため、全容は不明である。平面形は長軸58cm以上、短軸21cm以上の楕円形を呈し、検出面からの深さ4cmを測る。埋土は単層で地山塊を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### 土坑136（第17・51図、図版13）

3区中央調査区の土坑135の北西側1mに位置し、土坑137を切っている。平面形は長軸140cm、短軸70cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ31cmを測る。底は二段に落ち込み、南部にテラス状の段を有する。埋土は炭と地山塊を含む。遺物は、土器細片が出土している。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### 土坑137（第17・51図）

3区中央調査区の土坑136の北側に接して位置する。土坑は、東側を土坑136に、西側を竪穴住居3に切られている。平面形は長軸55cm以上、短軸59cm以上の楕円形を呈し、検出面からの深さ44cmを測る。埋土は炭と地山塊を含む。遺物は、土器細片が出土している。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### 土坑138（第17・51・52図、図版13・18）

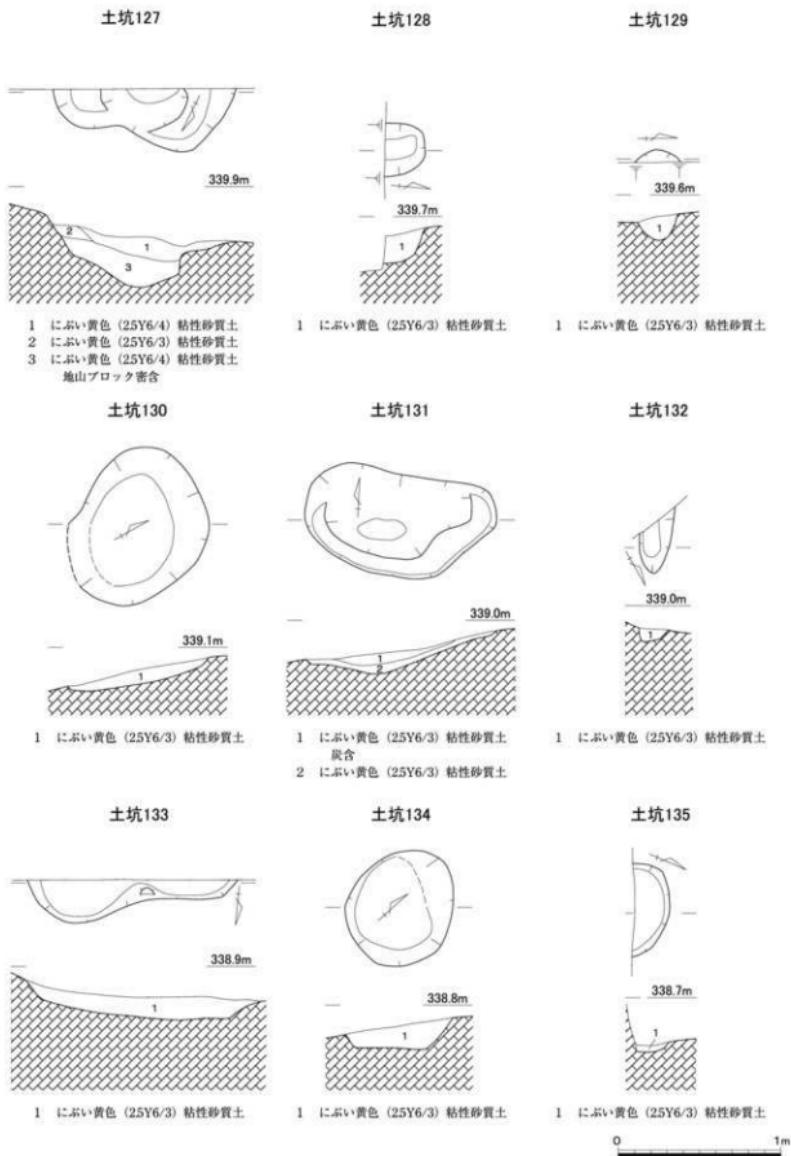
3区西側調査区の竪穴住居3の西側に位置する。平面形は長軸122cm、短軸101cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ38cmを測る。断面は中央に円形の落ち込み、壁は垂直に立ち上がる。埋土は2層で、地山塊を顯著に含む。遺物は、図示した壺37と鉢38の他に土器細片が出土している。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### 土坑139（第17・51図）

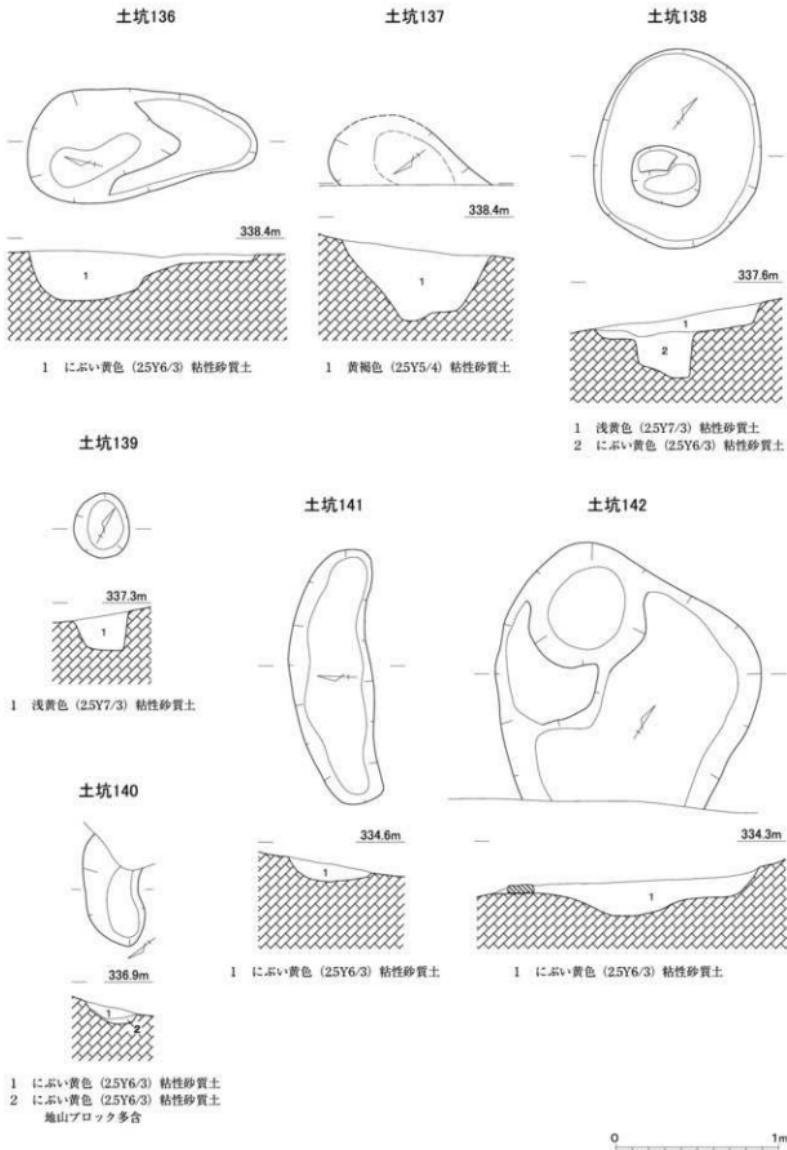
3区西側調査区の土坑138の北西側2mに位置する。平面形は長軸40cm、短軸34cmの円形を呈し、検出面からの深さ23cmを測る。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### 土坑140（第17・51図）

3区西側調査区の土坑139の南西側25mに位置する。土坑の東側一部が調査区外となるため、全容



第50図 土坑127～135 (1/30)



第51図 土坑136～142 (1/30)

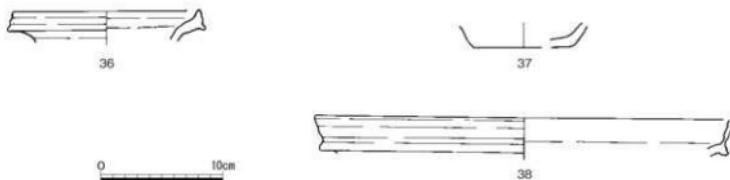
は不明である。平面形は長軸47cm以上、短軸34cmの梢円形を呈し、検出面からの深さ10cmを測る。埋土は2層で、下層に地山塊を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### 土坑141（第17・51図、図版14）

3区西側調査区の竪穴住居4の西側2mに位置する。平面形は長軸156cm、短軸50cmの梢円形を呈し、検出面からの深さ11cmを測る。埋土は、単層で地山塊を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### 土坑142（第17・51図）

3区西側調査区の土坑141の南西側1mに位置する。土坑の南側一部が調査区外となるため、全容は不明である。平面形は長軸159cm以上、短軸163cmの不定形を呈し、検出面からの深さ20cmを測る。底は二段に落ち込み、東と南部にテラス状の段をもつ。埋土は、単層で地山塊を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。



第52図 土坑27・土坑138出土遺物（1/4）

## 6 溝

#### 溝1（第16・53図、図版4）

1区調査区の中央で検出された溝で、露岩と岩盤の間を北西から南東へ流走する。検出長は約2m、上幅12cm、下幅6cm、検出面からの深さ11cmを測る。埋土は単層で、地山塊と炭を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### 溝2（第16・53図）

3区北側調査区に位置し、土坑89を切っている。検出長は130cm、上幅16cm、下幅11cm、検出面からの深さ3cmを測る。埋土は、単層で地山塊を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### 溝3（第16・53図）

3区中央調査区の土坑104の北側に位置し、東西に延びる溝である。検出長は95cm、上幅22cm、下幅9cm、検出面からの深さ4cmを測る。埋土は、単層で地山塊を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

#### 溝4（第14・53図、図版14）

2区北側調査区の土坑2の南側1mに位置し、東から西へ流走する。溝の東側が調査区外となるため、全容は不明である。検出長は約3m、上幅130cm、下幅82cm、検出面からの深さ15cmを測る。埋土は、単層で地山塊を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

## 溝5（第14・53図）

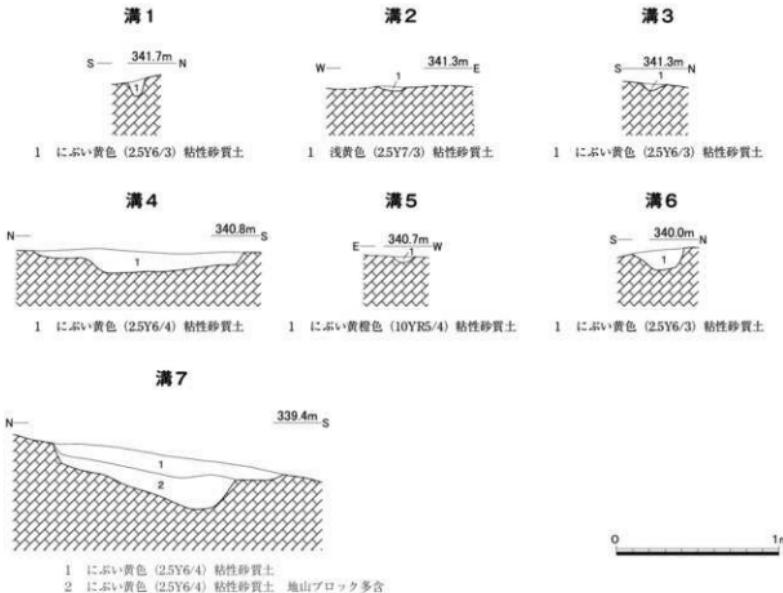
2区北側調査区の土坑3の南側に位置し、南北に延びる溝である。検出長は150cm、上幅16cm、下幅7cm、検出面からの深さ4cmを測る。埋土は、単層で地山塊を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

## 溝6（第17・53図）

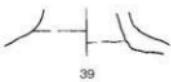
3区中央調査区の土坑126の北側1mに位置し、東西に延びる溝である。検出長は125cm、上幅40cm、下幅17cm、検出面から深さ12cmを測る。埋土は、単層で地山塊を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

## 溝7（第17・53・54図、図版14・18）

3区中央調査区の土坑130の東側で検出された溝で、南東から北西へ流走する。溝の北と南側が調査区外となるため、全容は不明である。検出長は4.5m、上幅57cm、下幅37cm、検出面からの深さ31cmを測る。埋土は2層で、下層に地山塊を含む。遺物は、図示した壺39と甕40のほかに土器細片が出土している。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。



第53図 溝1～7 (1/30)



第54図 溝7出土遺物 (1/4)

## 7 柱穴

### 柱穴1 (第15・55図)

2区西側調査区の土坑25の東側に位置する。平面形は長軸25cm、短軸21cmの円形を呈し、検出面からの深さ19cmを測る。埋土は、単層で炭を含む。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

### 柱穴2 (第15・55図)

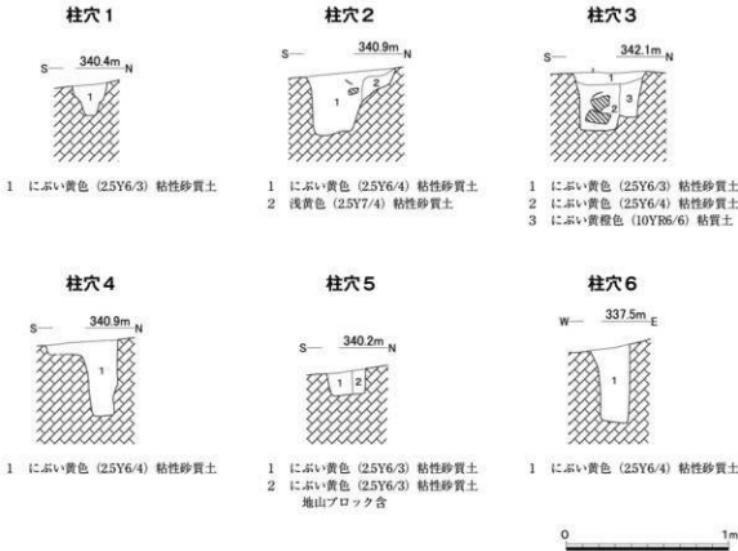
2区南側調査区の土坑46の北東側2mに位置する。掘立柱建物3に接するため、平面形は長軸55cm、短軸40cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ36cmを測る。埋土は2層で、上層に炭を含む。遺物は、土器細片が出土している。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

### 柱穴3 (第15・55・56図、図版15・18)

2区丘陵頂部の土坑56の南側1mに位置する。平面形は直径45cmの円形を呈し、検出面からの深さ36cmを測る。埋土は3層からなり、第1層と第3層には地山塊と炭を含む。第2層には流紋岩の礫が含まれていた。遺物は、第2層から壺41と甕42が出土している。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

### 柱穴4 (第16・55図)

3区中央調査区の土坑116の東側に位置し、確認調査のT2で溝として検出した遺構である。土坑の南側はサブトレンドで切られている。平面形は長軸35cm以上、短軸21cmの円形を呈し、検出面からの深さ46cmを測る。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。



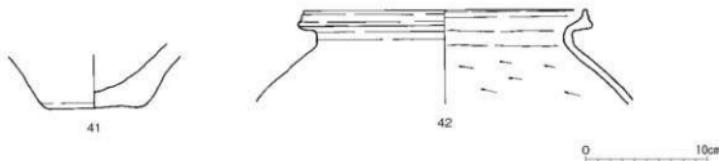
第55図 柱穴1～6 (1/30)

**柱穴5** (第17・55図)

3区中央調査区の溝6の北側に位置する。平面形は長軸29cm、短軸24cmの円形を呈し、検出面からの深さ15cmを測る。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

**柱穴6** (第17・55図)

3区西側調査区の土坑138の南側に位置する。平面形は長軸27cm、短軸24cmの円形を呈し、検出面からの深さ48cmを測る。埋土は、単層で炭を多く含む。調査区外での遺構に伴う可能性がある。遺構の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。



第56図 柱穴3出土遺物 (1/4)

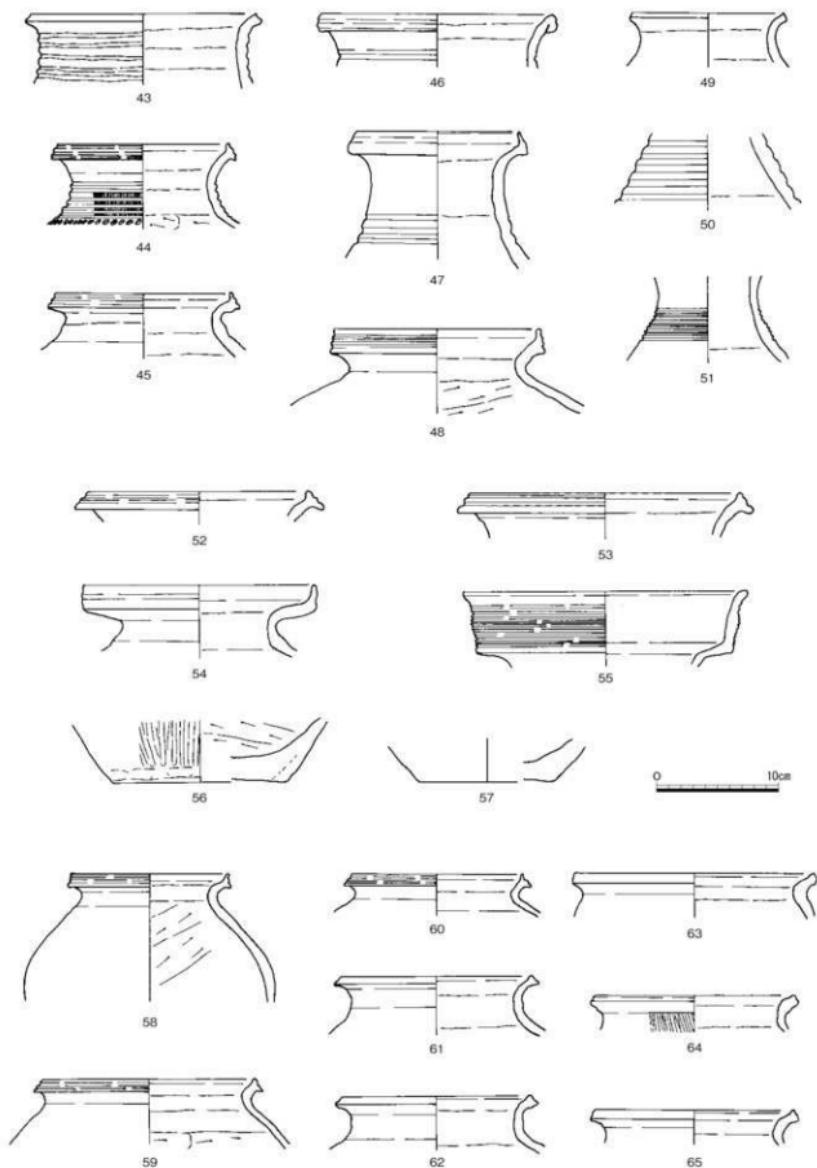
**8 遺構に伴わない遺物** (第57~59図、写真15、図版18~20・24・25)

遺構に伴わない遺物あるいは包含層から出土した土器を取り上げる。このようにして出土した土器の大半は弥生時代後期に属する遺物であり、遺跡の消長を反映している。ここでは、当該期の遺物の中から、残存状況の良いもの、特徴的な要素がみられるものを中心に取り上げている。

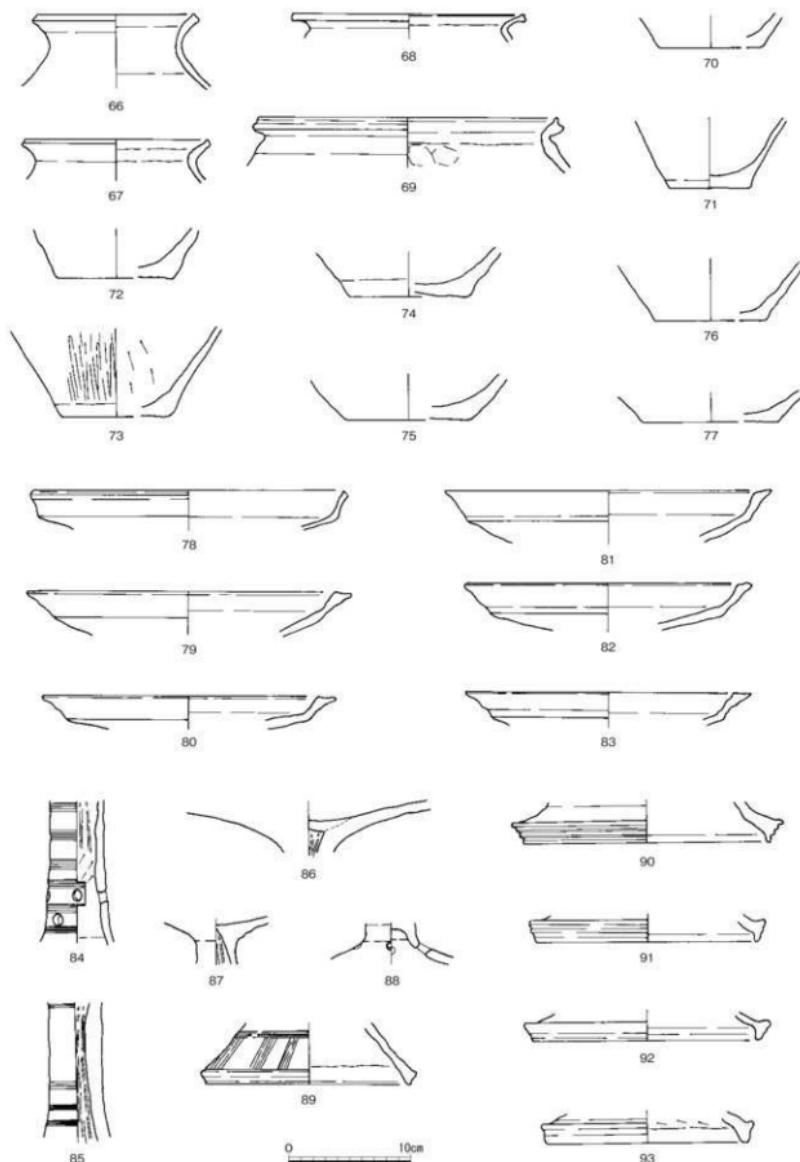
弥生土器の43~57は壺である。43は頸部に5条の沈線を施している。44は口縁端部を肥厚気味にし、3条の凹線文を施す。頭部には沈線、肩部には連続して刺突文を施している。45~48は緩やかに外反する頸部から大きく張り出す胴部を持つ壺である。46は口縁部を巻き込み、玉縁状となる。47は長頸壺で、口縁端部を上方に立ち上げ、頭部に3条の沈線を施している。48は2区丘陵頂部東側の露岩周辺から出土した壺で、口縁部に3条の凹線文を施している。51は頭部に平行沈線が施されている。52と53は口縁端部を内傾させ、上方に摘み上げ、ヨコナデで成形する。54~55は口縁端部を垂直に立ち上げている。55は大型の壺で、外面に沈線を施している。56~57は底部である。56の外面はタテ方向のヘラミガキ、外面はヨコ向のヘラケズリを施す。43~44・47~51・53~55は胎土に角閃石を含み、外面に赤色顔料が塗布されている。

58~77は甕である。58~60は口縁部を肥厚し、端部に数条の凹線文を施されている。58~59は、内面はヨコ方向のヘラケズリで調整する。61~65・67~69は口縁部を上方へ摘み上げ、ヨコナデにより端部を成形する。64の外面はタテ方向のハケが残る。69は口径24.4cmを測る。70~77は底部である。73の外面はタテ方向のヘラミガキ、内面はタテ方向のヘラケズリを施す。外面には煤が付着する。60~62・69は、外面に赤色顔料が塗布されている。

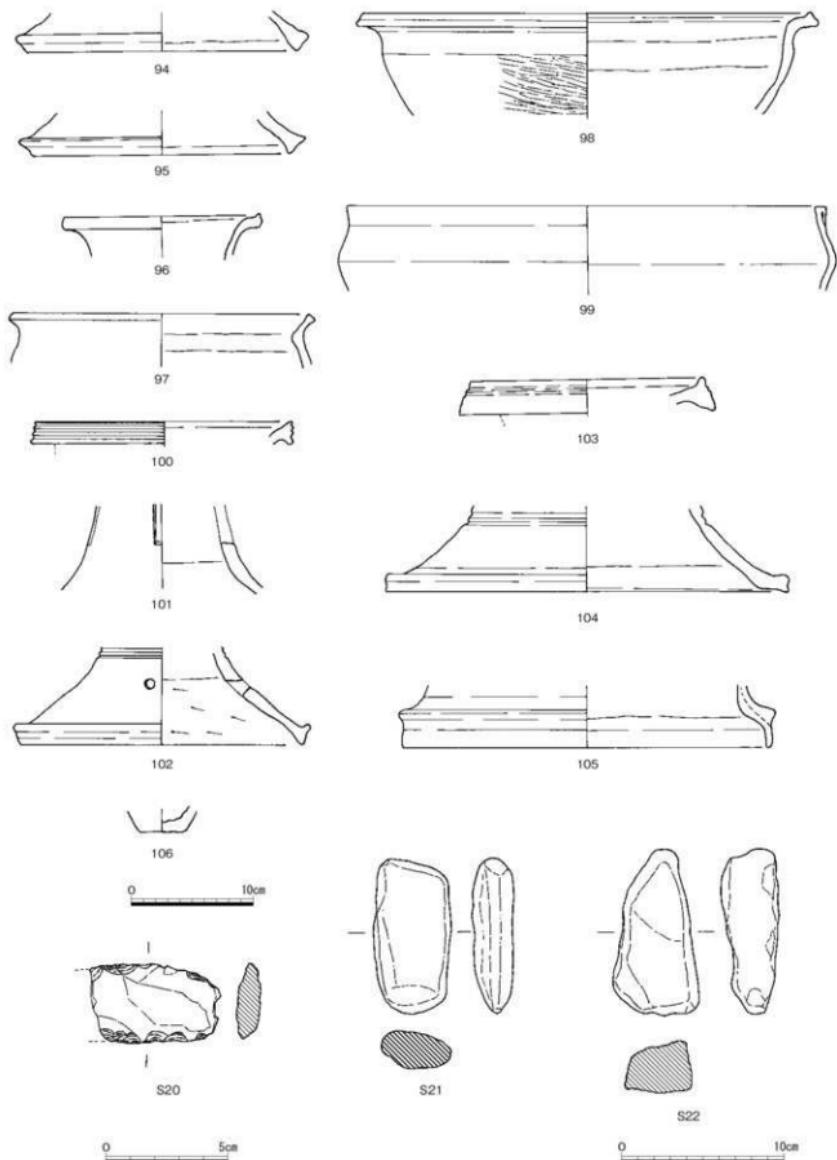
78~95は高杯である。78は口縁部が外方に開き、端部を肥厚させてヨコナデを施している。79~83は体部から立ち上げる口縁部の端部が少し内傾して拡張し、凹線文で施文する。口径は23cm~26.8cmを測る。84は6条の沈線で施文し、円形透かしは内面に抜ける。85は4条の櫛描き沈線で施文する。86は杯部と脚部との接合は別作りである。88は脚柱部の短い高杯で、精製した粘土を使用している。脚部には4方向に円形の透かしが穿孔されている。89は脚柱端部を肥厚させ、ヨコ方向のヘラガキ



第57図 遺構に伴わない遺物① (1/4)



第58図 遺構に伴わない遺物② (1/4)



第59図 遺構に伴わない遺物③ (1/4・1/2・1/3)

沈線と裾にタテ方向の沈線で施す。90～95は脚端部を肥厚し、凹線文と沈線を施す。93の内面調整はヘラケズリである。78～87・89～93は、外面に赤色顔料が塗布されている。

96～98は鉢の口縁部から胴部である。96は口径16cmを測り、胎土に角閃石を含む。97は口縁端部を内側に肥厚し、頸部が外方に屈曲する。98は口縁端部を上方に少し拡張し、ヨコナデにより成形する。外面は横方向のヘラミガキ、内面はヨコナデで調整する。口径は36.8cmを測る。99は口縁部を巻き込むことで肥厚させ、端部が平坦となる。口径は39.6cmを測る。98・99は、外面に赤色顔料が塗布されている。

100～105は器台である。100は口縁端部を肥厚させ、3条の凹線文を施す。101は筒部に長方形の透かしを配する。102は裾端部を内傾して肥厚させ、ヨコナデにより成形する。筒部には2条の沈線と円形透かしで施す。内面調整はヨコ方向のヘラケズリである。103は口縁端部をヨコナデで肥厚させて拡張する。104は裾部が大きく開き、ヨコナデにより裾端部を肥厚する。筒部には2条の沈線が認められる。103と104は同一個体の可能性がある。105は脚部で、底径30cmを測る。101・102は、外面に赤色顔料が塗布されている。

106はミニチュア土器の底部であり、残存高2.1cm、底径3.6cmを測る。内面は押圧痕を顕著に残している。

石製品はS20～S22である。S20はサヌカイト製の打製石包丁である。半分は欠損しているが、端部に明確な紐掛けの抉りは入る。長さ50mm、幅31mm、厚さ8mm、重さ19.5gを測る。S21は花崗岩製の磨製石斧である。長さ93mm、幅48mm、厚さ22mm、重さ154gを測る。S22は流紋岩質凝灰岩の石斧で、表面は粗雑である。長さ102mm、幅44mm、厚さ31mm、重さ170.5gを測る。

包含層出土のサヌカイト片は総重量103gを測る。

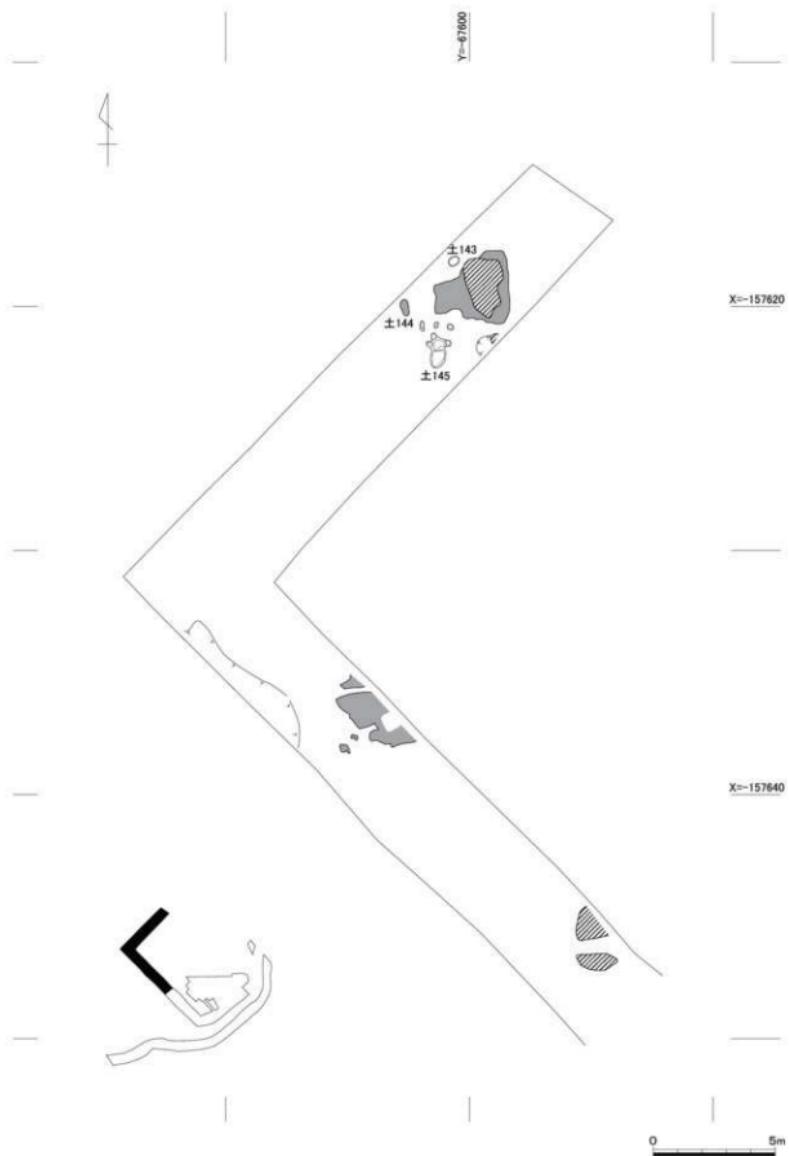


写真15 サヌカイト剝片

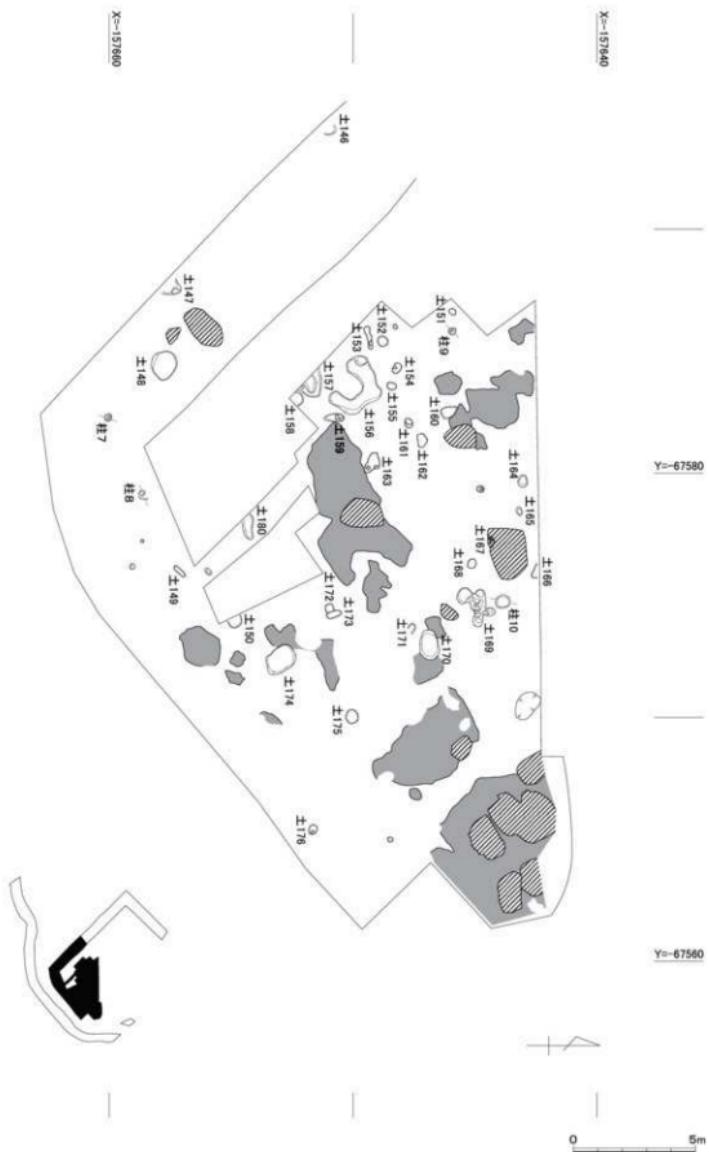
### 第3節 古墳時代以降の遺構と遺物

#### 1 概要

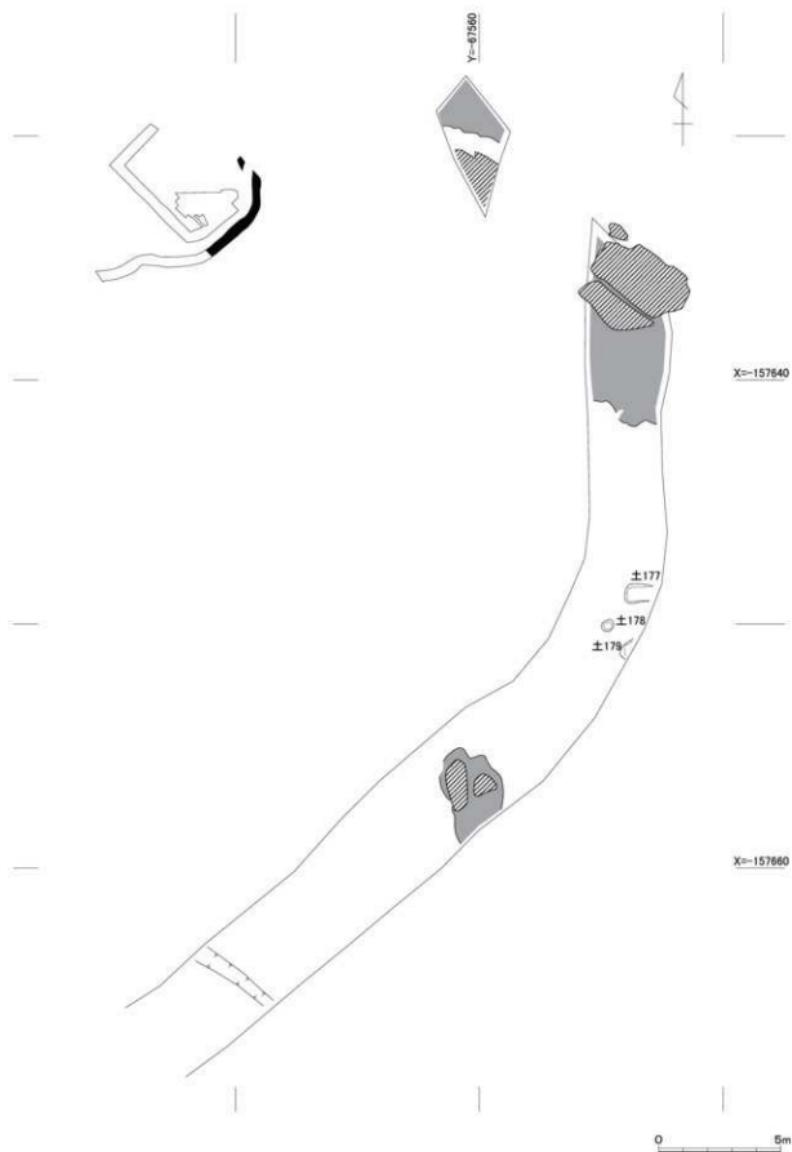
古墳時代以降になると遺構数は激減し、人々の居住を示す遺構はなくなっている。遺構や遺物は、主として丘陵頂部付近に集中する傾向がある。建物の人々の居住を直接的に示す遺構は確認していない。遺構としては、土坑37基、柱穴である。遺物では、2区西側調査区では、露岩の裾から平安時代末から鎌倉時代初頭の土師器の高台付皿、杯や小皿がまとめて出土した。



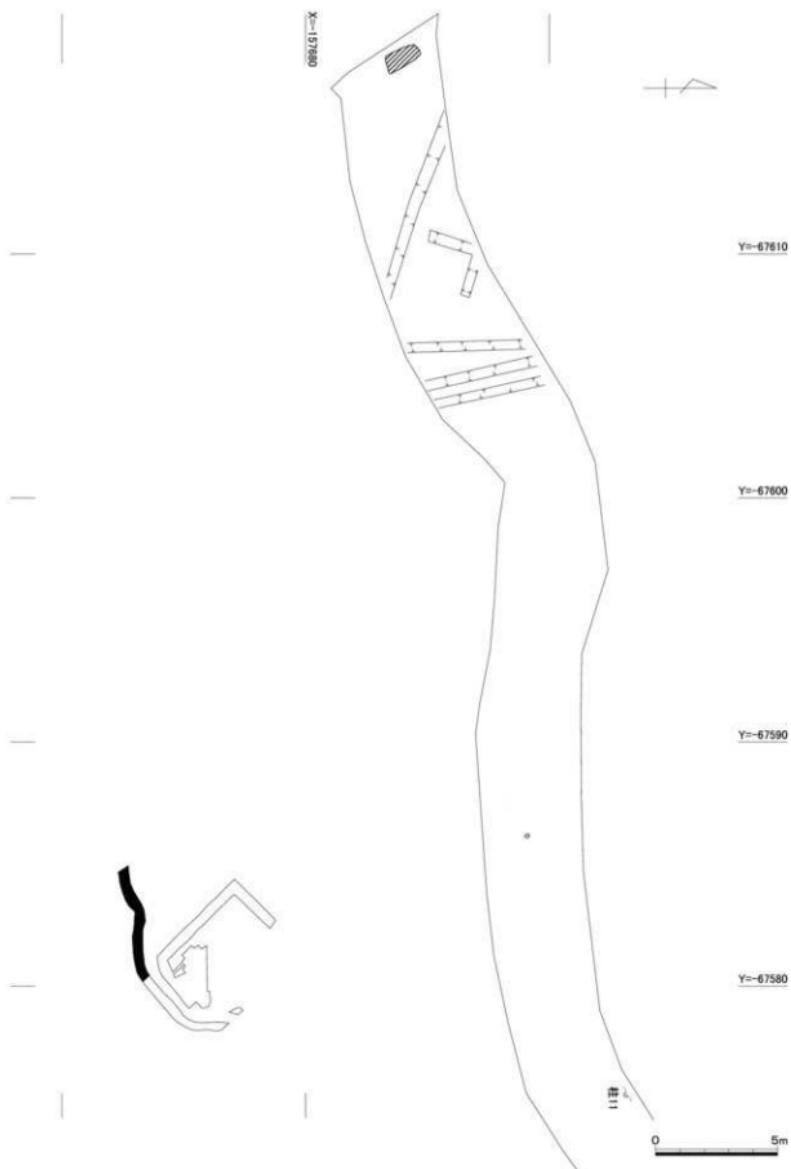
第60図 古墳時代以降の遺構全体図① (1/200)



第61図 古墳時代以降の遺構全体図② (1/200)



第62図 古墳時代以降の遺構全体図③ (1/200)



第63図 古墳時代以降の遺構全体図④ (1/200)

## 2 土坑

### 土坑143（第60・64図）

2区北側調査区の土坑144の北東3mに位置する。平面形は長軸47cm、短軸36cmの円形を呈し、検出面からの深さ5cmを測る。埋土は、単層で地山塊を含む。遺物は出土していない。

### 土坑144（第60・64図）

2区北側調査区の土坑145の北西側に位置する。平面形は長軸44cm、短軸17cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ8cmを測る。埋土は、単層で地山塊を含む。遺物は出土していない。

### 土坑145（第60・64図）

2区北側調査区の土坑143の南側3mに位置する。平面形は長軸144cm、短軸102cmの不定形を呈し、検出面からの深さ29cmを測る。底は二段に落ち込み、四方にテラス状の段をもつ。埋土は、単層で地山塊を含む。遺物は出土していない。

### 土坑146（第61・64図）

2区西側調査区の土坑147の北西側8mに位置する。土坑の西側一部は調査区外となるため、全容は不明である。平面形は長軸54cm、短軸24cm以上の楕円形を呈し、検出面からの深さ7cmを測る。埋土は、単層で地山塊を含む。遺物は出土していない。

### 土坑147（第61・64図）

2区西側調査区の土坑148の西側2mに位置する。土坑の南側一部は調査区外となるため、全容は不明である。平面形は長軸83cm、短軸51cm以上の不定形を呈し、検出面からの深さ17cmを測る。底は二段に落ち込み、北側にテラス状の段をもつ。埋土は、単層で地山塊を含む。遺物は出土していない。

### 土坑148（第61・64図、図版15）

2区西側調査区の土坑147の東側2mに位置する。土坑は、強固な岩盤を掘削している。平面形は長軸121cm、短軸105cmの円形を呈し、検出面からの深さ18cmを測る。埋土は単層で、地山塊と炭を含む。遺物は出土していない。

### 土坑149（第61・64図）

2区南側調査区の柱穴8の北東側3mに位置する。平面形は長軸62cm、短軸18cmの長楕円形を呈し、検出面からの深さ4cmを測る。遺物は出土していない。

### 土坑150（第61・64図）

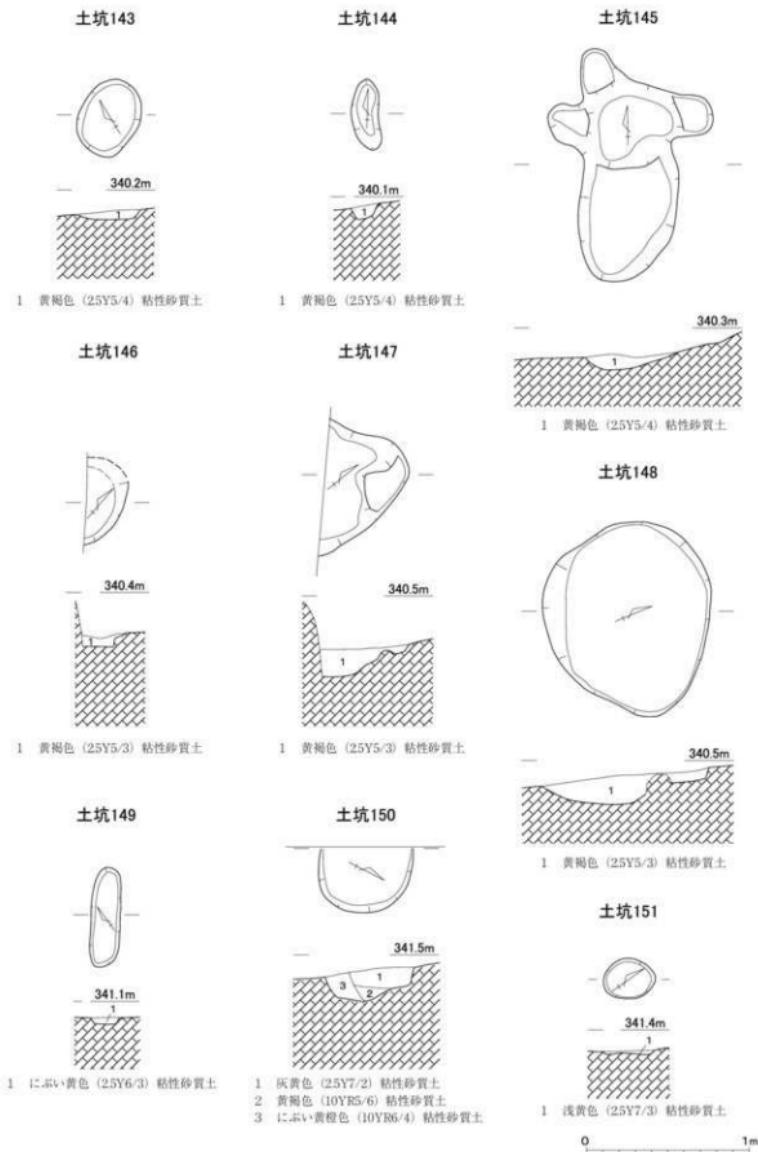
2区南側調査区の土坑149の北東側2.5mに位置する。土坑の西側一部は調査区外となるため、全容は不明である。平面形は長軸58cm、短軸39cm以上の楕円形を呈し、検出面からの深さ19cmを測る。埋土は、単層で地山塊を含む。遺物は出土していない。

### 土坑151（第61・64図）

2区丘陵西側斜面の土坑152の北西側3mに位置する。平面形は長軸32cm、短軸25cmの円形を呈し、検出面からの深さ3cmを測る。埋土は、単層で地山塊を含む。遺物は出土していない。

### 土坑152（第61・65図）

2区丘陵西側斜面の土坑151の南東側3mに位置する。平面形は長軸46cm、短軸41cmの円形を呈し、検出面からの深さ11cmを測る。埋土は単層で、地山塊と炭を含む。遺物は出土していない。



第64図 土坑143~151 (1/30)

**土坑153（第61・65図）**

2区丘陵西側斜面の土坑152の南側に位置する。平面形は長軸95cm、短軸25cmの長楕円形を呈し、検出面からの深さ11cmを測る。断面形は東側に2段のテラス状の段をもつ。埋土は、単層で地山塊を含む。遺物は出土していない。

**土坑154（第61・65図）**

2区丘陵西側斜面の土坑153の東側1mに位置する。平面形は長軸46cm、短軸32cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ21cmを測る。埋土は2層で地山塊が入り、第1層に炭を含む。遺物は出土していない。

**土坑155（第61・65図）**

2区丘陵西側斜面の土坑154の東側に位置する。平面形は長軸40cm、短軸32cmの円形を呈し、検出面からの深さ10cmを測る。埋土は、単層で地山塊を含む。遺物は出土していない。

**土坑156（第61・65図、図版15）**

2区丘陵西側斜面の土坑154の南側1mに位置する。平面形は長軸240cm、短軸44cmのコの字状の不定形を呈し、検出面からの深さ16cmを測る。断面形は橢形を呈し、底で岩盤を確認した。土坑の北西部は、直径23cmの円形を呈し、約10cm窪む。埋土は地山塊を顕著に含む。遺物は出土していない。

**土坑157（第61・66図）**

2区丘陵西側斜面の土坑156の南側に位置する。土坑の南側を土坑158に切られている。土坑の南西側一部は調査区外となるため、全容は不明である。平面形は長軸104cm以上、短軸80cm以上の不整円形を呈し、検出面からの深さ45cmを測る。断面形は橢形を呈し、底は平坦である。埋土は、4層で地山塊を含む。遺物は出土していない。

**土坑158（第61・66図）**

2区丘陵西側斜面の土坑157の南東側に接して位置する。土坑157の南側を切っている。土坑の南側一部は調査区外となるため、全容は不明である。平面形は長軸50cm以上、短軸46cm以上の楕円形を呈し、検出面からの深さ41cmを測る。断面形は逆台形を呈し、底は平坦である。埋土は単層で地山塊を含む。また、埋土中には流紋岩が含まれていた。遺物は出土していない。

**土坑159（第61・66図）**

2区丘陵西側斜面の土坑157の東側1mに位置する。平面形は長軸85cm、短軸33cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ18cmを測る。底は数段に落ち込み、ピット状にも見られる。埋土は単層で地山塊と多くの炭を含む。遺物は出土していない。

**土坑160（第61・66図）**

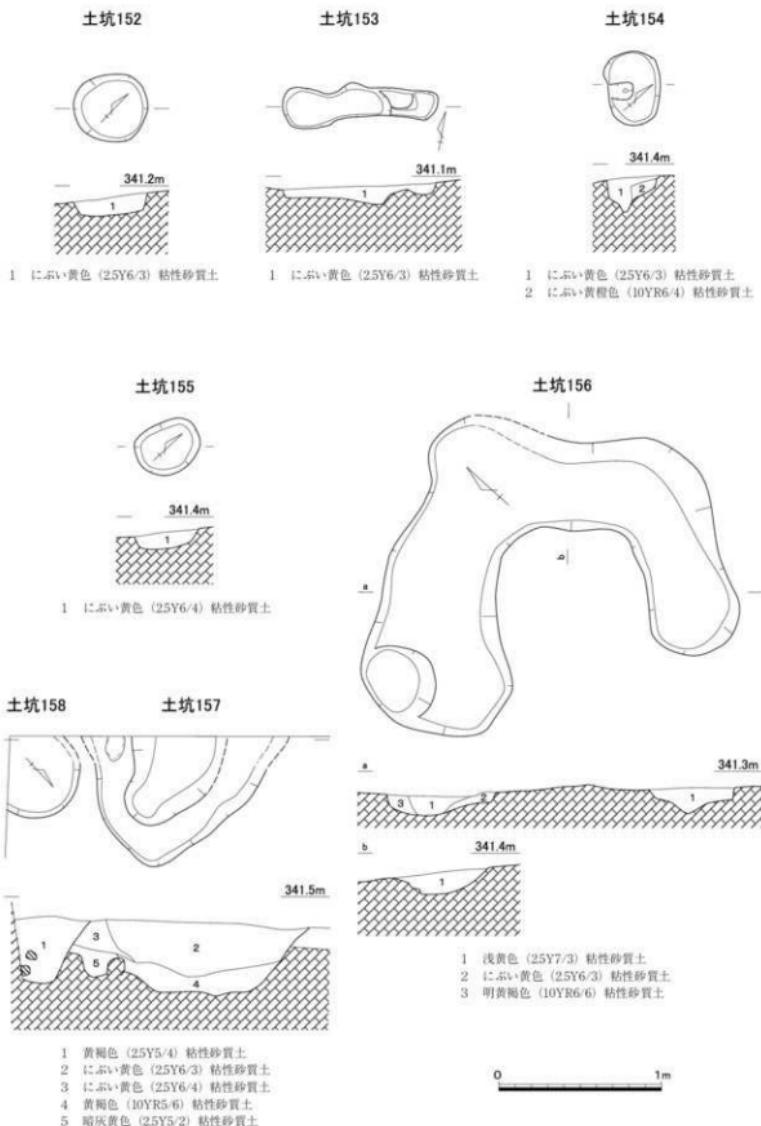
2区丘陵西側斜面の土坑154の北東側2mに位置する。平面形は長軸70cm、短軸48cmの不整円形を呈し、検出面からの深さ11cmを測る。埋土は単層で地山塊を顕著含む。遺物は出土していない。

**土坑161（第61・66図）**

2区丘陵西側斜面の土坑160の南側1mに位置する。平面形は長軸43cm、短軸34cmの円形を呈し、検出面からの深さ13cmを測る。底は2段に落ち込み、東部にテラス状の段をもつ。埋土は2層で、地山塊を顕著含む。遺物は出土していない。

**土坑162（第61・66図）**

2区丘陵西側斜面の土坑160の南東側1mに位置する。平面形は長軸57cm、短軸41cmの楕円形を呈し、



第65図 土坑152~158 (1/30)

検出面からの深さ5cmを測る。埋土は、単層で地山塊を顕著に含む。遺物は出土していない。

**土坑163（第61・66図）**

2区丘陵西側斜面の土坑の南東側1.5mに位置する。平面形は長軸91cm、短軸55cmの不整円形を呈し、検出面からの深さ10cmを測る。底は二段に落ち込み、ピット状にも見られる。埋土は単層で地山塊と炭を含む。遺物は出土していない。

**土坑164（第61・66図）**

2区丘陵頂部の土坑165の西側1mに位置する。平面形は長軸51cm、短軸40cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ7cmを測る。埋土は、単層で地山塊を顕著に含む。遺物は出土していない。

**土坑165（第61・66図）**

2区丘陵頂部の土坑164の東側1mに位置する。平面形は長軸37cm、短軸27cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ33cmを測る。埋土中には、流紋岩の礫が含まれていた。遺物は出土していない。

**土坑166（第61・66図）**

2区丘陵頂部の土坑168の北側2mに位置する。土坑の北側一部は調査区外となるため、全容は不明である。平面形は長軸60cm以上、短軸26cm以上の楕円形を呈し、検出面からの深さ22cmを測る。断面形は椀形を呈し、東側の壁面は垂直に立ち上げる。埋土は単層で地山塊を顕著に含む。遺物は出土していない。

**土坑167（第61・66図）**

2区丘陵頂部の土坑165の南東側1.5mに位置する。土坑は露岩の裾に掘られており、底は岩盤が認められた。平面形は長軸43cm、短軸30cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ9cmを測る。埋土は単層で、地山塊を顕著に含む。遺物は出土していない。

**土坑168（第61・67図）**

2区丘陵頂部の土坑169の西側1mに位置する。平面形は長軸42cm、短軸34cmの円形を呈し、検出面からの深さ4cmを測る。埋土は単層で地山塊を顕著に含む。遺物は出土していない。

**土坑169（第61・67図、図版16）**

2区丘陵頂部の土坑165の南東側1.5mに位置する。平面形は長軸172cm、短軸78cmの不定形を呈し、検出面からの最深部で54cmを測る。底は平面形と同様に凸凹が認められる。埋土は5層全体に地山塊、第1層と第6層には炭を含む。遺物は出土していない。

**土坑170（第61・67図）**

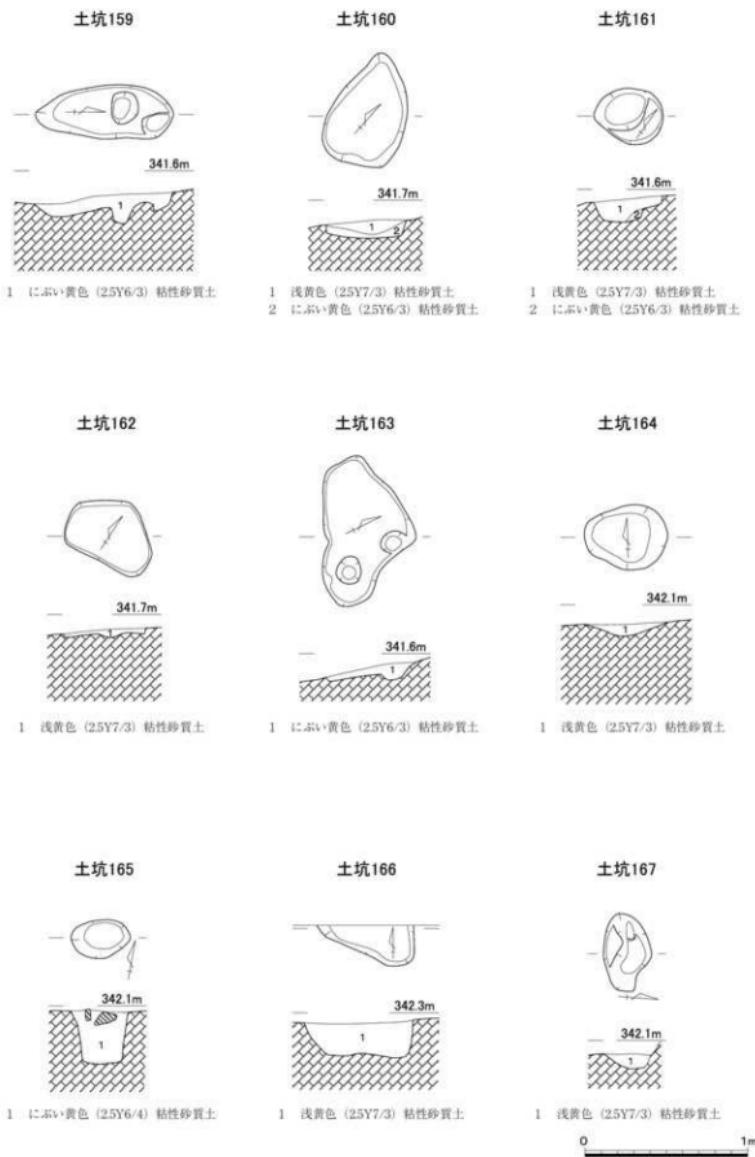
2区丘陵頂部の土坑169の南東側2mに位置する。土坑は、強固な岩盤上で検出した。土坑の東部は、平成17年度の試掘調査トレチで切られている。平面形は長軸111cm以上、短軸75cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ16cmを測る。埋土は、単層で地山塊と炭を含む。遺物は出土していない。

**土坑171（第61・67図）**

2区丘陵頂部の土坑170の南西側に位置し、土坑65の北側一部を切っている。遺構掘り下げの際に弥生時代後期の土坑65を先に調査したために、土坑の全容が把握できなかった。平面形は長軸32cm以上、短軸30cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ13cmを測る。埋土は、単層で地山塊を含む。遺物は出土していない。

**土坑172（第61・67図）**

2区丘陵頂部の土坑150の北側3.5mに位置する。土坑に東側を土坑173に切られている。平面形は



第66図 土坑159～167 (1/30)

長軸33cm以上、短軸35cmの方形を呈し、検出面からの深さ7cmを測る。埋土は、単層で地山塊を含む。遺物は出土していない。

**土坑173（第61・67図）**

2区丘陵頂部の土坑172の東側に接して位置する。土坑172の東側を切られている。平面形は長軸65cm、短軸28cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ6cmを測る。埋土は単層で、地山塊と炭を含む。遺物は出土していない。

**土坑174（第61・67図）**

2区丘陵頂部の土坑150の北東側2mに位置する。土坑の西部は、平成17年度の試掘調査トレンチで切られている。平面形は長軸133cm、短軸95cmの不整楕円形を呈し、検出面からの深さ20cmを測る。埋土は単層で、地山塊と炭を含む。遺物は出土していない。

**土坑175（第61・68図）**

2区丘陵頂部の土坑173の東側4mに位置する。平面形は長軸57cm、短軸51cmの円形を呈し、検出面からの深さ11cmを測る。埋土は、単層で地山塊を顕著に含む。遺物は出土していない。

**土坑176（第61・68図）**

2区丘陵頂部の土坑174の東側6mに位置する。底は二段に落ち込み、三方にテラス状の段をもつ。平面形は長軸42cm、短軸34cmの円形を呈し、検出面からの深さ10cmを測る。埋土は、単層で地山塊を含む。遺物は出土していない。

**土坑177（第62・68図、図版16）**

3区北側調査区の土坑178の北東側1mに位置する。土坑の東側一部は調査区外となるため、全容は不明である。平面形は長軸106cm以上、短軸79cmの隅丸方形を呈し、検出面からの深さ28cmを測る。底は平坦であり、壁体は直線的に立ち上がる。図示していないが、南北軸の断面形は逆台形を呈する。埋土は3層で、第1層に地山塊と炭を含む。遺物は出土していない。

**土坑178（第62・68図）**

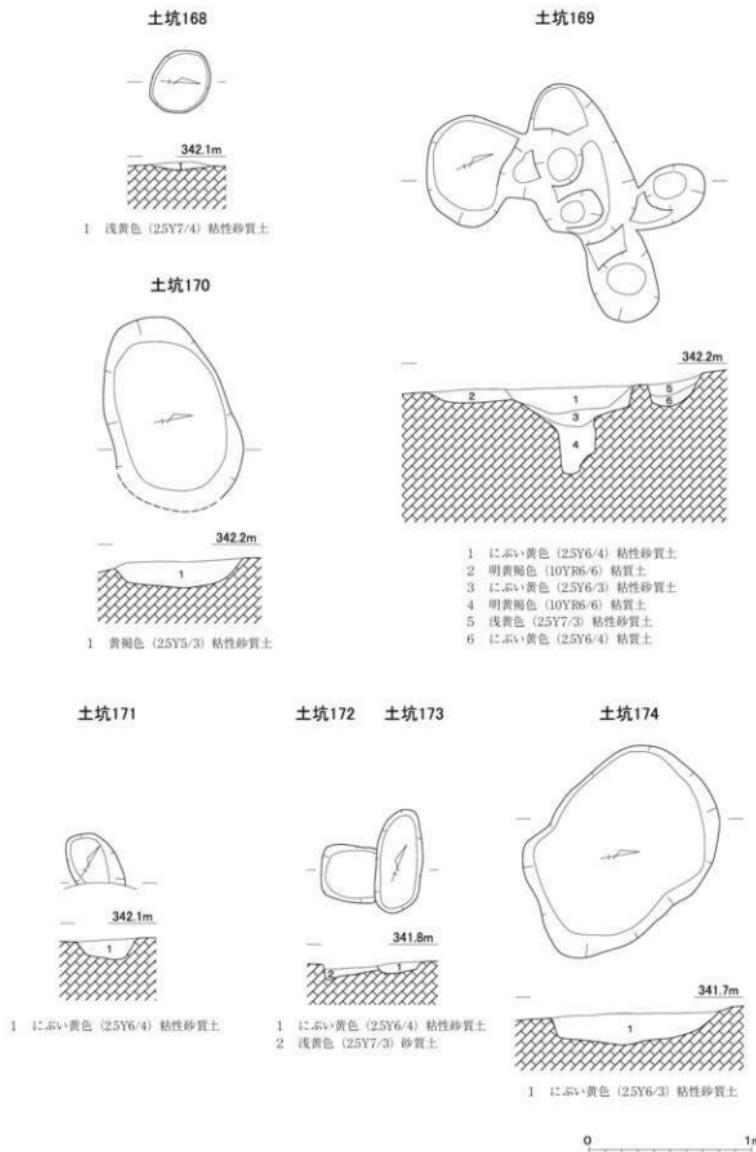
3区北側調査区の土坑177の南西側1mに位置する。平面形は長軸52cm、短軸44cmの円形を呈し、検出面からの深さ6cmを測る。底面はほぼ平坦で、壁体は緩やかに立ち上がる。埋土は、単層で地山塊を顕著に含む。遺物は出土していない。

**土坑179（第62・68図）**

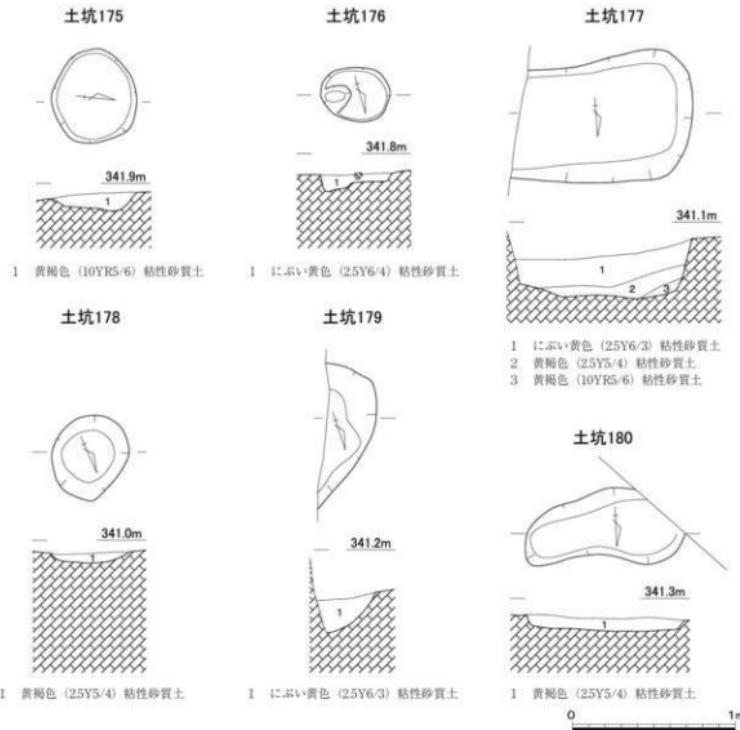
3区北側調査区の土坑177の南側1.5mに位置する。土坑の東側一部は調査区外となるため、全容は不明である。平面形は長軸89cm以上、短軸30cm以上の楕円形を呈し、検出面からの深さ21cmを測る。遺物は出土していない。

**土坑180（第61・68図）**

2区丘陵西側斜面の土坑149の北西側3mに位置する。土坑の西側一部は調査区外となるため、全容は不明である。平面形は長軸94cm以上、短軸42cmの不整楕円形を呈し、検出面からの深さ8cmを測る。底面はほぼ平坦で、壁体は緩やかに立ち上がる。遺物は出土していない。



第67図 土坑168~174 (1/30)



第68図 土坑175~180 (1/30)

### 3 柱穴

#### 柱穴7 (第61・69図)

2区西側調査区の土坑148の南東側2.5mに位置する。平面形は長軸30cm、短軸27cmの円形を呈し、検出面からの深さ40cmを測る。遺物は出土していない。

#### 柱穴8 (第61・69図)

2区西側調査区の土坑149の南西側3mに位置する。柱穴の北側一部は調査区外となるため、全容は不明である。平面形は長軸38cm以上、短軸35cmの楕円形を呈し、検出面からの深さ29cmを測る。埋土は3層で、第1層に流紋岩の礫を多く含む。遺物は出土していない。

#### 柱穴9 (第61・69図)

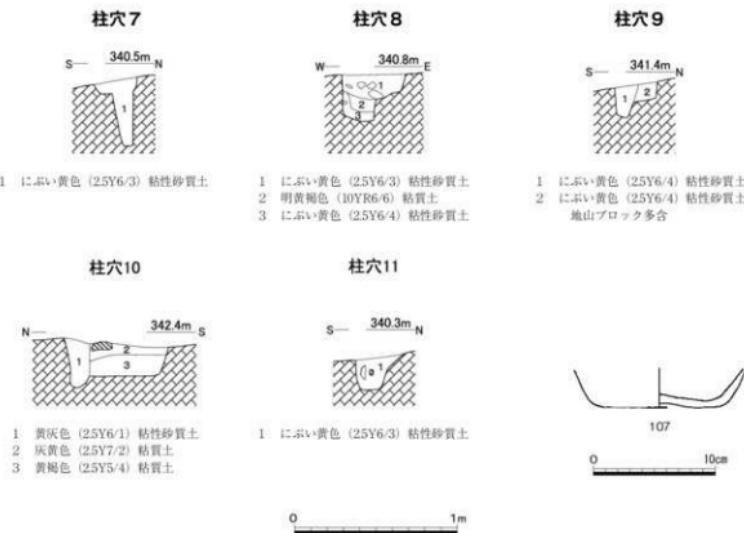
2区丘陵西側斜面の土坑151の東側に位置する。平面形は長軸30cm、短軸28cmの円形を呈し、検出面からの深さ20cmを測る。埋土は2層で、地山塊を顕著に含む。遺物は出土していない。

**柱穴10** (第61・69図)

2区丘陵頂部の土坑169の北側に位置する。平面形は長軸64cm、短軸50cmの円形を呈し、検出面からの深さ30cmを測る。埋土は3層で、第1層と第3層に地山塊を含む。遺物は出土していない。

**柱穴11** (第63・69図、図版16・20)

3区中央調査区に位置する。柱穴の北側一部は調査区外となるため、全容は不明である。平面形は長軸19cm以上、短軸12cm以上の円形を呈し、検出面からの深さ18cmを測る。埋土は単層で、にぶい黄色粘性砂質土である。埋土中から土器器の杯107が出土している。遺構の時期は、土器の特徴から古代末に埋まつた柱穴と推察される。



第69図 柱穴7~11 (1/30)・柱穴11出土遺物 (1/4)

**4 露岩周辺の遺物** (第61・70・71図、巻頭図版4-2、写真16、図版20-23)

この露岩は、2区西側調査区の土坑147北東1mに位置する。出土地点の地形は丘陵頂部から西側に向けて緩やかに傾斜しており、標高は341mである。遺構検出面の掘り下げの際に、露岩周辺から古代の土器が纏まって出土した。土器は、表土下層のにぶい黄色土の上層から出土している。出土地点が丘陵西側の緩斜面にあたることから、丘陵頂部で使用し廃棄された土器が流れ込んだとも考えられる。図示した出土遺物は、108~186の78点である。高台付皿108~118、杯119~130、小皿134~186である。108~118の色調はにぶい橙色を呈し、胎土は精良であり、焼成は良好である。108は全形が把握でき、口径12.6cm、器高3.4cm、径8.2cmの高台が付く。高台外面には、強いヨコナデに伴い

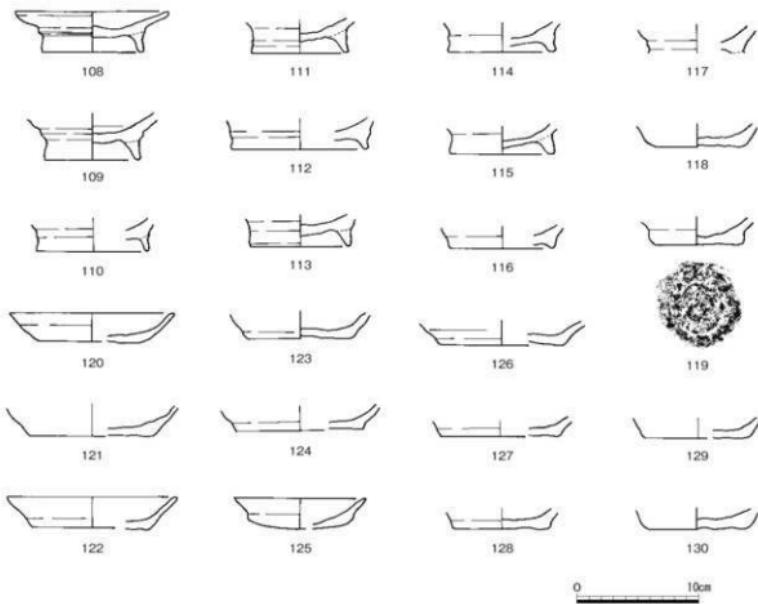
粘土縦状となり盛り上がる。109は底径7.8cm、器高3.2cmを測る。110~116は高台のみであり、底径は、7.8~11.2cmを測る。117と118は、高台を欠いている。

杯の色調と胎土については、浅黄橙色でやや粗いもの(120・121)、にぶい橙色で精良のもの(122~124)、にぶい橙色で精良のもの(119・125~130)を呈している。119は底部外面にヘラ切り痕を残している。120~122は底部から口縁部までが直線的である。120は、口径13.4cm、器高2.3cm、底径8.4cmを測る。125は口径10.4cmを測り、口縁部は底部から外反しながら立ち上がる。底部はヘラ切り後にヨコナデで仕上げている。121・123・124・126~130は底部である。底部外面はヘラ切り痕が認められ、底径は8~10.4cmを測る。

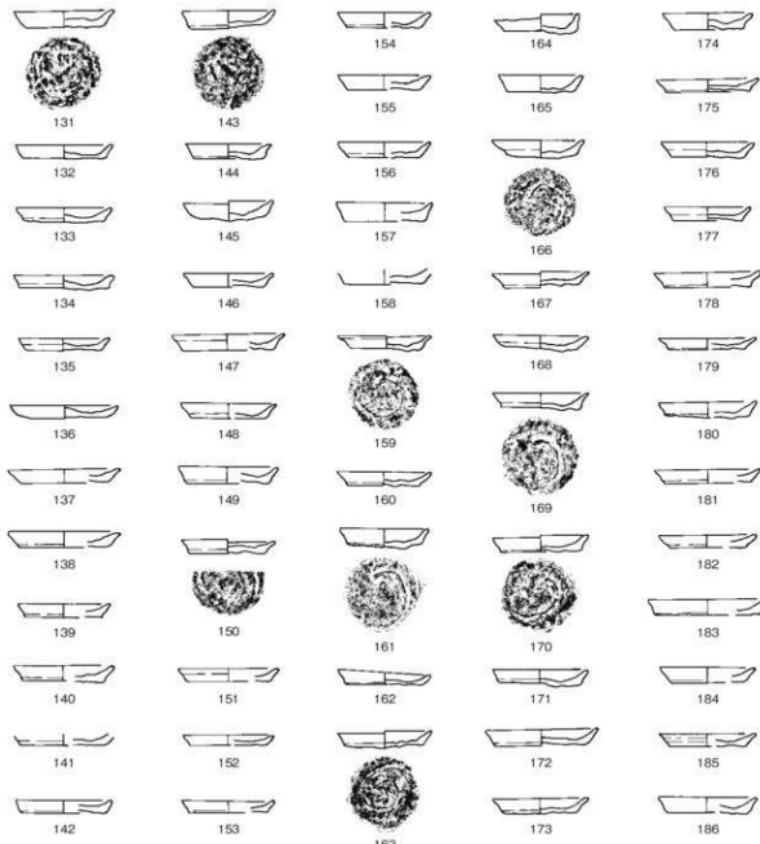
小皿は、完形のもの13点を含む56点を図示している。口径は6.8~9.6cm、器高は0.8~1.7cmの範囲内である。色調は、高台付皿や杯と同じ色調を呈するものも含まれる。小皿の色調と胎土については、にぶい黄橙色で粗いもの(131~142)、にぶい黄橙色で精良なもの(143~149・159~162・165)、にぶい橙色で精良なもの(150~158・172・184)、明黄褐色で精良なもの(163・164・166)



写真16 2区西側調査区の露岩（西から）

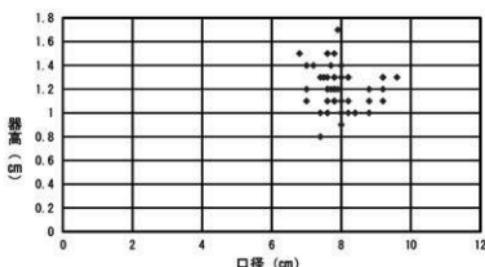


第70図 露岩周辺の出土遺物① (1/4)



第71図 露岩周辺の出土遺物② (1/4)

0 10cm

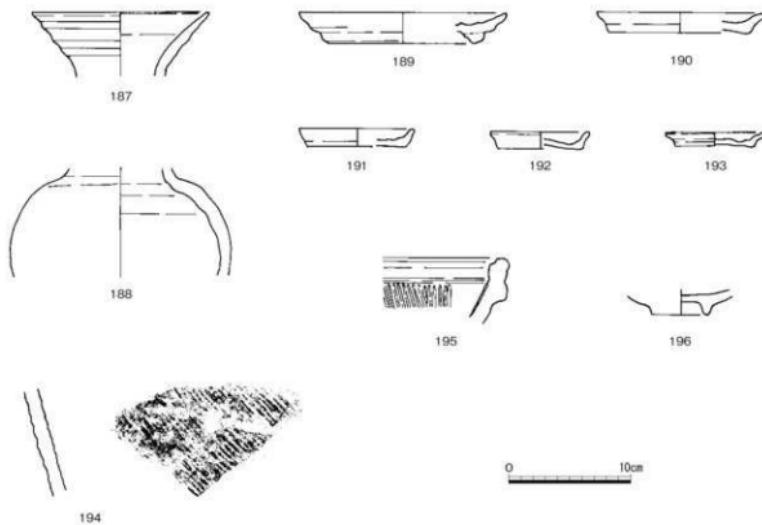


第2表 土師器小皿の法量分布図

～171、173～183、185・186）に分類できる。焼成は明黄褐色が良好で、にぶい橙色が不良である。159～165の焼成は、非常に良好で須恵質である。底部の外面調整はヘラ切りであり、押圧による窪みもみられる。糸切り痕はみられない。底部が糸切り個体はみられない。時期は、古代末頃に位置づけられる。

### 5 遺構に伴わない遺物（第72図、図版23）

包含層から出土した土器のうち図示可能な遺物や特徴的な要素がみられるものを掲載している。須恵器の187と188は2区丘陵頂部から出土している。187は口径14.4cmを測る長頸壺である。188は187と同一個体の可能性がある。土師器189～190は、2区の露岩周辺以外から出土したものである。190は高台付皿で、口径16.8cmを測る。色調はにぶい橙色を呈し、焼成が甘く器表面が粗い。190は杯で、口径13.6cmを測る。191～193は小皿で、口径8.2cm～9.4cmを測り、底部はヘラ切り痕が認められる。192は焼成が良く、須恵質である。194は亀山焼の壺ある。外面は左下がりの平行タタキ、内面はナデで調整し、當て具痕が認められる。195と196は近世以降の遺物である。195は備前焼の描鉢で口縁部に2条の凹線を巡らせる。196は陶器の高台付の椀で、底径4.6cmを測る。



第72図 遺構に伴わない遺物（1/4）

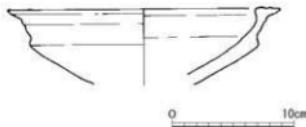
## 第4章 総括

### 第1節 弥生時代の集落構造

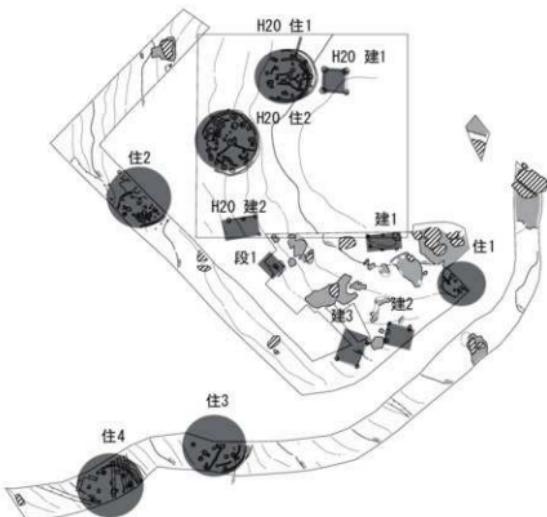
竹林寺天文台遺跡は、標高約340～370mの丘陵頂部に弥生時代後期前葉から後葉にかけて営まれた高地性集落である。竹林寺天文台遺跡と周辺山麓の水田との比高差は、浅口市鴨方町本庄側で約290m、小田郡矢掛町側で約300mを測る。平成20年度の調査成果と合わせ、竪穴住居6軒、掘立柱建物5棟、段状遺構1基、土坑163基、溝10条等が確認された。丘陵南側の調査区外にも遺構が広がると想定される。調査区西側の国立天文台が所在する丘陵では、平成15年度の確認調査で弥生時代中期後葉～後期にかけての竪穴住居2軒が検出されている。また、その西側の竹林寺山頂付近で弥生時代後期の高杯を表探しており、丘陵ごとに集落が点在すると推定できる。

今回の調査区では、弥生時代中期の遺構や遺物は確認されていないため、集落の形成は弥生時代後期になってからである。竪穴住居は、住1からは時期決定可能な遺物の出土に欠けるため不明であるが、後期前葉段階から5～6軒程度で構成されている。後期後葉段階になると、H20住1は建て替えにより規模が縮小するが、H20住2・住3・住4は建て替えにより規模が拡張され継続する。掘立柱建物では、H20建1は後期後葉になつてから建築され、建3は出土遺物から後期後葉まで存続する。他の掘立柱建物や段状遺構は、時期決定可能な遺物の出土に欠けるため不明である。

遺構の配置では、竪穴住居は丘陵頂部周辺と西側斜面地に広がりをみせる。掘立柱建物は、丘陵頂部の標高341～342m付近の等高線に沿って配置されている。未調査の丘陵西側斜面にも、同時期の遺構が存在している可能性は否定できない。大型の住居は同一地点において複数回の建て替えが行われ、同地点に配置す



第73図 表探の高杯（1/4）



第74図 弥生時代後期の遺構配置図

る規制的なものがあったとみられる。

遺物は、弥生土器、石器・石製品、鉄器や土製品が出土している。弥生土器は胎土に角閃石を多く含有し、赤色顔料を塗布するものが多くを占める。器種組成は、壺・甕・高杯・鉢・器台である。時期は、弥生時代後期の範疇で収まるが、後期末葉も散見できる。石製品については、次節で述べる。鉄器は、堅穴住居3から鉢1点、平成20年度の調査でも堅穴住居2から鉢2点が出土しており3点確認できる。土製品は、堅穴住居3から勾玉1点、平成20年度の調査でも堅穴住居2から勾玉1点が出土しており2点確認できる。竹林寺天文台遺跡当調査区の集落経営期間は、弥生時代後期全般であると考えられる。

## 第2節 弥生時代の石製品について

今回の竹林寺天文台遺跡の発掘調査では、遺構及包含層から22点の石製品が出土した。器種別では、打製石包丁1点（サヌカイト）、石斧4点（流紋岩質凝灰岩4点・花崗岩1点）、石錐1点（サヌカイト）、スクレイバー1点（サヌカイト）、石撲1点（サヌカイト）、石錘1点（流紋岩）、砥石7点（流紋岩2点・泥岩2点・流紋岩質凝灰岩2点・砂岩1点）、台石4点（流紋岩質凝灰岩4点）、器種不明1点（泥岩）である。また、サヌカイト製石器の総重量は29.5g、サヌカイト剥片が遺構出土で16.5g、包含層出土で103gあり、今回の調査区では総重量149gを測る。サヌカイト剥片は出土しているが、石核や残核は出土していない。

今回と過去の調査出土の石製品について、使用石材を器種別にまとめたものが第3表である。重量比別は、平成17年度の試掘調査と平成20年度の出土石製品も合計したもの総数は75点である。流紋岩が多く3722.5g（41.98%）、次いで流紋岩質凝灰岩1811g（20.42%）、泥岩1138.5g（12.84%）、砂岩738g（8.32%）、花崗岩710g（8%）、サヌカイト574.51g（6.48%）、安山岩119.5g（1.35%）、粘板岩54g（0.61%）である。この重量比別では、安山岩製の台石3点（総重量31.800g）と流紋岩質凝灰岩製の台石4点（総重量56.500g）は除いた数字である。

当調査区で石器の主要石材である流紋岩質凝灰岩は、石斧・砥石・台石に利用されている。次ぐ、

第3表 竹林寺天文台遺跡出土石製品一覧表

| 石材<br>器種 | サヌカイト | 流紋岩 | 粘板岩 | 泥岩 | 安山岩 | 流紋岩質<br>凝灰岩 | 砂岩 | 花崗岩 | 合計 |
|----------|-------|-----|-----|----|-----|-------------|----|-----|----|
| 石包丁      | 2     |     | 1   |    |     |             |    |     | 3  |
| 石斧       |       | 2   |     | 1  | 1   | 4           |    | 1   | 9  |
| 石錐       | 4     |     |     |    |     |             |    |     | 4  |
| 撲        | 1     |     |     |    |     |             |    |     | 1  |
| スクレイバー   | 3     |     |     |    |     |             |    |     | 3  |
| 石錘       | 6     |     |     |    |     |             |    |     | 6  |
| 投弾       |       | 20  |     |    |     |             |    |     | 20 |
| 石錘       |       | 3   |     |    |     |             |    |     | 3  |
| 礫石       | 1     |     |     |    |     |             | 1  | 1   | 3  |
| 砥石       | 4     |     |     | 5  |     | 3           | 2  |     | 14 |
| 台石       |       | 3   |     |    |     | 4           |    |     | 7  |
| 不明       |       |     | 1   | 1  |     |             |    |     | 2  |
| 合計       | 16    | 33  | 2   | 7  | 1   | 11          | 3  | 2   | 75 |

流紋岩は、石斧・投弾・石錘・敲石・砥石・台石と多器種にわたる点は特徴といえよう。流紋岩質凝灰岩や流紋岩は、竹林寺天文台遺跡周辺では普遍的にみられる石材であるため、当遺跡での利用頻度は高くなる傾向にあると考えられる。

### 第3節 古墳時代以降の調査成果について

古墳時代以降では、平成20年度の調査成果と合わせ、土坑墓1基、土坑49基、溝4条、柱穴等が確認されているが、時期決定可能な遺物の出土に欠けるため不明である。

古墳時代では、西側丘陵から竹林寺山頂にかけて箱式石棺や横穴式石室を有する市平古墳群の造墓活動が認められる。平成20年度の調査区で出土した須恵器の杯蓋や杯身は、市平古墳群の時期に該当するとみられる。

古代では、平成20年度で小皿類は確認していたが、今回の調査で柱穴11から杯や2区西側調査区の露岩周辺で土師器がまとまって出土している。土師器の器種は、高台付皿、杯や小皿の供膳具のみであり、時期は平安時代末頃とみられる<sup>(1)</sup>。当調査区から東1.2km地点の標高約400mの遙照山山頂には、薬師堂がある。当地点からは蓮華文軒平瓦や平瓦が表採され、奈良時代の寺院の存在が指摘されている。室町時代では、遙照山から密教法具や経筒が出土している。竹林寺山頂の南斜面には、江戸時代までの坊跡が確認できる。阿部山では、土製相輪が採集されている<sup>(2)</sup>。以上のように、遙照山山系は、古代から山岳仏教が信仰されている地域である。今回出土した土師器は、日常的な使用ではない可能性を含めて考えておきたい。

中世以降では、数点の亀山焼や備前焼等が出土しているだけであり、集落を形成するものではない。

#### 註

(1) 草原孝典『吉野口遺跡』岡山市教育委員会1997

武田恭彰『奥坂遺跡群』総社市埋蔵文化財発掘調査報告15 総社市教育委員会1999

鍵谷守秀『朝原寺跡2』倉敷市埋蔵文化財発掘調査報告第15集 倉敷市教育委員会2013

(2) 間壁忠彦『古代の寺院（地方の氏寺）』『鶴方町史 本編』鶴方町1990

## 付載 1 竹林寺天文台遺跡堅穴住居 3 出土炭化材の樹種同定

株式会社イビソク、パレオ・ラボ

### 1.はじめに

遙照山山系の丘陵尾根の頂部、東側丘陵に立地する竹林寺天文台遺跡から出土した炭化材の樹種同定を行った。なお、同一試料を用いて放射性炭素年代測定も行われている（放射性炭素年代測定の項参照）。

### 2. 試料

試料は、3区の堅穴住居3から出土した炭化材2点である。発掘調査所見では堅穴住居3は弥生時代後期の遺構と考えられており、放射性炭素年代測定では炭化材は2点とも弥生時代後期に相当する暦年代を示した。

### 3. 方法

樹種同定では、まず試料を乾燥させ、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柾目）について、カミソリと手で削断面を作製し、整形して試料台にカーボンテープで固定した。その後オシスバッタにて金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡（日本電子（株）製 JSM-5900LV）にて検鏡および写真撮影を行った。

### 4. 結果

同定の結果、炭化材2点はいずれも広葉樹のサカキであった。同定結果を表1に示す。

次に、同定された材の特徴を記載し、図版に走査型電子顕微鏡写真を示す。

(1) サカキ *Cleyera japonica* Thunb. ツバキ科 図版1 1 a-1 c (炭化材①)、2 a-2 c (炭化材②)  
小型の道管が、ほぼ単独で、やや密に散在する散孔材である。道管の穿孔は20~40段程度の階段穿孔となる。放射組織は上下端1~4列が直立する異性で、單列となる。

サカキは日本海側で新潟県、太平洋側で関東以西の本州、四国、九州などの温帯から亜熱帯に分布する常緑高木である。材は強韌、堅硬で、切削加工は困難である。

表1 竹林寺天文台遺跡出土炭化材の樹種同定結果

| 試料No | 地区 | 遺構名   | 種類  | 樹種  | 木取り | 年代測定番号    |
|------|----|-------|-----|-----|-----|-----------|
| 炭化材① | 3区 | 堅穴住居3 | 炭化材 | サカキ | 割れ  | PLD-31404 |
| 炭化材② | 3区 | 堅穴住居3 | 炭化材 | サカキ | 割れ  | PLD-31405 |

## 5. 考察

堅穴住居3から出土した炭化材2点は、いずれもサカキであった。これらの試料は、肉眼による観察では小径の枝状であったと考えられる。焼けた建築材であった可能性が考えられるが、詳細は不明である。また、サカキは強靭で堅硬な樹種であり（伊東ほか2011）、岡山県域では弥生時代後期において、棒や匙、斧柄などの木製品に利用されているため（伊東・山田編2012）、今回の試料は焼けた木製品であった可能性もある。

### 引用文献

伊東隆夫・佐野雄三・安部久・内海泰弘・山口和穂『日本雄用樹木誌』海青社 238P 2011

伊東隆夫・山田昌久編『木の考古学・出土木製品用材データベース』海青社 449P 2012

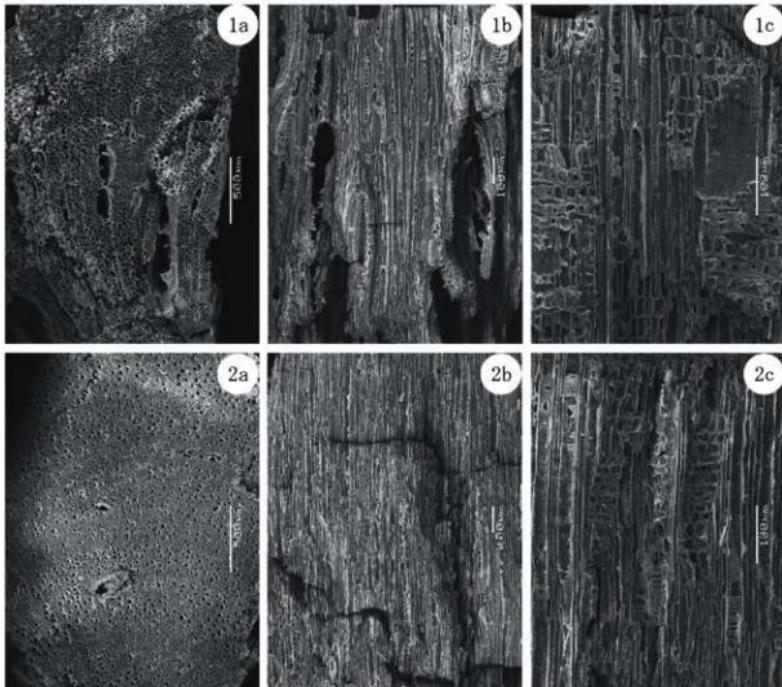


写真1 竹林寺天文台遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1 a - 1 c. サカキ (炭化材①)、2 a - 2 c. サカキ (炭化材②)

a : 横断面、b : 接線断面、c : 放射断面

## 付載2 竹林寺天文台遺跡堅穴住居3出土炭化材の放射性炭素年代測定

株式会社イビソク、パレオ・ラボ

### 1. はじめに

岡山県浅口市及び小田郡矢掛町の竹林寺天文台遺跡から出土した試料について、加速器質量分析法(AMS法)による放射性炭素年代測定を行った。なお、同一試料について樹種同定も行われている(樹種同定の項参照)。

### 2. 試料と方法

試料は、3区の堅穴住居3から出土した炭化材2点(炭化材①:PLD-31404、炭化材②:PLD-31405)である。樹種同定の結果、試料はいずれもサカキで、共に最終形成年輪は残っていなかった。発掘調査所見では、堅穴住居3は弥生時代後期と考えられている。測定試料の情報、調製データは表1のとおりである。

試料は調製後、加速器質量分析計(パレオ・ラボ、コンパクトAMS:NEC製1.5SDH)を用いて測定した。得られた<sup>14</sup>C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、<sup>14</sup>C年代、曆年代を算出した。

表1 竹林寺天文台遺跡出土炭化材の測定試料および処理

| 測定番号      | 遺跡データ                           | 試料データ                               | 前処理   |
|-----------|---------------------------------|-------------------------------------|---|
| PLD-31404 | 調査区:3区<br>遺構:堅穴住居3<br>試料No:炭化材① | 種類:炭化材(サカキ)<br>試料の性状:部位不明<br>状態:dry | 超音波洗浄<br>酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N)<br>水酸化ナトリウム:10N、塩酸1.2N |
| PLD-31404 | 調査区:3区<br>遺構:堅穴住居3<br>試料No:炭化材② | 種類:炭化材(サカキ)<br>試料の性状:部位不明<br>状態:dry | 超音波洗浄<br>酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N)<br>水酸化ナトリウム:10N、塩酸1.2N |

### 3. 結果

表2に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比( $\delta^{13}\text{C}$ )、同位体分別効果の補正を行って曆年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した<sup>14</sup>C年代を、図1に曆年較正結果をそれぞれ示す。曆年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後曆年較正曲線が更新された際に、この年代値を用いて曆年較正を行うために記載した。

<sup>14</sup>C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。<sup>14</sup>C年代(yrBP)の算出には、<sup>14</sup>Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した<sup>14</sup>C年代誤差( $\pm 1\sigma$ )は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の<sup>14</sup>C年代がその<sup>14</sup>C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示す。

なお、曆年較正の詳細は次のとおりである。曆年較正とは、大気中の<sup>14</sup>C濃度が一定で半減期が5568年として算出された<sup>14</sup>C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の<sup>14</sup>C濃度

の変動、および半減期の違い ( $^{14}\text{C}$  の半減期  $5730 \pm 40$  年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

$^{14}\text{C}$  年代の曆年較正には OxCal4.2 (較正曲線データ: IntCal13) を使用した。なお、 $1\sigma$  曆年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された  $^{14}\text{C}$  年代誤差に相当する 68.2% 信頼限界の曆年代範囲であり、同様に  $2\sigma$  曆年代範囲は 95.4% 信頼限界の曆年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に曆年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は  $^{14}\text{C}$  年代の確率分布を示し、二重曲線は曆年較正曲線を示す。

表2 竹林寺天文台遺跡の放射性炭素年代測定および歴年代較正の結果

| 測定番号                      | $\delta^{14}\text{C}$<br>(‰) | 歴年代正用年代<br>(yrBP $\pm 1\sigma$ ) | $^{14}\text{C}$ 年代<br>(yrBP $\pm 1\sigma$ ) | $^{14}\text{C}$ 年代を歴年代に較正した年代範囲               |  |
|---------------------------|------------------------------|----------------------------------|---|---|--|
|                           |                              |                                  |   | $1\sigma$ 歴年代範囲                               | $2\sigma$ 歴年代範囲                                |
| PLD-31404<br>遺物Na<br>炭化材① | -30.14 $\pm$ 0.19            | 1909 $\pm$ 20                    | 1910 $\pm$ 20                               | 72-92 cal AD (30.3%)<br>98-124 cal AD (37.9%) | 55-131 cal AD (95.4%)                          |
| PLD-31405<br>遺物Na<br>炭化材② | -27.60 $\pm$ 0.15            | 1881 $\pm$ 19                    | 1880 $\pm$ 20                               | 84-132 cal AD (68.2%)                         | 71-178 cal AD (88.9%)<br>189-213 cal AD (6.5%) |

#### 4. 考察

以下、 $2\sigma$  曆年代範囲（確率95.4%）に着目して結果を整理する。また弥生時代の曆年代については、小林（2009）を参照した。

堅穴住居3の炭化材①（PLD-31404）は55-131 cal AD (95.4%) で、1世紀中頃～2世紀前半の歴年代を示した。また堅穴住居3の炭化材②（PLD-31405）は71-178 cal AD (88.9%) および189-213 cal AD (6.5%) で、1世紀後半～3世紀前半の歴年代を示した。いずれも弥生時代後期に相当する。

発掘調査の所見では、堅穴住居3は弥生時代後期頃と考えられており、測定結果は遺構の推定時期に対して整合的である。

ただし、今回の試料はいずれも最終形成年輪が残っていない。木材の場合、最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると、最終形成年輪から内側であるほど古い年代が得られる（古木効果）。今回の試料はいずれも古木効果の影響を受けていると考えられ、木材が実際に枯死もしくは伐採された年代は、測定結果よりも新しい年代であると考えられる。

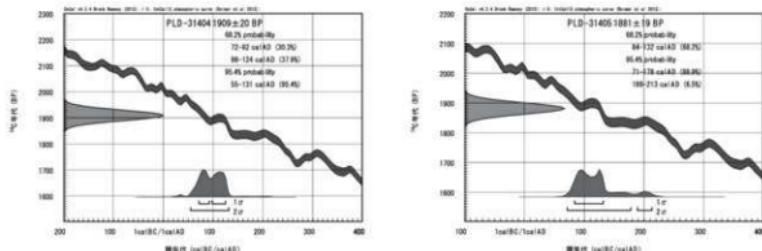


図1 曆年較正結果

### 引用・参考文献

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), 337-360.
- 小林謙一「近畿地方以東の地域への拡散」『新弥生時代のはじまり第4巻 弥生農耕のはじまりとその年代』雄山閣 55-82p 2009
- 中村俊夫「放射性炭素年代測定法の基礎」『日本先史時代の<sup>14</sup>C年代』日本第四紀学会 3-20P 2000
- Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J. (2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50.000 Years cal BP. *Radiocarbon*, 55(4), 1869-1887.

## 遺構一覧表・遺物觀察表

### 凡例

#### 遺構一覧表

- ・「平面形」は検出面での形状を示した。「( )」は、推定される形状を示した。
- ・「断面形」は壁面の形状を示した。
- ・「規模」の「-」は計測不能を示した。
- ・「時期」の「( )」は推定される時期を示した。

#### 遺物觀察表

##### 土器

- ・「色調（外面）」は『新版標準土色帖（2002年度）』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人色彩研究所色票監修）を使用した。
- ・「状態」は、主要計測部位である口縁部を「口」、胴部を「胴」、底部を「底」、脚部を「脚」などと表し、残存状況を分数あるいは小破片は「片」と示した。また、復元も含めて全体の残存状況が高いものは、「完形」「ほぼ完形」と表した。

##### 金属器

- ・「計測値」、「重量」の数値は、現状の最大値を示した。

##### 土製品

- ・「計測値」、「重量」の数値は、現状の最大値を示した。「色調（外面）」の識別基準は土器觀察表に準じる。「時期」の「( )」は推定される時期を示した。

##### 石器・石製品

- ・「計測値」、「重量」の数値は、現状の最大値を示した。「時期」の「( )」は推定される時期を示した。

## 遺構一覧表

### 堅穴住居

| 遺構名    | 地区名 | 平面形 | 長軸(cm) | 短軸(cm) | 床面積(mf) | 柱穴<br>本数 | 平面形 | 中央穴(cm)<br>直径×高さ | 深さ   | 壁体溝 | 時期  |
|--------|-----|-----|--------|--------|---------|----------|-----|------------------|------|-----|-----|
| 堅穴住居1  | 2区  | 円   | (460)  | —      | (16.6)  | (6)      | —   | —                | —    | 無   | 弥・後 |
| 堅穴住居2  | 2区  | 円   | (940)  | —      | (55.39) | (6)      | 隅丸方 | 80               | (70) | 有   | 弥・後 |
| 堅穴住居3a | 3区  | 円   | (540)  | —      | (22.89) | (4)      | 隅丸方 | 110              | 40   | 有   | 弥・後 |
| 堅穴住居3b | 3区  | 円   | (760)  | —      | (37.37) | (5)      | 隅丸方 | 110              | 40   | 有   | 弥・後 |
| 堅穴住居4a | 3区  | 円   | (560)  | —      | —       | (1)      | —   | —                | —    | 無   | 弥・後 |
| 堅穴住居4b | 3区  | 円   | (760)  | —      | —       | (4)      | 不整形 | 96               | 67   | 有   | 弥・後 |
| 堅穴住居4c | 3区  | 円   | (760)  | —      | —       | (5)      | 不整形 | 96               | 67   | 有   | 弥・後 |

### 掘立柱建物

| 遺構名    | 地区名 | 規模   | 柱間距離(cm) |     | 柱行(cm)  | 梁間(cm) | 面積(mf) | 棟方向     | 柱穴   |        | 時期  |
|--------|-----|------|----------|-----|---------|--------|--------|---------|------|--------|-----|
|        |     |      | 幅        | 梁   |         |        |        |         | 平面形  | 深さ(cm) |     |
| 掘立柱建物1 | 2区  | 2×1  | 142      | 340 | 142~185 | 340    | 5.64   | N-84°-W | 円    | 2~17   | 弥・後 |
| 掘立柱建物2 | 2区  | 2~×1 | 225      | 260 | 225     | 260    | 5.72   | N-79°-W | 円・椭円 | 9~38   | 弥・後 |
| 掘立柱建物3 | 2区  | 2~×1 | 260      | 338 | 260     | 338    | 8.79   | —       | 円・椭円 | 39~51  | 弥・後 |

### 段状造構

| 遺構名   | 地区名 | 貴軸(cm) | 短軸(cm) | 柱穴 | 焼土面 | 壁体溝 | 屋内溝 | 時期  | 備考 |
|-------|-----|--------|--------|----|-----|-----|-----|-----|----|
| 段状造構1 | 2区  | (150)  | (125)  | —  | —   | ○   | —   | 弥・後 |    |

### 土坑

| 遺構名  | 地区名 | 平面形  | 断面形 | 長軸(cm) | 短軸(cm) | 深さ(cm) | 時期  | 備考 |
|------|-----|------|-----|--------|--------|--------|-----|----|
| 土坑1  | 2区  | 円    | 圓   | 47     | 22     | 3      | 弥・後 |    |
| 土坑2  | 2区  | 円    | 楕   | 67     | 55     | 11     | 弥・後 |    |
| 土坑3  | 2区  | 円    | 楕   | 32     | 32     | 10     | 弥・後 |    |
| 土坑4  | 2区  | 椭円   | 楕   | 154    | 88     | 16     | 弥・後 |    |
| 土坑5  | 2区  | 不整椭円 | 楕   | 237    | 84     | 18     | 弥・後 |    |
| 土坑6  | 2区  | 椭円   | 楕   | 61     | 24     | 6      | 弥・後 |    |
| 土坑7  | 2区  | 不整方形 | 楕   | 95     | 61     | 12     | 弥・後 |    |
| 土坑8  | 2区  | 円    | 楕   | (44)   | 47     | 12     | 弥・後 |    |
| 土坑9  | 2区  | 椭円   | 連台  | (47)   | 32     | 14     | 弥・後 |    |
| 土坑10 | 2区  | 円    | 楕   | 76     | 31     | 11     | 弥・後 |    |
| 土坑11 | 2区  | 椭円   | 圓   | 56     | 27     | 5      | 弥・後 |    |
| 土坑12 | 2区  | 椭円   | 楕   | 111    | (24)   | 11     | 弥・後 |    |
| 土坑13 | 2区  | 隅丸方形 | 楕   | 72     | (41)   | 9      | 弥・後 |    |
| 土坑14 | 2区  | 不定   | 楕   | (91)   | (55)   | 11     | 弥・後 |    |
| 土坑15 | 2区  | 不定   | 圓   | 142    | 66     | 8      | 弥・後 |    |
| 土坑16 | 2区  | 不定   | 楕   | 125    | 62     | 11     | 弥・後 |    |
| 土坑17 | 2区  | 椭円   | 箱   | 70     | 21     | 14     | 弥・後 |    |
| 土坑18 | 2区  | 椭円   | 圓   | 37     | 25     | 6      | 弥・後 |    |
| 土坑19 | 2区  | 不整円  | 楕   | 54     | 34     | 9      | 弥・後 |    |
| 土坑20 | 2区  | 円    | 圓   | 23     | 20     | 4      | 弥・後 |    |
| 土坑21 | 2区  | 円    | 圓   | 26     | 25     | 6      | 弥・後 |    |
| 土坑22 | 2区  | 椭円   | 圓   | 121    | 79     | 8      | 弥・後 |    |
| 土坑23 | 2区  | 不定   | 楕   | 149    | 87     | 14     | 弥・後 |    |
| 土坑24 | 2区  | 不定   | 楕   | 153    | 58     | 10     | 弥・後 |    |
| 土坑25 | 2区  | 椭円   | 楕   | 44     | 25     | 11     | 弥・後 |    |
| 土坑26 | 2区  | 円    | 圓   | 25     | 21     | 4      | 弥・後 |    |
| 土坑27 | 2区  | 円    | 圓   | 33     | 25     | 5      | 弥・後 |    |
| 土坑28 | 2区  | 円    | 圓   | 29     | 29     | 5      | 弥・後 |    |
| 土坑29 | 2区  | 椭円   | 圓   | 49     | 13     | 3      | 弥・後 |    |
| 土坑30 | 2区  | 円    | 圓   | 32     | 26     | 3      | 弥・後 |    |
| 土坑31 | 2区  | 円    | 圓   | 19     | 19     | 6      | 弥・後 |    |
| 土坑32 | 2区  | 円    | 楕   | 26     | 26     | 10     | 弥・後 |    |
| 土坑33 | 2区  | 円    | 圓   | 42     | (34)   | 4      | 弥・後 |    |
| 土坑34 | 2区  | 円    | 圓   | 28     | 26     | 5      | 弥・後 |    |
| 土坑35 | 2区  | 椭円   | 圓   | 51     | 20     | 3      | 弥・後 |    |

| 遺構名  | 地区名 | 平面形  | 断面形 | 長軸(cm) | 短軸(cm) | 深さ(cm) | 時期  | 備考 |
|------|-----|------|-----|--------|--------|--------|-----|----|
| 土坑36 | 2区  | 円    | 楕   | 24     | 22     | 6      | 弥・後 |    |
| 土坑37 | 2区  | 不整円  | 逆台  | 70     | 51     | 20     | 弥・後 |    |
| 土坑38 | 2区  | 椭円   | 不定  | 113    | 53     | 22     | 弥・後 |    |
| 土坑39 | 2区  | 円    | 箱   | 38     | 27     | 24     | 弥・後 |    |
| 土坑40 | 2区  | 円    | 楕   | 41     | 39     | 11     | 弥・後 |    |
| 土坑41 | 2区  | (椭円) | 楕   | (28)   | (10)   | 4      | 弥・後 |    |
| 土坑42 | 2区  | 円    | 楕   | 63     | 54     | 15     | 弥・後 |    |
| 土坑43 | 2区  | 椭円   | 楕   | 48     | 35     | 11     | 弥・後 |    |
| 土坑44 | 2区  | 不定   | 楕   | 215    | (95)   | 18     | 弥・後 |    |
| 土坑45 | 2区  | 長椭円  | 楕   | 159    | 45     | 13     | 弥・後 |    |
| 土坑46 | 2区  | 猜丸方形 | 不定  | (46)   | 56     | 47     | 弥・後 |    |
| 土坑47 | 2区  | 不整円  | 楕   | 107    | 75     | 12     | 弥・後 |    |
| 土坑48 | 2区  | 不定   | 楕   | 60     | 25     | 5      | 弥・後 |    |
| 土坑49 | 2区  | 円    | 一   | (30)   | 27     | (3)    | 弥・後 |    |
| 土坑50 | 2区  | 円    | 黒   | 41     | 35     | 3      | 弥・後 |    |
| 土坑51 | 2区  | 椭円   | 楕   | (20)   | (37)   | (5)    | 弥・後 |    |
| 土坑52 | 2区  | 椭円   | 不定  | 73     | 46     | 45     | 弥・後 |    |
| 土坑53 | 2区  | 椭円   | 不定  | 62     | 37     | 26     | 弥・後 |    |
| 土坑54 | 2区  | 椭円   | U字  | (29)   | 11     | 10     | 弥・後 |    |
| 土坑55 | 2区  | 不整椭円 | 黒   | 97     | 45     | 4      | 弥・後 |    |
| 土坑56 | 2区  | 不定   | 黒   | 110    | (38)   | (5)    | 弥・後 |    |
| 土坑57 | 2区  | 円    | 逆台  | 54     | 52     | 22     | 弥・後 |    |
| 土坑58 | 2区  | 円    | 楕   | 49     | 39     | 11     | 弥・後 |    |
| 土坑59 | 2区  | 椭円   | 楕   | 70     | 44     | 21     | 弥・後 |    |
| 土坑60 | 2区  | 椭円   | 不定  | 112    | 60     | 55     | 弥・後 |    |
| 土坑61 | 2区  | 椭円   | 逆台  | 50     | 30     | 15     | 弥・後 |    |
| 土坑62 | 2区  | 不整椭円 | 黒   | 134    | 48     | 6      | 弥・後 |    |
| 土坑63 | 2区  | 椭円   | 黒   | 59     | 40     | 10     | 弥・後 |    |
| 土坑64 | 2区  | 円    | 楕   | 69     | 63     | 12     | 弥・後 |    |
| 土坑65 | 3区  | 長椭円  | 楕   | 403    | 111    | 20     | 弥・後 |    |
| 土坑66 | 3区  | 不整椭円 | 不定  | 205    | 98     | 12     | 弥・後 |    |
| 土坑67 | 3区  | 椭円   | 楕   | 110    | 81     | 14     | 弥・後 |    |
| 土坑68 | 3区  | 円    | 楕   | 37     | 28     | 11     | 弥・後 |    |
| 土坑69 | 3区  | 円    | 黒   | 61     | 57     | 5      | 弥・後 |    |
| 土坑70 | 3区  | 不整椭円 | 黒   | 74     | 58     | 13     | 弥・後 |    |
| 土坑71 | 3区  | 椭円   | 黒   | 63     | 39     | 7      | 弥・後 |    |
| 土坑72 | 3区  | 椭円   | 黒   | 128    | 74     | 7      | 弥・後 |    |
| 土坑73 | 3区  | 椭円   | 黒   | (41)   | 32     | 6      | 弥・後 |    |
| 土坑74 | 3区  | 椭円   | 楕   | 57     | 26     | 8      | 弥・後 |    |
| 土坑75 | 3区  | 不整椭円 | 不定  | 105    | 62     | 8      | 弥・後 |    |
| 土坑76 | 3区  | 不定   | 箱   | (56)   | (55)   | 25     | 弥・後 |    |
| 土坑77 | 3区  | 椭円   | 黒   | 47     | 30     | 7      | 弥・後 |    |
| 土坑78 | 3区  | 椭円   | 黒   | 75     | 33     | 8      | 弥・後 |    |
| 土坑79 | 3区  | 長椭円  | 黒   | 123    | 35     | 6      | 弥・後 |    |
| 土坑80 | 3区  | 不定   | 楕   | 79     | 77     | 11     | 弥・後 |    |
| 土坑81 | 3区  | 円    | 楕   | 81     | 72     | 24     | 弥・後 |    |
| 土坑82 | 3区  | 円    | 楕   | 67     | 54     | 22     | 弥・後 |    |
| 土坑83 | 3区  | 長椭円  | 楕   | (111)  | 30     | 13     | 弥・後 |    |
| 土坑84 | 3区  | 椭円   | 楕   | 48     | 32     | 8      | 弥・後 |    |
| 土坑85 | 3区  | 椭円   | 楕   | 74     | 24     | 6      | 弥・後 |    |
| 土坑86 | 3区  | 不整椭円 | 黒   | (90)   | 42     | 4      | 弥・後 |    |
| 土坑87 | 3区  | 円    | 楕   | 26     | 22     | 7      | 弥・後 |    |
| 土坑88 | 3区  | 不定   | 黒   | 75     | 66     | 5      | 弥・後 |    |
| 土坑89 | 3区  | 椭円   | 黒   | 56     | 16     | 3      | 弥・後 |    |
| 土坑90 | 3区  | 椭円   | 黒   | 48     | 22     | 3      | 弥・後 |    |
| 土坑91 | 3区  | 円    | 逆台  | 30     | 28     | 19     | 弥・後 |    |
| 土坑92 | 3区  | 椭円   | 楕   | 56     | 36     | 8      | 弥・後 |    |
| 土坑93 | 3区  | 椭円   | 楕   | 50     | 24     | 11     | 弥・後 |    |
| 土坑94 | 3区  | 椭円   | 楕   | (62)   | 53     | 12     | 弥・後 |    |

| 遺構名   | 地区名 | 平面形  | 断面形 | 長軸(cm) | 短軸(cm) | 深さ(cm) | 時期   | 備考 |
|-------|-----|------|-----|--------|--------|--------|------|----|
| 土坑95  | 3区  | 楕円   | 圓   | 33     | 20     | 5      | 弥・後  |    |
| 土坑96  | 3区  | 円    | 楕   | 67     | 61     | 20     | 弥・後  |    |
| 土坑97  | 3区  | 不整円  | 圓   | 59     | 50     | 3      | 弥・後  |    |
| 土坑98  | 3区  | 円    | 楕   | 31     | 27     | 13     | 弥・後  |    |
| 土坑99  | 3区  | 円    | 箱   | 34     | 29     | 14     | 弥・後  |    |
| 土坑100 | 3区  | 楕円   | 楕   | (51)   | (33)   | 5      | 弥・後  |    |
| 土坑101 | 3区  | 楕円   | 箱   | (50)   | (29)   | (7)    | 弥・後  |    |
| 土坑102 | 3区  | 円    | 楕   | (33)   | (15)   | (11)   | 弥・後  |    |
| 土坑103 | 3区  | 不整円  | 楕   | 35     | 25     | 9      | 弥・後  |    |
| 土坑104 | 3区  | 楕円   | 楕   | 118    | 64     | 16     | 弥・後  |    |
| 土坑105 | 3区  | 楕円   | 楕   | 32     | 23     | 6      | 弥・後  |    |
| 土坑106 | 3区  | 不定   | 楕   | 115    | 65     | 22     | 弥・後  |    |
| 土坑107 | 3区  | 楕円   | 楕   | 51     | 35     | 11     | 弥・後  |    |
| 土坑108 | 3区  | 不定   | 圓   | 97     | 57     | 9      | 弥・後  |    |
| 土坑109 | 3区  | 円    | 楕   | 32     | 26     | 10     | 弥・後  |    |
| 土坑110 | 3区  | 円    | 箱   | 40     | 34     | 12     | 弥・後  |    |
| 土坑111 | 3区  | 円    | 楕   | 40     | 37     | 12     | 弥・後  |    |
| 土坑112 | 3区  | 不整円  | 圓   | (62)   | 56     | 7      | 弥・後  |    |
| 土坑113 | 3区  | 鋼丸方形 | 箱   | (73)   | (30)   | (28)   | 弥・後  |    |
| 土坑114 | 3区  | 楕円   | 楕   | (35)   | 30     | 8      | 弥・後  |    |
| 土坑115 | 3区  | 楕円   | 楕   | (57)   | 33     | (13)   | 弥・後  |    |
| 土坑116 | 3区  | 円    | 箱   | 34     | 30     | 17     | 弥・後  |    |
| 土坑117 | 3区  | 円    | 箱   | 49     | 41     | 26     | 弥・後  |    |
| 土坑118 | 3区  | 楕円   | 楕   | 56     | 40     | 24     | 弥・後  |    |
| 土坑119 | 3区  | 楕円   | 楕   | (60)   | (25)   | 6      | 弥・後  |    |
| 土坑120 | 3区  | 円    | 不定  | 52     | 45     | 19     | 弥・後  |    |
| 土坑121 | 3区  | 円    | 楕   | (60)   | (24)   | (22)   | 弥・後  |    |
| 土坑122 | 3区  | 円    | 楕   | 41     | 37     | 8      | 弥・後  |    |
| 土坑123 | 3区  | 不定   | 箱   | (92)   | 80     | 15     | 弥・後  |    |
| 土坑124 | 3区  | 円    | 箱   | 28     | 25     | 15     | 弥・後  |    |
| 土坑125 | 3区  | 楕円   | 楕   | (31)   | 37     | 10     | 弥・後  |    |
| 土坑126 | 3区  | 不整椭円 | 楕   | (136)  | (45)   | (27)   | 弥・後  |    |
| 土坑127 | 3区  | 不定   | 楕   | (113)  | (39)   | 31     | 弥・後  |    |
| 土坑128 | 3区  | 楕円   | 楕   | (25)   | 33     | 17     | 弥・後  |    |
| 土坑129 | 3区  | —    | 楕   | (26)   | (8)    | (15)   | 弥・後  |    |
| 土坑130 | 3区  | 不整円  | 圓   | 100    | 79     | 9      | 弥・後  |    |
| 土坑131 | 3区  | 楕円   | 楕   | 118    | 63     | 13     | 弥・後  |    |
| 土坑132 | 3区  | 楕円   | 逆台  | (31)   | (20)   | 8      | 弥・後  |    |
| 土坑133 | 3区  | 楕円   | 圓   | (129)  | (26)   | 14     | 弥・後  |    |
| 土坑134 | 3区  | 円    | 逆台  | 75     | 64     | 17     | 弥・後  |    |
| 土坑135 | 3区  | 楕円   | 圓   | (58)   | (21)   | 4      | 弥・後  |    |
| 土坑136 | 3区  | 楕円   | 楕   | 140    | 70     | 31     | 弥・後  |    |
| 土坑137 | 3区  | 楕円   | 逆台  | (55)   | (59)   | 44     | 弥・後  |    |
| 土坑138 | 3区  | 楕円   | 箱+段 | 122    | 101    | 38     | 弥・後  |    |
| 土坑139 | 3区  | 円    | 箱   | 40     | 34     | 23     | 弥・後  |    |
| 土坑140 | 3区  | 楕円   | 楕   | (47)   | 34     | 10     | 弥・後  |    |
| 土坑141 | 3区  | 楕円   | 楕   | 156    | 50     | 11     | 弥・後  |    |
| 土坑142 | 3区  | 不定   | 楕   | (159)  | 163    | 20     | 弥・後  |    |
| 土坑143 | 3区  | 円    | 圓   | 47     | 36     | 5      | 古墳以降 |    |
| 土坑144 | 3区  | 楕円   | 逆台  | 44     | 17     | 8      | 古墳以降 |    |
| 土坑145 | 3区  | 不定   | 楕   | 144    | 102    | 29     | 古墳以降 |    |
| 土坑146 | 3区  | 楕円   | 圓   | 54     | (24)   | 7      | 古墳以降 |    |
| 土坑147 | 3区  | 不定   | 楕   | 83     | (51)   | 17     | 古墳以降 |    |
| 土坑148 | 3区  | 円    | 楕   | 123    | 105    | 18     | 古墳以降 |    |
| 土坑149 | 3区  | 長椭円  | 圓   | 62     | 18     | 4      | 古墳以降 |    |
| 土坑150 | 3区  | 楕円   | 楕   | 58     | (39)   | 19     | 古墳以降 |    |
| 土坑151 | 3区  | 円    | 圓   | 32     | 25     | 3      | 古墳以降 |    |
| 土坑152 | 3区  | 円    | 楕   | 46     | 41     | 11     | 古墳以降 |    |
| 土坑153 | 3区  | 長椭円  | 不定  | 95     | 25     | 11     | 古墳以降 |    |

| 遺構名   | 地区名 | 平面形  | 断面形 | 長軸(cm) | 短軸(cm) | 深さ(cm) | 時期   | 備考 |
|-------|-----|------|-----|--------|--------|--------|------|----|
| 土坑154 | 3区  | 椭円   | 楕   | 46     | 32     | 21     | 古墳以降 |    |
| 土坑155 | 3区  | 円    | 楕   | 40     | 32     | 10     | 古墳以降 |    |
| 土坑156 | 3区  | 不定   | 楕   | 240    | 44     | 16     | 古墳以降 |    |
| 土坑157 | 3区  | 不整円  | 楕   | (101)  | (89)   | 45     | 古墳以降 |    |
| 土坑158 | 3区  | 椭円   | 逆台  | (50)   | (46)   | 41     | 古墳以降 |    |
| 土坑159 | 3区  | 椭円   | 不定  | 85     | 33     | 18     | 古墳以降 |    |
| 土坑160 | 3区  | 不整椭円 | 箱   | 70     | 48     | 11     | 古墳以降 |    |
| 土坑161 | 3区  | 円    | 楕   | 43     | 34     | 13     | 古墳以降 |    |
| 土坑162 | 3区  | 椭円   | 圓   | 57     | 41     | 5      | 古墳以降 |    |
| 土坑163 | 3区  | 不整椭円 | 圓   | 91     | 55     | 10     | 古墳以降 |    |
| 土坑164 | 3区  | 椭円   | 圓   | 51     | 40     | 7      | 古墳以降 |    |
| 土坑165 | 3区  | 椭円   | 箱   | 37     | 27     | 33     | 古墳以降 |    |
| 土坑166 | 3区  | 椭円   | 楕   | (60)   | (26)   | 22     | 古墳以降 |    |
| 土坑167 | 3区  | 椭円   | 楕   | 43     | 30     | 9      | 古墳以降 |    |
| 土坑168 | 3区  | 円    | 圓   | 42     | 34     | 4      | 古墳以降 |    |
| 土坑169 | 3区  | 不定   | 不定  | 172    | 78     | 54     | 古墳以降 |    |
| 土坑170 | 3区  | 椭円   | 楕   | (111)  | 75     | 16     | 古墳以降 |    |
| 土坑171 | 3区  | 椭円   | 楕   | (32)   | 30     | 13     | 古墳以降 |    |
| 土坑172 | 3区  | 方    | 圓   | (33)   | 35     | 7      | 古墳以降 |    |
| 土坑173 | 3区  | 椭円   | 圓   | 65     | 28     | 6      | 古墳以降 |    |
| 土坑174 | 3区  | 不整椭円 | 楕   | 133    | 95     | 20     | 古墳以降 |    |
| 土坑175 | 3区  | 円    | 楕   | 57     | 51     | 11     | 古墳以降 |    |
| 土坑176 | 3区  | 円    | 圓   | 42     | 34     | 10     | 古墳以降 |    |
| 土坑177 | 3区  | 圆九方形 | 箱   | (106)  | 79     | 28     | 古墳以降 |    |
| 土坑178 | 3区  | 円    | 圓   | 52     | 44     | 6      | 古墳以降 |    |
| 土坑179 | 3区  | 椭円   | 楕   | (89)   | (30)   | 21     | 古墳以降 |    |
| 土坑180 | 3区  | 不整椭円 | 楕   | (94)   | 42     | 8      | 古墳以降 |    |

## 溝

| 遺構名 | 地区名 | 断面形 | 上端幅(cm) | 底面幅(cm) | 深さ(cm) | 時期  | 備考 |
|-----|-----|-----|---------|---------|--------|-----|----|
| 溝1  | 1区  | 逆台  | 11      | 6       | 11     | 弥・後 |    |
| 溝2  | 3区  | 圓   | 16      | 11      | 3      | 弥・後 |    |
| 溝3  | 3区  | 楕   | 22      | 9       | 4      | 弥・後 |    |
| 溝4  | 2区  | 逆台  | 130     | 82      | 15     | 弥・後 |    |
| 溝5  | 2区  | 楕   | 16      | 7       | 4      | 弥・後 |    |
| 溝6  | 3区  | 楕   | 40      | 17      | 12     | 弥・後 |    |
| 溝7  | 3区  | 楕   | 57      | 37      | 31     | 弥・後 |    |

## 柱穴

| 遺構名  | 地区名 | 平面形 | 断面形  | 長軸(cm) | 短軸(cm) | 深さ(cm) | 時期   | 備考 |
|------|-----|-----|------|--------|--------|--------|------|----|
| 柱穴1  | 2区  | 円   | 逆台形  | 25     | 21     | 19     | 弥・後  |    |
| 柱穴2  | 2区  | 椭円  | 箱+段  | 55     | 40     | 37     | 弥・後  |    |
| 柱穴3  | 2区  | 円   | 箱+段  | 45     | 45     | 36     | 弥・後  |    |
| 柱穴4  | 3区  | 円   | 箱    | (35)   | (21)   | 46     | 弥・後  |    |
| 柱穴5  | 3区  | 円   | 箱    | 29     | 24     | 15     | 弥・後  |    |
| 柱穴6  | 3区  | 円   | 箱    | 27     | 24     | 48     | 弥・後  |    |
| 柱穴7  | 2区  | 円   | U字+段 | 30     | 27     | 40     | 古墳以降 |    |
| 柱穴8  | 2区  | 椭円  | 箱+段  | (38)   | 35     | 29     | 古墳以降 |    |
| 柱穴9  | 2区  | 円   | 箱+段  | 30     | 28     | 20     | 古墳以降 |    |
| 柱穴10 | 2区  | 円   | 箱    | 64     | 50     | 30     | 古墳以降 |    |
| 柱穴11 | 3区  | 円   | 箱    | (19)   | (12)   | 18     | 古代   |    |

新旧遺構名称对照表

| 報告書遺構名 | 調査年度 | 調査区 | 調査時No.      | 報告書遺構名 | 調査年度 | 調査区 | 調査時No. |
|--------|------|-----|-------------|--------|------|-----|--------|
| 整穴住居1  | H27  | 2区  | No.84       | 土坑51   | H27  | 2区  | No.70  |
| 整穴住居2  | H27  | 2区  | No.132      | 土坑52   | H27  | 2区  | No.49  |
| 整穴住居3  | H27  | 3区  | No.83       | 土坑53   | H27  | 2区  | No.50  |
| 整穴住居4  | H27  | 3区  | No.85       | 土坑54   | H27  | 2区  | No.68  |
| 椭円柱建物1 | H27  | 2区  | No.3        | 土坑55   | H27  | 2区  | No.56  |
| 椭円柱建物2 | H27  | 2区  | No.21・24・30 | 土坑56   | H27  | 2区  | No.44  |
| 椭円柱建物3 | H27  | 2区  | No.72・75・80 | 土坑57   | H27  | 2区  | No.39  |
| 段状遺構1  | H27  | 2区  | No.61・64    | 土坑58   | H27  | 2区  | No.38  |
| 土坑1    | H27  | 2区  | No.152      | 土坑59   | H27  | 2区  | No.37  |
| 土坑2    | H27  | 2区  | No.145      | 土坑60   | H27  | 2区  | No.15  |
| 土坑3    | H27  | 2区  | No.155      | 土坑61   | H27  | 2区  | No.45  |
| 土坑4    | H27  | 2区  | No.141      | 土坑62   | H27  | 2区  | No.13  |
| 土坑5    | H27  | 2区  | No.140      | 土坑63   | H27  | 2区  | No.4   |
| 土坑6    | H27  | 2区  | No.153      | 土坑64   | H27  | 2区  | No.12  |
| 土坑7    | H27  | 2区  | No.139      | 土坑65   | H27  | 2区  | No.16  |
| 土坑8    | H27  | 2区  | No.138      | 土坑66   | H27  | 2区  | No.22  |
| 土坑9    | H27  | 2区  | No.136      | 土坑67   | H27  | 2区  | No.14  |
| 土坑10   | H27  | 2区  | No.134      | 土坑68   | H27  | 2区  | No.166 |
| 土坑11   | H27  | 2区  | No.133      | 土坑69   | H27  | 2区  | No.9   |
| 土坑12   | H27  | 2区  | No.130      | 土坑70   | H27  | 2区  | No.7   |
| 土坑13   | H27  | 2区  | No.131      | 土坑71   | H27  | 2区  | No.17  |
| 土坑14   | H27  | 2区  | No.129      | 土坑72   | H27  | 2区  | No.25  |
| 土坑15   | H27  | 2区  | No.126      | 土坑73   | H27  | 2区  | No.26  |
| 土坑16   | H27  | 2区  | No.128      | 土坑74   | H27  | 2区  | No.160 |
| 土坑17   | H27  | 2区  | No.125      | 土坑75   | H27  | 2区  | No.19  |
| 土坑18   | H27  | 2区  | No.122      | 土坑76   | H27  | 2区  | No.2   |
| 土坑19   | H27  | 2区  | No.120      | 土坑77   | H27  | 2区  | No.32  |
| 土坑20   | H27  | 2区  | No.115      | 土坑78   | H27  | 2区  | No.31  |
| 土坑21   | H27  | 2区  | No.114      | 土坑79   | H27  | 2区  | No.27  |
| 土坑22   | H27  | 2区  | No.109      | 土坑80   | H27  | 2区  | No.28  |
| 土坑23   | H27  | 2区  | No.111      | 土坑81   | H27  | 2区  | No.11  |
| 土坑24   | H27  | 2区  | No.113      | 土坑82   | H27  | 2区  | No.20  |
| 土坑25   | H27  | 2区  | No.106      | 土坑83   | H27  | 2区  | No.29  |
| 土坑26   | H27  | 2区  | No.107      | 土坑84   | H27  | 2区  | No.36  |
| 土坑27   | H27  | 2区  | No.104      | 土坑85   | H27  | 3区  | No.1   |
| 土坑28   | H27  | 2区  | No.101      | 土坑86   | H27  | 3区  | No.2   |
| 土坑29   | H27  | 2区  | No.112      | 土坑87   | H27  | 3区  | No.9   |
| 土坑30   | H27  | 2区  | No.108      | 土坑88   | H27  | 3区  | No.4   |
| 土坑31   | H27  | 2区  | No.105      | 土坑89   | H27  | 3区  | No.16  |
| 土坑32   | H27  | 2区  | No.99       | 土坑90   | H27  | 3区  | No.3   |
| 土坑33   | H27  | 2区  | No.103      | 土坑91   | H27  | 3区  | No.11  |
| 土坑34   | H27  | 2区  | No.98       | 土坑92   | H27  | 3区  | No.6   |
| 土坑35   | H27  | 2区  | No.102      | 土坑93   | H27  | 3区  | No.5   |
| 土坑36   | H27  | 2区  | No.97       | 土坑94   | H27  | 3区  | No.15  |
| 土坑37   | H27  | 2区  | No.92       | 土坑95   | H27  | 3区  | No.20  |
| 土坑38   | H27  | 2区  | No.91       | 土坑96   | H27  | 3区  | No.18  |
| 土坑39   | H27  | 2区  | No.90       | 土坑97   | H27  | 3区  | No.21  |
| 土坑40   | H27  | 2区  | No.88       | 土坑98   | H27  | 3区  | No.23  |
| 土坑41   | H27  | 2区  | No.95       | 土坑99   | H27  | 3区  | No.25  |
| 土坑42   | H27  | 2区  | No.85       | 土坑100  | H27  | 3区  | No.24  |
| 土坑43   | H27  | 2区  | No.87       | 土坑101  | H27  | 3区  | No.28  |
| 土坑44   | H27  | 2区  | No.93       | 土坑102  | H27  | 3区  | No.27  |
| 土坑45   | H27  | 2区  | No.83       | 土坑103  | H27  | 3区  | No.29  |
| 土坑46   | H27  | 2区  | No.79       | 土坑104  | H27  | 3区  | No.32  |
| 土坑47   | H27  | 2区  | No.73       | 土坑105  | H27  | 3区  | No.33  |
| 土坑48   | H27  | 2区  | No.94       | 土坑106  | H27  | 3区  | No.34  |
| 土坑49   | H27  | 2区  | No.81       | 土坑107  | H27  | 3区  | No.35  |
| 土坑50   | H27  | 2区  | No.71       | 土坑108  | H27  | 3区  | No.36  |

新旧遺構名稱對照表

| 報告書遺構名 | 調査年度 | 調査区 | 調査時No. | 報告書遺構名 | 調査年度 | 調査区  | 調査時No. |
|--------|------|-----|--------|--------|------|------|--------|
| 土坑109  | H27  | 3区  | No39   | 土坑154  | H27  | 2区   | No55   |
| 土坑110  | H27  | 3区  | No38   | 土坑155  | H27  | 2区   | No57   |
| 土坑111  | H27  | 3区  | No43   | 土坑156  | H27  | 2区   | No69   |
| 土坑112  | H27  | 3区  | No41   | 土坑157  | H27  | 2区   | No66   |
| 土坑113  | H27  | 3区  | No42   | 土坑158  | H27  | 2区   | No67   |
| 土坑114  | H27  | 3区  | No44   | 土坑159  | H27  | 2区   | No65   |
| 土坑115  | H27  | 3区  | No45   | 土坑160  | H27  | 2区   | No51   |
| 土坑116  | H27  | 3区  | No48   | 土坑161  | H27  | 2区   | No53   |
| 土坑117  | H27  | 3区  | No47   | 土坑162  | H27  | 2区   | No52   |
| 土坑118  | H27  | 3区  | No49   | 土坑163  | H27  | 2区   | No54   |
| 土坑119  | H27  | 3区  | No52   | 土坑164  | H27  | 2区   | No42   |
| 土坑120  | H27  | 3区  | No56   | 土坑165  | H27  | 2区   | No48   |
| 土坑121  | H27  | 3区  | No57   | 土坑166  | H27  | 2区   | No43   |
| 土坑122  | H27  | 3区  | No58   | 土坑167  | H27  | 2区   | No47   |
| 土坑123  | H27  | 3区  | No59   | 土坑168  | H27  | 2区   | No40   |
| 土坑124  | H27  | 3区  | No60   | 土坑169  | H27  | 2区   | No23   |
| 土坑125  | H27  | 3区  | No65   | 土坑170  | H27  | 2区   | No5    |
| 土坑126  | H27  | 3区  | No61   | 土坑171  | H27  | 2区   | No18   |
| 土坑127  | H27  | 3区  | No69   | 土坑172  | H27  | 2区   | No33   |
| 土坑128  | H27  | 3区  | No66   | 土坑173  | H27  | 2区   | No34   |
| 土坑129  | H27  | 3区  | No67   | 土坑174  | H27  | 2区   | No6    |
| 土坑130  | H27  | 3区  | No68   | 土坑175  | H27  | 2区   | No10   |
| 土坑131  | H27  | 3区  | No74   | 土坑176  | H27  | 2区   | No35   |
| 土坑132  | H27  | 3区  | No84   | 土坑177  | H27  | 3区   | No17   |
| 土坑133  | H27  | 3区  | No70   | 土坑178  | H27  | 3区   | No12   |
| 土坑134  | H27  | 3区  | No71   | 土坑179  | H27  | 3区   | No19   |
| 土坑135  | H27  | 3区  | No73   | 土坑180  | H27  | 工事立会 | No2    |
| 土坑136  | H27  | 3区  | No72   | 溝1     | H27  | 1区   | No1    |
| 土坑137  | H27  | 3区  | No89   | 溝2     | H27  | 3区   | No14   |
| 土坑138  | H27  | 3区  | No82   | 溝3     | H27  | 3区   | No31   |
| 土坑139  | H27  | 3区  | No88   | 溝4     | H27  | 2区   | No151  |
| 土坑140  | H27  | 3区  | No75   | 溝5     | H27  | 2区   | No154  |
| 土坑141  | H27  | 3区  | No86   | 溝6     | H27  | 3区   | No62   |
| 土坑142  | H27  | 3区  | No87   | 溝7     | H27  | 3区   | No81   |
| 土坑143  | H27  | 2区  | No146  | 柱穴1    | H27  | 2区   | No100  |
| 土坑144  | H27  | 2区  | No150  | 柱穴2    | H27  | 2区   | No76   |
| 土坑145  | H27  | 2区  | No144  | 柱穴3    | H27  | 2区   | No41   |
| 土坑146  | H27  | 2区  | No123  | 柱穴4    | H27  | 3区   | No46   |
| 土坑147  | H27  | 2区  | No110  | 柱穴5    | H27  | 3区   | No63   |
| 土坑148  | H27  | 2区  | No89   | 柱穴6    | H27  | 3区   | No90   |
| 土坑149  | H27  | 2区  | No74   | 柱穴7    | H27  | 2区   | No86   |
| 土坑150  | H27  | 2区  | No8    | 柱穴8    | H27  | 2区   | No82   |
| 土坑151  | H27  | 2区  | No63   | 柱穴9    | H27  | 2区   | No60   |
| 土坑152  | H27  | 2区  | No58   | 柱穴10   | H27  | 2区   | No1    |
| 土坑153  | H27  | 2区  | No59   | 柱穴11   | H27  | 3区   | No64   |

土器観察表

| 査定番号 | 遺構名       | 種別   | 器種 | 外面色調   | 残存状況      | 計測値(cm) |               |       | 特徴・備考 |
|------|-----------|------|----|--------|-----------|---------|---------------|-------|-------|
|      |           |      |    |        |           | 口径      | 底径            | 器高    |       |
| 1    | T 1       | 弥生土器 | 壺  | にぶい赤褐色 | 口1.5      | 164     | 20            | 赤色顔料  |       |
| 2    | T 1       | 弥生土器 | 高杯 | にぶい赤褐色 | 脚柱~脚1/2   | 124     | 92            | 赤色顔料  |       |
| 3    | T 5       | 弥生土器 | 壺  | にぶい黄褐色 | 口~脚1/5    | 152     | 55            |       |       |
| 4    | T 5       | 弥生土器 | 壺  | にぶい黄褐色 | 底1/8      | 86      | 35            |       |       |
| 5    | T 5       | 弥生土器 | 壺  | にぶい赤褐色 | 口~脚1/10以下 | 184     | 112           |       |       |
| 6    | T 5       | 弥生土器 | 器台 | 明黄褐色   | 脚1/8      | 36.6    | 37            |       |       |
| 7    | T 2       | 組合器  | 小瓶 | 灰灰     | 口~底1/4    | 78      | 66            | 13    |       |
| 8    | 整穴住居2     | 弥生土器 | 壺  | にぶい赤褐色 | 口1.5      | 188     | 19            |       |       |
| 9    | 整穴住居2     | 弥生土器 | 壺  | にぶい赤褐色 | 口~頭       | 23      | 口縁端部欠損        |       |       |
| 10   | 整穴住居2     | 弥生土器 | 壺  | 明黄褐色   | 口~頭       | 230     | 54            |       |       |
| 11   | 整穴住居2     | 弥生土器 | 壺  | にぶい赤褐色 | 底1/8      | 15.0    | 21            |       |       |
| 12   | 整穴住居2     | 弥生土器 | 高杯 | にぶい黄褐色 | 杯1/7      | 234     | 39            |       |       |
| 13   | 整穴住居2     | 弥生土器 | 高杯 | にぶい赤褐色 | 脚1.7      | 14.0    | 41            | 赤色顔料  |       |
| 14   | 整穴住居3     | 弥生土器 | 壺  | にぶい赤褐色 | 口~脚1/4    | 220     | 85            | 赤色顔料  |       |
| 15   | 整穴住居3     | 弥生土器 | 壺  | 明黄褐色   | 口~頭1/12   | 228     | 45            | 赤色顔料  |       |
| 16   | 整穴住居3     | 弥生土器 | 壺  | にぶい黄褐色 | 口~頭1/4    | 130     | 21            |       |       |
| 17   | 整穴住居3     | 弥生土器 | 壺  | 橙      | 頭~脚1/8    | 42      |               |       |       |
| 18   | 整穴住居3     | 弥生土器 | 壺  | 橙      | 底1/4      | 64      | 16            |       |       |
| 19   | 整穴住居3     | 弥生土器 | 壺  | 橙      | 底1/4      | 90      | 21            |       |       |
| 20   | 整穴住居3     | 弥生土器 | 壺  | 明黄褐色   | 底1/4      | 74      | 23            |       |       |
| 21   | 整穴住居3     | 弥生土器 | 壺  | 橙      | 底1/4      | 64      | 16            |       |       |
| 22   | 整穴住居3     | 弥生土器 | 壺  | 黄褐色    | 底1/4      | 54      | 16            |       |       |
| 23   | 整穴住居3     | 弥生土器 | 壺  | にぶい赤褐色 | 底はげ完存     | 57      | 23            |       |       |
| 24   | 整穴住居3     | 弥生土器 | 高杯 | にぶい黄褐色 | 杯1/8      | 246     | 25            | 赤色顔料  |       |
| 25   | 整穴住居3     | 弥生土器 | 高杯 | 黄褐色    | 杯1/8      | 294     | 23            | 赤色顔料  |       |
| 26   | 整穴住居3     | 弥生土器 | 高杯 | にぶい橙   | 杯1/7      | 220     | 33            | 赤色顔料  |       |
| 27   | 整穴住居3     | 弥生土器 | 器台 | にぶい赤褐色 | 脚1.7      | 35.0    | 44            | 赤色顔料  |       |
| 28   | 整穴住居4     | 弥生土器 | 壺  | にぶい赤褐色 | 口~脚1/7    | 132     | 43            | 赤色顔料  |       |
| 29   | 整穴住居4     | 弥生土器 | 壺  | にぶい赤褐色 | 口~脚1/8    | 180     | 83            | 赤色顔料  |       |
| 30   | 整穴住居4     | 弥生土器 | 高杯 | にぶい橙   | 杯1/12     | 200     | 32            | 赤色顔料  |       |
| 31   | 整穴住居4     | 弥生土器 | 高杯 | にぶい橙   | 杯1/8      | 166     | 36            | 赤色顔料  |       |
| 32   | 整穴住居4     | 弥生土器 | 高杯 | にぶい赤褐色 | 脚柱はげ完存    | 20      |               |       |       |
| 33   | 整穴住居4     | 弥生土器 | 器台 | にぶい黄褐色 | 脚1.7      | 22.0    | 35            | 赤色顔料  |       |
| 34   | 掘立柱建物3    | 弥生土器 | 壺  | にぶい黄褐色 | 口~脚1/8    | 100     | 50            | 赤色顔料  |       |
| 35   | 掘立柱建物3    | 弥生土器 | 壺  | にぶい赤褐色 | 頭~脚1/8    | 60      | 口縁端部欠損、外間に横付着 |       |       |
| 36   | 土坑27      | 弥生土器 | 壺  | にぶい黄褐色 | 口1/12     | 152     | 25            |       |       |
| 37   | 土坑138     | 弥生土器 | 高杯 | 灰灰     | 底1/8      | 8.0     | 18            |       |       |
| 38   | 土坑138     | 弥生土器 | 壺  | にぶい橙   | 口1/18     | 340     | 30            | 赤色顔料  |       |
| 39   | 溝7        | 弥生土器 | 壺  | にぶい黄褐色 | 頭1/8      | 33      | 赤色顔料          |       |       |
| 40   | 溝7        | 弥生土器 | 壺  | 橙      | 頭         | 31      |               |       |       |
| 41   | 柱穴3       | 弥生土器 | 壺  | 黑褐色    | 底1/8      | 72      | 52            | 外間に黒斑 |       |
| 42   | 柱穴3       | 弥生土器 | 壺  | にぶい樹   | 口~脚1/4    | 230     | 78            | 外間に黒斑 |       |
| 43   | 遺構に伴わない遺物 | 弥生土器 | 壺  | 橙      | 口~頭1/8    | 184     | 61            | 赤色顔料  |       |
| 44   | 遺構に伴わない遺物 | 弥生土器 | 壺  | 黄褐色    | 口~頭1/8    | 140     | 69            | 赤色顔料  |       |
| 45   | 遺構に伴わない遺物 | 弥生土器 | 壺  | 橙      | 口~頭1/8    | 180     | 25            | 赤色顔料  |       |
| 46   | 遺構に伴わない遺物 | 弥生土器 | 壺  | 明黄褐色   | 口~頭1/12   | 190     | 42            |       |       |
| 47   | 遺構に伴わない遺物 | 弥生土器 | 壺  | 明黄褐色   | 口~頭1/12   | 132     | 111           | 赤色顔料  |       |
| 48   | 遺構に伴わない遺物 | 弥生土器 | 壺  | にぶい黄褐色 | 口~脚1/2    | 168     | 122           | 赤色顔料  |       |
| 49   | 遺構に伴わない遺物 | 弥生土器 | 壺  | にぶい樹   | 口~頭1/12   | 124     | 43            | 赤色顔料  |       |
| 50   | 遺構に伴わない遺物 | 弥生土器 | 壺  | にぶい黄褐色 | 頭1/3      | 53      | 赤色顔料          |       |       |
| 51   | 遺構に伴わない遺物 | 弥生土器 | 壺  | にぶい樹   | 頭1/4      | 69      | 赤色顔料          |       |       |
| 52   | 遺構に伴わない遺物 | 弥生土器 | 壺  | 橙      | 口1/8      | 180     | 25            |       |       |
| 53   | 遺構に伴わない遺物 | 弥生土器 | 壺  | にぶい黄褐色 | 口~頭1/6    | 222     | 33            | 赤色顔料  |       |
| 54   | 遺構に伴わない遺物 | 弥生土器 | 壺  | 橙      | 口~頭1/4    | 190     | 59            |       |       |
| 55   | 遺構に伴わない遺物 | 弥生土器 | 壺  | にぶい黄褐色 | 口1/5      | 232     | 62            | 赤色顔料  |       |
| 56   | 遺構に伴わない遺物 | 弥生土器 | 壺  | 黑褐色    | 底1/6      | 14.2    | 51            | 外間に黒斑 |       |
| 57   | 遺構に伴わない遺物 | 弥生土器 | 壺  | 橙      | 底1/6      | 11.0    | 34            |       |       |

| 掲載番号 | 通撰名       | 種別   | 器種      | 外面色調   | 残存状況      | 計測値 (cm) |       |       | 特徴・備考 |
|------|-----------|------|---------|--------|-----------|----------|-------|-------|-------|
|      |           |      |         |        |           | 口径       | 底径    | 器高    |       |
| 58   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 甕       | にぶい黄褐色 | 口～側1/6    | 130      | 10.5  | 赤色顔料  |       |
| 59   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 甕       | にぶい赤褐色 | 口～側1/8    | 90       | 4.7   |       |       |
| 60   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 甕       | 棕褐色    | 口～頭1/2    | 140      | 3.4   | 赤色顔料  |       |
| 61   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 甕       | にぶい黄褐色 | 口～頭1/7    | 156      | 5.0   | 赤色顔料  |       |
| 62   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 甕       | にぶい黄褐色 | 口～頭1/4    | 152      | 4.2   | 赤色顔料  |       |
| 63   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 甕       | 棕褐色    | 口～頭1/7    | 196      | 3.5   |       |       |
| 64   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 甕       | にぶい棕褐色 | 口～頭1/8    | 162      | 3.0   |       |       |
| 65   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 甕       | にぶい黄褐色 | 口～頭1/7    | 162      | 2.8   |       |       |
| 66   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 甕       | 棕褐色    | 口～頭1/2    | 128      | 6.2   |       |       |
| 67   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 甕       | 明黄褐色   | 口～頭1/8    | 150      | 3.5   |       |       |
| 68   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 甕       | 明黄褐色   | 口～頭1/8    | 190      | 2.3   |       |       |
| 69   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 甕       | にぶい褐   | 口～頭1/5    | 244      | 4.5   | 赤色顔料  |       |
| 70   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 甕       | にぶい黄褐色 | 底～頭1/2    | 80       | 2.8   |       |       |
| 71   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 甕       | にぶい黄褐色 | 底～1/1     | 66       | 5.5   |       |       |
| 72   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 甕       | 明赤褐色   | 底～1/4     | 92       | 4.2   |       |       |
| 73   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 甕       | にぶい樹脂質 | 底～1/8     | 86       | 7.3   | 外面上に塗 |       |
| 74   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 甕       | にぶい黄褐色 | 底～1/8     | 96       | 4.0   |       |       |
| 75   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 甕       | 明褐色    | 底～1/10    | 10.0     | 3.7   | 外面上に塗 |       |
| 76   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 甕       | にぶい黄褐色 | 底～1/7     | 90       | 4.7   | 外面上に塗 |       |
| 77   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 甕       | 明褐色    | 底～1/9     | 11.2     | 2.5   | 赤色顔料  |       |
| 78   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 高杯      | にぶい黄褐色 | 口～杆1/6    | 254      | 3.2   | 赤色顔料  |       |
| 79   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 高杯      | 明黄褐色   | 口～杆1/8    | 264      | 3.6   | 赤色顔料  |       |
| 80   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 高杯      | にぶい黄褐色 | 口～杆1/4    | 240      | 2.6   | 赤色顔料  |       |
| 81   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 高杯      | にぶい黄褐色 | 口～杆1/4    | 268      | 4.2   | 赤色顔料  |       |
| 82   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 高杯      | にぶい黄褐色 | 口～杆1/4    | 232      | 3.8   | 赤色顔料  |       |
| 83   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 高杯      | にぶい黄褐色 | 口～杆1/6    | 232      | 2.6   | 赤色顔料  |       |
| 84   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 高杯      | にぶい黄褐色 | 脚柱(ばね)定形  | 11.6     | 赤色顔料  |       |       |
| 85   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 高杯      | にぶい黄褐色 | 脚柱(ばね)定形  | 11.3     | 赤色顔料  |       |       |
| 86   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 高杯      | にぶい赤褐色 | 杆～脚柱1/4   | 4.1      |       |       |       |
| 87   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 高杯      | にぶい棕褐色 | 杆～脚柱1/1   | 3.8      | 赤色顔料  |       |       |
| 88   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 高杯      | 棕褐色    | 脚柱1～脚柱1/1 | 3.4      | 水洗し粘土 |       |       |
| 89   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 高杯      | にぶい黄褐色 | 脚柱1/8     | 16.6     | 5.0   | 赤色顔料  |       |
| 90   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 高杯      | 棕褐色    | 脚柱1/6     | 20.0     | 3.3   | 赤色顔料  |       |
| 91   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 高杯      | にぶい黄褐色 | 脚柱1/8     | 18.0     | 2.2   | 赤色顔料  |       |
| 92   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 高杯      | にぶい褐   | 脚柱1/5     | 18.4     | 2.2   | 赤色顔料  |       |
| 93   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 高杯      | にぶい黄褐色 | 脚柱1/7     | 16.4     | 2.5   | 赤色顔料  |       |
| 94   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 高杯      | にぶい黄褐色 | 脚柱1/8     | 22.0     | 3.2   |       |       |
| 95   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 高杯      | 明赤褐色   | 脚柱1/8     | 21.0     | 3.5   |       |       |
| 96   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 鉢       | にぶい黄褐色 | 口～頭1/9    | 160      | 3.5   |       |       |
| 97   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 鉢       | 黄褐色    | 口～頭1/9    | 240      | 4.5   |       |       |
| 98   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 鉢       | にぶい黄褐色 | 口～頭1/12   | 37.2     | 8.2   | 赤色顔料  |       |
| 99   | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 鉢       | にぶい黄褐色 | 口～頭1/12   | 38.0     | 6.6   | 赤色顔料  |       |
| 100  | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 器台      | 棕褐色    | 口1/8      | 232      | 1.8   |       |       |
| 101  | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 器台      | にぶい黄褐色 | 脚柱1/5     | 7.2      | 赤色顔料  |       |       |
| 102  | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 器台      | 明褐色    | 脚柱1/6     | 22.8     | 8.0   | 赤色顔料  |       |
| 103  | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 器台      | にぶい黄褐色 | 口1/9      | 190      | 2.7   | 赤色顔料  |       |
| 104  | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 器台      | にぶい黄褐色 | 脚柱1/4     | 32.0     | 6.8   |       |       |
| 105  | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | 器台      | 棕褐色    | 脚柱1/4     | 30.0     | 5.0   |       |       |
| 106  | 道柄に伴わない遺物 | 弥生土器 | ミニチュア土器 | にぶい黄褐色 | 脚柱(ばね)定形  | 3.8      | 2.1   |       |       |
| 107  | 柱状II      | 土師器  | 杯       | にぶい黄褐色 | 脚柱1/4     | 8.8      | 3.2   |       |       |
| 108  | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器  | 高台付皿    | にぶい黄褐色 | 脚柱(ばね)定形  | 12.6     | 8.2   | 3.4   |       |
| 109  | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器  | 高台付皿    | にぶい黄褐色 | 脚柱(ばね)定形  | 7.8      | 3.2   |       |       |
| 110  | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器  | 高台付皿    | にぶい黄褐色 | 脚柱(ばね)定形  | 9.2      | 2.2   |       |       |
| 111  | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器  | 高台付皿    | にぶい黄褐色 | 脚柱(ばね)定形  | 7.8      | 2.4   |       |       |
| 112  | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器  | 高台付皿    | にぶい黄褐色 | 脚柱1/2     | 11.2     | 2.3   |       |       |
| 113  | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器  | 高台付皿    | にぶい黄褐色 | 脚柱1/1     | 8.2      | 2.2   |       |       |
| 114  | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器  | 高台付皿    | にぶい黄褐色 | 脚柱1/2     | 8.8      | 2.3   |       |       |
| 115  | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器  | 高台付皿    | にぶい黄褐色 | 脚柱1/4     | 8.4      | 2.0   |       |       |
| 116  | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器  | 高台付皿    | にぶい黄褐色 | 脚柱1/4     | 8.4      | 1.7   |       |       |

| 標番号 | 通称名       | 種別  | 器種   | 外面色調  | 残存状況    | 計測値 (cm) |     |      | 特徴・備考 |
|-----|-----------|-----|------|-------|---------|----------|-----|------|-------|
|     |           |     |      |       |         | 口径       | 底径  | 器高   |       |
| 117 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 高台付皿 | にぶい黄橙 | 裏～高台1/2 |          |     | 18   |       |
| 118 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 高台付皿 | にぶい黄橙 | 裏底1/3   |          |     | 8.2  | 16    |
| 119 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 杯    | にぶい黄橙 | 底はぼ定形   |          |     | 6.8  | 18    |
| 120 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 杯    | 浅黄橙   | 口～底1/2  | 134      | 84  | 23   |       |
| 121 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 杯    | 浅黄橙   | 底1/5    |          |     | 10.0 | 23    |
| 122 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 杯    | にぶい黄橙 | 口～底1/8  | 140      | 94  | 25   |       |
| 123 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 杯    | にぶい黄橙 | 底1/5    |          |     | 8.6  | 19    |
| 124 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 杯    | にぶい黄橙 | 底1/4    |          |     | 10.4 | 17    |
| 125 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 杯    | にぶい黄橙 | 口～底1/5  | 104      | 84  | 25   |       |
| 126 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 杯    | にぶい黄橙 | 底1/6    |          |     | 9.8  | 16    |
| 127 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 杯    | にぶい黄橙 | 底1/5    |          |     | 9.6  | 12    |
| 128 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 杯    | にぶい黄橙 | 底2/3    |          |     | 8.0  | 13    |
| 129 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 杯    | にぶい黄橙 | 底1/4    |          |     | 8.6  | 15    |
| 130 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 杯    | にぶい黄橙 | 底1/8    |          |     | 8.0  | 14    |
| 131 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | にぶい黄橙 | 口～底1/4  | 8.2      | 7.4 | 1.0  |       |
| 132 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | にぶい黄橙 | 定形      | 8.0      | 6.8 | 1.1  |       |
| 133 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | にぶい黄橙 | 定形      | 7.9      | 6.6 | 1.2  |       |
| 134 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | にぶい黄橙 | 口～底1/4  | 8.2      | 7.4 | 1.0  |       |
| 135 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | にぶい黄橙 | 口～底1/2  | 7.4      | 6.0 | 1.0  |       |
| 136 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | にぶい黄橙 | 口～底1/8  | 8.8      | 5.4 | 1.0  |       |
| 137 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | にぶい黄橙 | 口～底1/4  | 9.2      | 7.0 | 1.1  |       |
| 138 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | にぶい黄橙 | 口～底1/4  | 9.2      | 7.2 | 1.2  |       |
| 139 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | にぶい黄橙 | 口～底1/2  | 7.6      | 6.2 | 1.1  |       |
| 140 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | にぶい黄橙 | 口～底1/4  | 8.2      | 6.6 | 1.3  |       |
| 141 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | にぶい黄橙 | 口～底1/4  |          |     | 7.0  | 0.7   |
| 142 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | にぶい黄橙 | 口～底1/4  | 7.8      | 6.8 | 1.1  |       |
| 143 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | にぶい黄橙 | 定形      | 7.6      | 6.2 | 1.5  |       |
| 144 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | にぶい黄橙 | 口～底1/4  | 7.0      | 5.6 | 1.2  |       |
| 145 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | にぶい黄橙 | ほぼ定形    | 7.9      | 5.5 | 1.7  |       |
| 146 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | にぶい黄橙 | 口～底1/2  | 7.8      | 5.6 | 1.1  |       |
| 147 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | にぶい黄橙 | 口～底1/4  | 9.2      | 7.4 | 1.3  |       |
| 148 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | にぶい黄橙 | 口～底1/4  | 7.8      | 6.2 | 1.2  |       |
| 149 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | にぶい黄橙 | 口～底1/4  | 8.0      | 6.6 | 1.4  |       |
| 150 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | にぶい橙  | ほぼ定形    | 7.7      | 6.3 | 1.2  |       |
| 151 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | にぶい橙  | 口～底1/4  | 8.2      | 6.6 | 1.1  |       |
| 152 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | にぶい橙  | 口～底1/4  | 7.4      | 6.2 | 0.8  |       |
| 153 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | にぶい橙  | 口～底1/2  | 7.6      | 6.2 | 1.0  |       |
| 154 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | にぶい橙  | 口～底1/4  | 7.6      | 6.0 | 1.2  |       |
| 155 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | にぶい橙  | 口～底1/4  | 7.6      | 6.0 | 1.2  |       |
| 156 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | にぶい橙  | 口～底1/4  | 7.6      | 5.8 | 1.3  |       |
| 157 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | にぶい橙  | 口～底1/4  | 7.8      | 6.6 | 1.5  |       |
| 158 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | にぶい橙  | 底1/4    |          |     | 6.4  | 0.8   |
| 159 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | 明黄褐   | 定形      | 7.6      | 5.8 | 1.0  |       |
| 160 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | 明黄褐   | 口～底1/2  | 7.8      | 6.0 | 1.1  |       |
| 161 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | 明黄褐   | 定形      | 7.2      | 6.1 | 1.4  |       |
| 162 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | 明黄褐   | 定形      | 7.5      | 6.2 | 1.3  |       |
| 163 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | 明黄褐   | 定形      | 7.7      | 6.4 | 1.4  |       |
| 164 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | 明黄褐   | 定形      | 7.0      | 6.0 | 1.4  |       |
| 165 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | 明黄褐   | 口～底1/4  | 6.8      | 5.6 | 1.5  |       |
| 166 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | 明黄褐   | 定形      | 7.6      | 5.9 | 1.5  |       |
| 167 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | 明黄褐   | 定形      | 8.0      | 6.1 | 1.4  |       |
| 168 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | 明黄褐   | 定形      | 7.8      | 6.0 | 1.1  |       |
| 169 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | 明黄褐   | 定形      | 7.8      | 6.6 | 1.2  |       |
| 170 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | 明黄褐   | 定形      | 7.8      | 6.5 | 1.3  |       |
| 171 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | 明黄褐   | 定形      | 7.8      | 6.8 | 1.1  |       |
| 172 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | にぶい橙  | 口～底1/4  | 9.2      | 7.4 | 1.3  |       |
| 173 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | 明黄褐   | 口～底1/2  | 7.8      | 6.0 | 1.3  |       |
| 174 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | 明黄褐   | 口～底1/4  | 7.4      | 5.6 | 1.3  |       |
| 175 | 露岩周辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | 明黄褐   | 口～底1/4  | 8.4      | 6.8 | 1.0  |       |

| 掲載番号 | 遺構名       | 種類  | 器種   | 外面色調   | 残存状況    | 計測値 (cm) |      |     | 特徴・備考 |
|------|-----------|-----|------|--------|---------|----------|------|-----|-------|
|      |           |     |      |        |         | 口径       | 底径   | 器高  |       |
| 176  | 露岩縫辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | 明黄褐色   | 口～底1/2  | 7.6      | 6.0  | 1.2 |       |
| 177  | 露岩縫辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | 明黄褐色   | 口～底1/4  | 7.0      | 5.6  | 1.1 |       |
| 178  | 露岩縫辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | 明黄褐色   | 口～底1/4  | 8.8      | 7.0  | 1.2 |       |
| 179  | 露岩縫辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | 明黄褐色   | 口～底1/4  | 8.0      | 6.2  | 0.9 |       |
| 180  | 露岩縫辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | 明黄褐色   | 口～底1/3  | 8.0      | 7.0  | 1.3 |       |
| 181  | 露岩縫辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | 明黄褐色   | 口～底1/4  | 8.8      | 7.0  | 1.1 |       |
| 182  | 露岩縫辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | 明黄褐色   | 口～底1/4  | 8.0      | 6.2  | 1.0 |       |
| 183  | 露岩縫辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | 明黄褐色   | 口～底1/4  | 9.6      | 8.4  | 1.3 |       |
| 184  | 露岩縫辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | にぶい橙   | 口～底1/4  | 7.8      | 5.8  | 1.2 |       |
| 185  | 露岩縫辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | 明黄褐色   | 口～底1/4  | 8.0      | 6.2  | 1.0 |       |
| 186  | 露岩縫辺の出土遺物 | 土師器 | 小皿   | 明黄褐色   | 口～底1/6  | 8.0      | 6.6  | 1.3 |       |
| 187  | 遺構に伴わない遺物 | 須恵器 | 長頸壺  | 灰      | 口～頸1/7  | 14.4     |      | 5.3 |       |
| 188  | 遺構に伴わない遺物 | 須恵器 | 長頸壺  | 黄灰     | 頭～胴1/8  |          |      | 8.8 |       |
| 189  | 遺構に伴わない遺物 | 土師器 | 高台付皿 | にぶい黄橙  | 口～高台1/6 | 16.8     | 12.0 | 2.5 |       |
| 190  | 遺構に伴わない遺物 | 土師器 | 皿    | にぶい黄橙  | 口～底1/4  | 13.6     | 11.4 | 1.6 |       |
| 191  | 遺構に伴わない遺物 | 土師器 | 小皿   | にぶい黄橙  | 口～底1/4  | 9.4      | 8.0  | 1.4 |       |
| 192  | 遺構に伴わない遺物 | 土師器 | 小皿   | 明黄褐色   | 口～底1/5  | 8.0      | 6.8  | 1.4 |       |
| 193  | 遺構に伴わない遺物 | 土師器 | 小皿   | にぶい黄橙  | 口～底1/2  | 8.2      | 6.4  | 1.1 |       |
| 194  | 遺構に伴わない遺物 | 亀山焼 | 甌    | 黄灰     | 胴の一部    |          |      | 8.3 |       |
| 195  | 遺構に伴わない遺物 | 備前焼 | 瓶    | にぶい赤褐色 | 口の一部    |          |      | 5.3 |       |
| 196  | 遺構に伴わない遺物 | 陶器  | 甌    | にぶい橙   | 高台1/4   |          | 4.6  | 1.5 |       |

### 金属製品観察表

| 掲載番号 | 遺構名   | 器種 | 材質 | 計測値 (mm) |      |      | 重量 (g) | 残存状況 | 備考 |
|------|-------|----|----|----------|------|------|--------|------|----|
|      |       |    |    | 最大長      | 最大幅  | 最大厚  |        |      |    |
| M1   | 整穴住居3 | 施  | 鉄  | 52.0     | 15.0 | 51.0 | 11.5   | 刃部のみ |    |

### 土製品観察表

| 掲載番号 | 遺構名   | 種類 | 計測値 (mm) |     |     |     | 色調   | 残存状況             | 備考   |
|------|-------|----|----------|-----|-----|-----|------|------------------|------|
|      |       |    | 最大長      | 最大幅 | 最大厚 | 孔径  |      |                  |      |
| C1   | 整穴住居3 | 勾玉 | 57       | 26  | 24  | 5.0 | 26.5 | にぶい黄褐色 (10YR7/3) | ほぼ完形 |

石器・石製品観察表

| 査定番号 | 遺構名       | 器種     | 計測値 (mm) |     |     | 重量 (g)  | 石材      | 残存状況   | 備考    |
|------|-----------|--------|----------|-----|-----|---------|---------|--------|-------|
|      |           |        | 最大長      | 最大幅 | 最大厚 |         |         |        |       |
| S1   | T 5       | 石錐     | (33)     | 19  | 3   | 25      | サヌカイト   | ほぼ完形   |       |
| S2   | T 4       | 砥石     | 65       | 29  | 24  | 72.5    | 泥岩      | 完形     |       |
| S3   | T 5       | 砥石     | 104      | 36  | 24  | 151.0   | 泥岩      | 完形     |       |
| S4   | 整穴住居 1    | 石斧     | (88)     | 58  | 49  | 166.0   | 波紋岩質凝灰岩 | ほぼ完形   |       |
| S5   | 整穴住居 2    | 石錐     | (22)     | 9   | 3   | 0.5     | サヌカイト   | 先端部が欠損 |       |
| S6   | 整穴住居 2    | 石錐     | 102      | 57  | 49  | 508.0   | 波紋岩     | 完形     | 有溝    |
| S7   | 整穴住居 2    | 砥石     | 123      | 44  | 33  | 360.5   | 波紋岩     | 完形     |       |
| S8   | 整穴住居 3    | スクレイパー | 57       | 31  | 4   | 7.0     | サヌカイト   | 完形     |       |
| S9   | 整穴住居 3    | 不明     | 31       | 15  | 5   | 4.0     | 泥岩      | 完形     |       |
| S10  | 整穴住居 3    | 砥石     | 52       | 60  | 34  | 179.0   | 波紋岩質凝灰岩 | 完形     |       |
| S11  | 整穴住居 3    | 石斧     | 137      | 70  | 55  | 754.5   | 波紋岩質凝灰岩 | 完形     |       |
| S12  | 整穴住居 3    | 台石     | 372      | 358 | 150 | 37000.0 | 波紋岩質凝灰岩 | 完形     |       |
| S13  | 整穴住居 4    | 砥石     | 68       | 50  | 18  | 98.0    | 泥岩      | 完形     | 側面にも溝 |
| S14  | 整穴住居 4    | 砥石     | 84       | 73  | 33  | 268.0   | 波紋岩質凝灰岩 | 完形     |       |
| S15  | 整穴住居 4    | 砥石     | 91       | 62  | 30  | 262.5   | 波紋岩     | 完形     |       |
| S16  | 整穴住居 4    | 台石     | 215      | 176 | 153 | 13500.0 | 波紋岩質凝灰岩 | 完形     |       |
| S17  | 整穴住居 4    | 台石     | 143      | 139 | 91  | 3500.0  | 波紋岩質凝灰岩 | 完形     |       |
| S18  | 整穴住居 4    | 台石     | 167      | 103 | 77  | 2500.0  | 波紋岩質凝灰岩 | 完形     |       |
| S19  | 柱立柱建物     | 石斧     | (67)     | 80  | 36  | 23.0    | 波紋岩質凝灰岩 | ほぼ半分   |       |
| S20  | 道構に伴わない遺物 | 石斧     | (50)     | 31  | 8   | 19.5    | サヌカイト   | 2/3    |       |
| S21  | 道構に伴わない遺物 | 石斧     | 93       | 48  | 22  | 154.0   | 花崗岩     | 完形     |       |
| S22  | 道構に伴わない遺物 | 石斧     | 102      | 44  | 31  | 170.5   | 波紋岩質凝灰岩 | 完形     |       |